平成２６年度

大学院生による授業評価結果報告書
（前期分）

鳴門教育大学　大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
8	教職共通科目	30031000	学校教育の人間形成的役割	木内　陽一,山崎　勝之,皆川　直凡
9	教職共通科目	30032100	現代の諸課題と学校教育Ⅰ	小西　正雄
10	教職共通科目	30032100	現代の諸課題と学校教育Ⅰ(遠隔)	小西　正雄
11	教職共通科目	30033000	子ども理解と生徒指導	小倉　正義,葛西　真記子,吉井　健治
12	教職共通科目	30034000	子どもの発達支援	田村　隆宏,島田　恭仁,津田　芳見,塩路　晶子,木村　直子
13	人間形成	30111000	人間形成文化史研究	梶井　一暁
14	人間形成	30112000	近代教育文化史演習	梶井　一暁
15	人間形成	30113000	教育哲学研究	木内　陽一
16	人間形成	30116000	発達健康心理学研究	山崎　勝之
17	人間形成	30119000	教育認知心理学研究	皆川　直凡
18	臨床心理士養成	30421000	精神医学研究	今田　雄三,古川　洋和
19	臨床心理士養成	30422000	精神医学文献演習	今田　雄三,小倉　正義
20	臨床心理士養成	30424000	臨床心理学研究Ⅰ	吉井　健治
21	臨床心理士養成	30425000	臨床心理学研究Ⅱ	葛西　真記子
22	臨床心理士養成	30432000	学校精神保健学研究	今田　雄三
23	臨床心理士養成	30444000	臨床心理学研究法特論	葛西　真記子,吉井　健治,松嶋　秀明
24	臨床心理士養成	30446000	臨床心理面接演習	中津　郁子,粟飯原　良造,今田　雄三,葛西　真記子,吉井　健治,小倉　正義
25	臨床心理士養成	30448000	臨床心理面接研究Ⅱ	粟飯原　良造
26	臨床心理士養成	30449000	社会心理学研究	佐藤　健二
27	臨床心理士養成	30452000	心理臨床特別研究	岩宮　恵子
28	幼年発達支援	30513000	幼年期福祉研究	木村　直子
29	幼年発達支援	30516000	こころの発達支援研究	浜崎　隆司
30	幼年発達支援	30518000	幼年発達心理研究	田村　隆宏
31	幼年発達支援	30522000	幼年期教育学研究	湯地　宏樹
32	幼年発達支援	30524000	幼年発達と幼児教育内容論	塩路　晶子

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
33	現代教育課題総合	30637100	文化とコミュニケーション	太田　直也,小西　正雄,金野　誠志
34	現代教育課題総合	30638100	人間と文化Ⅰ（基礎研究）	小西　正雄
35	現代教育課題総合	30639100	人間と文化Ⅱ（地域研究Ａ）	太田　直也
36	現代教育課題総合	30643200	コミュニケーションと環境	金野　誠志,谷村　千絵,小西　正雄
37	現代教育課題総合	30646200	人間とコミュニケーションⅢ（実践研究B）	金野　誠志,谷村　千絵
38	現代教育課題総合	30647200	環境と文化	田村　和之
39	現代教育課題総合	30649200	人間と環境Ⅱ（実践研究Ａ）	田村　和之,近森　憲助
40	現代教育課題総合	30652000	現代の子どもと学校教育	谷村　千絵
41	現代教育課題総合	30662000	現代授業メディア論	林　向達
42	特別支援教育	31150000	特別支援教育コーディネーター概論	井上　とも子
43	特別支援教育	31153000	特別支援教育コーディネーター実地教育	井上　とも子
44	特別支援教育	31160000	特別支援教育学研究論Ⅰ	高橋　眞琴
45	特別支援教育	31161000	特別支援教育学研究論Ⅱ	大谷　博俊
46	特別支援教育	31164000	特別支援教育臨床心理学研究論	高原　光恵
47	特別支援教育	31166000	特別支援教育学習心理学研究論	島田　恭仁
48	特別支援教育	31168000	発達障害児病理・病態生理学研究	田中　淳一
49	特別支援教育	31171000	発達障害児生理・発達学研究	津田　芳見
50	言語系	32138000	言語教育基礎論Ⅰ	原　卓志
51	言語系	32140000	日本語Ⅰ	田中　大輝
52	言語系	32141000	日本語Ⅱ	妹尾　春子
53	言語系	32144000	日本古典語研究	原　卓志
54	言語系	32146000	現代日本語研究	茂木　俊伸
55	言語系	32148000	日本文学研究Ⅰ	黒田　俊太郎
56	言語系	32150000	日本文学研究Ⅱ	小島　明子
57	言語系	32153000	日本語教育学研究	小野　由美子

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
58	言語系	32154000	社会言語学研究	永田　良太
59	言語系	32155000	対照言語学研究	山川　　太
60	言語系	32156000	日本語文法研究	田中　大輝
61	言語系	32159000	言語習得・発達論	田中　大輝
62	言語系	32161000	日本語音声表現研究	田中　大輝
63	言語系	32173000	国語科教育学研究	村井　万里子
64	言語系	32175000	国語科授業研究	幾田　伸司
65	言語系	32179000	国語科教材開発研究	余郷　裕次
66	言語系	32183000	日本語教育法研究	小野　由美子
67	言語系	32216000	英米文化研究Ⅱ（現代文化研究）	前田　一平
68	言語系	32220000	英米文学応用演習Ⅱ	太田　直也
69	言語系	32224000	言語教育基礎論Ⅱ	藪下　克彦,眞野　美穂
70	言語系	32226000	英語学研究Ⅰ（英文法理論）	藪下　克彦
71	言語系	32227000	英語学研究Ⅱ（言語表現）	眞野　美穂
72	言語系	32230000	アカデミック・ライティングⅡ	クリス・ポープ
73	言語系	32231000	パブリック・スピーキング	ｱｰﾚﾝ　ﾆﾑﾁｬｯｸ
74	言語系	32276000	英語科教育特論Ⅰ	伊東　治己
75	言語系	32277000	英語科教育特論Ⅱ	山森　直人
76	言語系	32278000	英語科教育特論Ⅲ	畑江　美佳
77	社会系	33158100	歴史学研究Ⅰ	川岡　勉
78	社会系	33158300	歴史学研究Ⅱ	町田　哲
79	社会系	33158700	地理学研究Ⅰ	畠山　輝雄
80	社会系	33159100	地図表現学研究	立岡　裕士
81	社会系	33159300	法学・政治学研究	麻生　多聞
82	社会系	33159500	社会学研究	山本　準

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
83	社会系	33171000	社会科教育学研究	梅津　正美
84	社会系	33173000	社会科授業研究	伊藤　直之
85	自然系	34123000	数理科学研究	宮口　智成
86	自然系	34124000	数理科学演習	宮口　智成
87	自然系	34125000	代数学研究	平野　康之
88	自然系	34126000	代数学演習	平野　康之
89	自然系	34172000	数学科教育学研究	秋田　美代
90	自然系	34175000	数学科教材開発研究	佐伯　昭彦
91	自然系	34212100	物理学特論Ⅰ	本田　亮
92	自然系	34215100	物理学特論Ⅳ	本田　亮
93	自然系	34217000	有機化学特論	胸組　虎胤
94	自然系	34225100	生物科学特論Ⅱ	工藤　慎一
95	自然系	34228500	宇宙科学特論	西村　宏
96	自然系	34230000	地球科学特論Ⅱ	村田　守,香西　武,足立　奈津子
97	自然系	34233000	地質学・古生物学特論	香西　武,村田　守,小澤　大成,足立　奈津子
98	芸術系	35113000	声楽発声法	頃安　利秀
99	芸術系	35115000	ピアノ演奏基礎演習	森　正,田中　巳穂
100	芸術系	35116000	学校教材ピアノ伴奏法	森　正
101	芸術系	35129000	管弦打楽器演奏基礎	山根　秀憲
102	芸術系	35130000	指揮法基礎演習	山田　啓明
103	芸術系	35131000	楽曲分析研究	松岡　貴史
104	芸術系	35171000	音楽教育史研究	長島　真人
105	芸術系	35172000	音楽科教育研究	長島　真人
106	芸術系	35174000	音楽科授業演習	小山　英恵
107	芸術系	35211000	絵画制作研究	鈴木　久人

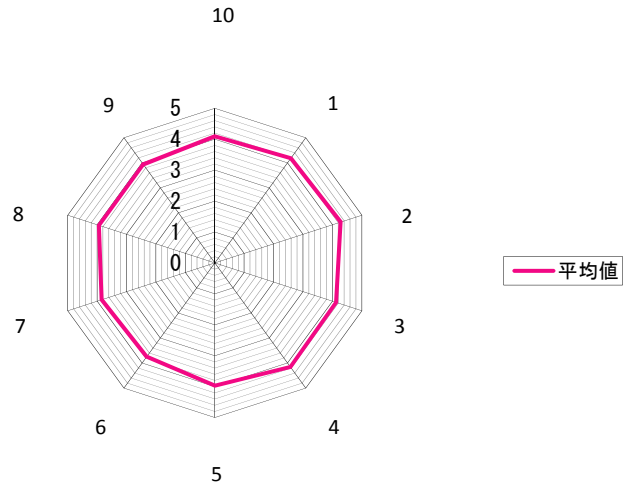
頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
108	芸術系	35217000	石彫制作演習	野崎　窮
109	芸術系	35222000	陶芸制作演習	栗原　慶
110	芸術系	35227000	芸術学研究	小川　勝
111	芸術系	35273000	美術科授業研究	山木　朝彦
112	芸術系	35274000	美術科教材開発研究	山田　芳明
113	芸術系	35276000	美術科教育研究法演習	山木　朝彦
114	生活・健康系	36115000	スポーツ社会学研究	木原　資裕
115	生活・健康系	36119000	体育・スポーツ心理学研究	賀川　昌明
116	生活・健康系	36121000	運動学研究	乾　信之
117	生活・健康系	36123000	スポーツ・バイオメカニクス研究	松井　敦典
118	生活・健康系	36129000	学校保健学研究	吉本　佐雅子
119	生活・健康系	36131000	健康科学研究	廣瀬　政雄
120	生活・健康系	36133000	運動生理学研究	田中　弘之
121	生活・健康系	36175000	体育教授学研究	綿引　勝美
122	生活・健康系	36211000	情報処理研究	菊地　章
123	生活・健康系	36215000	コンピュータ科学研究	宮本　賢治
124	生活・健康系	36219000	機械工学研究	宮下　晃一
125	生活・健康系	36221000	材料及び加工学研究	米延　仁志
126	生活・健康系	36222000	材料及び加工学演習	米延　仁志
127	生活・健康系	36224000	情報科学研究	伊藤　陽介
128	生活・健康系	36235000	木質材料加工法演習	米延　仁志,尾崎　士郎
129	生活・健康系	36271000	技術科教育研究	尾崎　士郎,宮下　晃一
130	生活・健康系	36276000	情報科教育研究Ⅱ	森山　潤
131	生活・健康系	36278000	教育と情報活用	益子　典文
132	生活・健康系	36311000	家族・ジェンダー研究	黒川　衣代

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
133	生活・健康系	36317000	食生活学研究	松永　哲郎,西川　和孝
134	生活・健康系	36319000	住生活学研究	金　貞均
135	生活・健康系	36371000	家庭科教育学研究	速水　多佳子
136	国際教育	37130000	国際教育人間論	石村　雅雄,近森　憲助,小澤　大成, 石坂　広樹
137	国際教育	37133000	教育研究・調査	石坂　広樹,小澤　大成
138	国際教育	37138000	外国語運用能力強化演習Ⅰ	石村　雅雄,石坂　広樹
139	国際教育	37181000	国際理解教育特論Ⅰ	近森　憲助,小澤　大成
140	国際教育	37184000	国際教育総合セミナーⅠ	石村　雅雄,近森　憲助,小澤　大成, 石坂　広樹

結果報告書

授業科目名　学校教育の人間形成的役割
評価実施日　平成26年7月30日
担当教員名　木内　陽一,山崎　勝之,皆川　直凡　　回答者数　32　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	15	9	7	1			4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16	12	2	1	1		4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	15	3	1	1		4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	13	13	5		1		4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	11	12	7	1	1		4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	15	6	3	1		3.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	12	6	3	1		3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11	11	8	1	1		3.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	11	10	1			3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	13	13	3	2	1		4.1



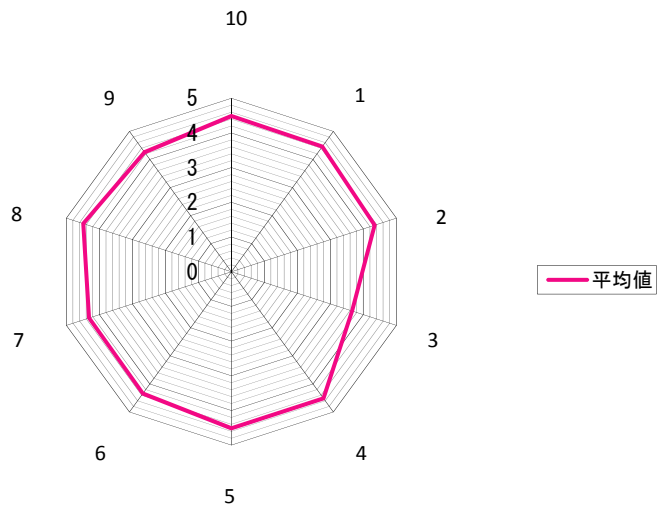
教員のコメント

総合評価の平均値は4.1と高く，かつ4以上の評定者が80%を超えたことから，受講生の多くは，この授業におおむね満足していたといえる。項目別に見ると，授業の内容についての3項目は平均値が4.1以上であり，かつ4以上の評定者が80%前後を超えていたことから，受講生の多くは，授業の内容におおむね満足していたといえる。一方，教員の授業の進め方のうち，受講生への説明のわかりやすさ，教科書・資料配付，および板書・視聴覚機器の利用については，平均評定値が4を下回り，3以下の評定者も受講生全体の3分の1近くを占めたことから，改善の余地があると考えられる。受講者の授業への取り組みについても，主体性・積極性が向上させる工夫が求められる。

結果報告書

授業科目名　現代の諸課題と学校教育Ⅰ
評価実施日　平成26年7月29日
担当教員名　小西　正雄　　回答者数　35　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	20	13	1		1		4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	20	9	4	2			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	8	10	1	4		3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	25	7	1		2		4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	22	10	2	1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	17	14	3	1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	17	13	4	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	19	14	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	18	4				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	20	13	1	1			4.5



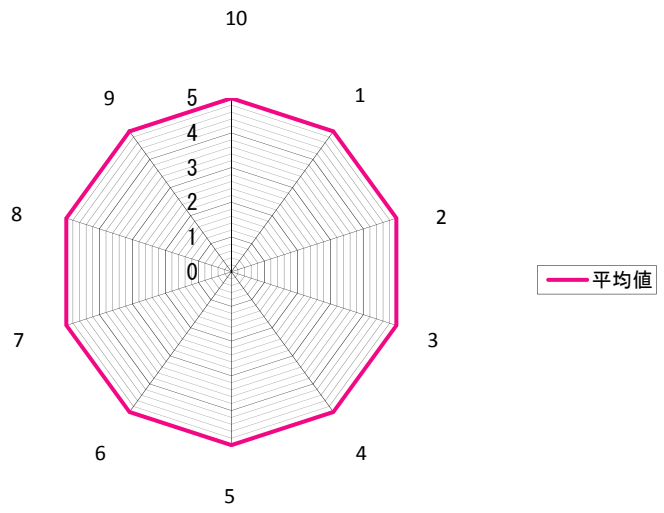
教員のコメント

総合評価4．5という数値であり、そこそこ満足のいく結果であった。項目ごとの評価もおおむね良好であったが、唯一(3)の評価が低い。
この原因として考えられるのは、受講生と教員とのあいだに「実践力の育成につながる」という言葉の解釈のズレがあると考えられる。受講生は、教職未経験者が多く、「実践力」を目先のテクニック的なものと想像しがちである。しかし彼らが考えるような即戦力ばかりを教育現場は求めていない。今後は、実践力とは何かについての共通理解をできるだけ図った上での授業展開を心がけたい。

結果報告書

授業科目名　現代の諸課題と学校教育Ⅰ(遠隔)
評価実施日　平成26年7月30日
担当教員名　小西　正雄　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



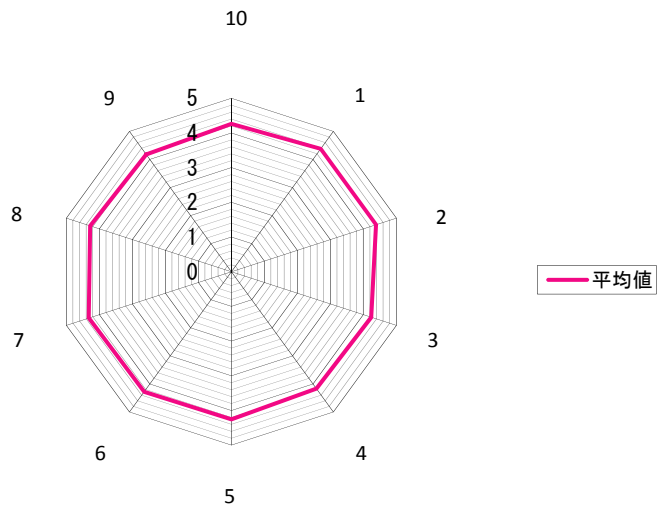
教員のコメント

総合評価5．0ということで、これをはげみに今後も一層精進したいと考える。

結果報告書

授業科目名　子ども理解と生徒指導
評価実施日　平成26年7月30日
担当教員名　小倉　正義,葛西　真記子,吉井　健治　　回答者数　169　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	90	57	19	2	1		4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	95	49	22	1	2		4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	82	55	27	1	4		4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	73	60	29	5	2		4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	81	56	26	6			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	85	53	25	5	1		4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	83	62	21	1	2		4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	84	51	30	2	1	1	4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	71	58	37	2		1	4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	82	55	24	4	2	2	4.3



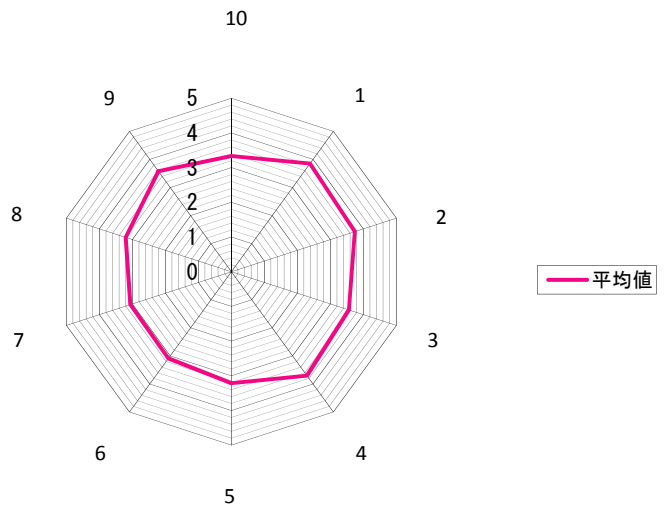
教員のコメント

前年度の反省点を踏まえて，今年度臨みました。アンケートからは読み取りにくいところかとは思いますが，初期にエンカウンターやワークショップを行っていることによって，大人数ではありますが，参加できる授業として成立しているのではないかと考えています。今後，アンケートの自由記述でご指摘いただいた点を考慮に入れつつ，他の授業との関連性もより意識して授業内容・授業方法の見直しを行い，より学生の皆様にとって意味のある授業をつくっていきたいと思います。

結果報告書

授業科目名　子どもの発達支援
評価実施日　平成26年7月29日
担当教員名　田村　隆宏,島田　恭仁,津田　芳見,塩路　晶子,木村　直子　回答者数　159　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	41	64	44	10			3.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	41	54	46	18			3.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	37	46	48	25	3		3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	39	52	50	15	2	1	3.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	28	33	50	41	7		3.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	24	33	49	39	14		3.1
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	22	30	55	40	12		3.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	23	43	49	31	13		3.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	30	58	46	22	2	1	3.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	24	44	56	29	5	1	3.3



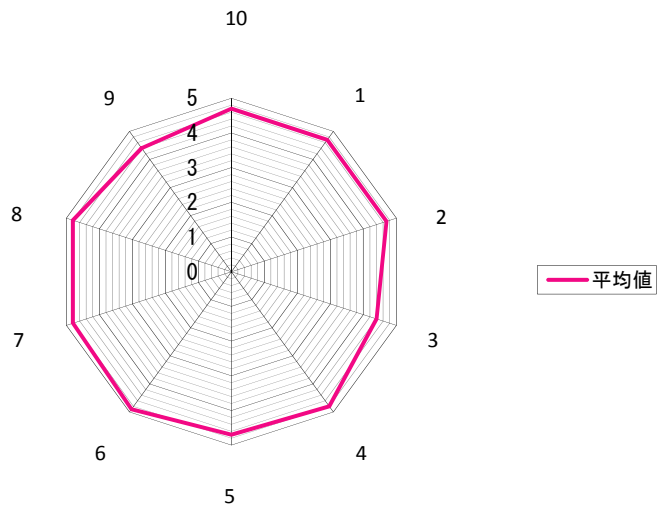
教員のコメント

各項目の評定値をみると，(1)～(4)，(9)の項目で3．5以上であり，これらの項目内容については概ね肯定的な評価を受けている結果となった。しかしながら，(5)～(8)，(10)の項目では，中央値3（どちらでもない）を僅かに超える程度の評定値であった。今後の講義では，特に授業の進む速さを適切なものにすること，受講生に対して分かりやすく説明すること，教科書や配付資料等を適切なものにすること，板書や視聴覚機材の使用を適切なものにすること，などに配慮する必要がある。また，今後改善して欲しいことに関する受講生のコメントでは，「複数の教員による授業で，内容に重複するものがあった」，「パワーポイントで提示された時間があまりにも短すぎて，内容がノートに写せず困った。ノートに写す時間がないのなら，配付資料が欲しい」といった内容が特に多かったことから，授業で取り上げる内容の再吟味と授業内容の提示の仕方についての再検討が必要である。

結果報告書

授業科目名　人間形成文化史研究
評価実施日　平成26年9月18日
担当教員名　梶井　一暁　　回答者数　10　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	3					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	4	1				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	2					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	1	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4	1				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	3					4.7



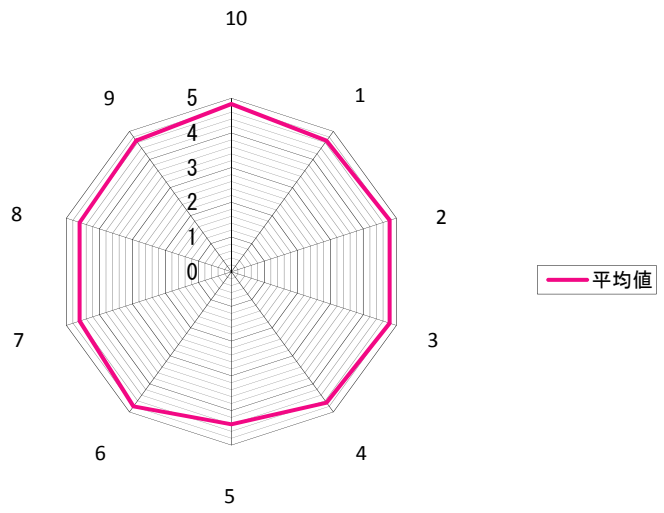
教員のコメント

受講者から一定の評価を得たと考える。
授業は集中講義で行った。準備したテーマと資料について、やや多いかもしれないとも感じていたが、およそ受講者はうまく吸収してくれたようであり、ありがたく思う。
人間形成や教育に関する歴史的考察が本授業の基本構成となり、いわゆる「教師の実践力の育成」(3)には直結しにくい側面をもつものかもしれない。受講生において「専門的知識を深める」(2)経過とその獲得を通じて、人間形成や教育の現在を相対化し、分析する長期的視角が少しでも形成されるなら、幸いに思う。今後も授業の改善を図りたい。

結果報告書

授業科目名　近代教育文化史演習
評価実施日　平成26年9月24日
担当教員名　梶井　一暁　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				1	4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				1	4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	3				1	4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				1	4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	2				1	4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2				1	4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



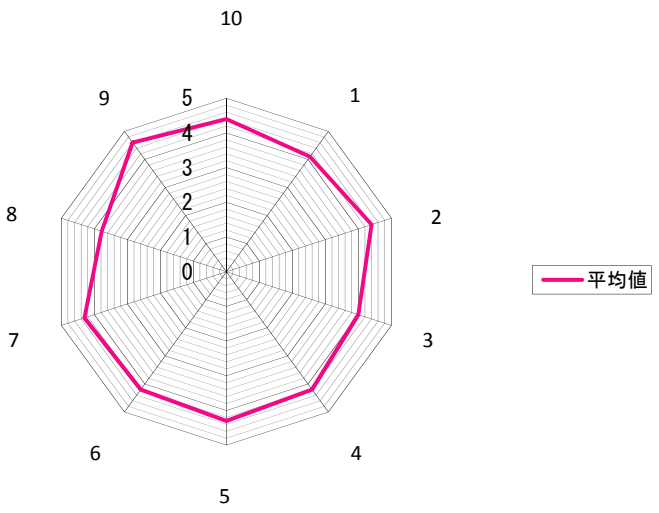
教員のコメント

受講者から一定の評価を得たと考える。
授業は鳴門地域の教育史跡・史料を積極利用し、主にフィールド・ワークと史料演習を行った。地元が伝える歴史・教育史に触れ、それをまなざすことの意義を考えるためである。
フィールド・ワークは幸い天候にも恵まれ、野外での史跡調査は大きな支障なく実施でき、安堵している。受講者の参加態度も、現地への移動を含め、協力的であった。
史料演習は受講者によって、あるいは選んだ史料によって、調査から発表までの作業経過において、時間がじゅうぶんであったり、足りなかったり、差があったようである。いっそう配慮して演習をすすめたい。
なお、史料の準備にかかわり、附属図書館から便宜を賜った。記して謝意を表したい。

結果報告書

授業科目名　教育哲学研究
評価実施日　平成26年7月31日
担当教員名　木内　陽一　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	3	3				4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	6					4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3	2	1			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	4	2				4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	5	1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	4	2				4.2
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	5	1				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2	3	1		1	3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4					4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	6					4.4



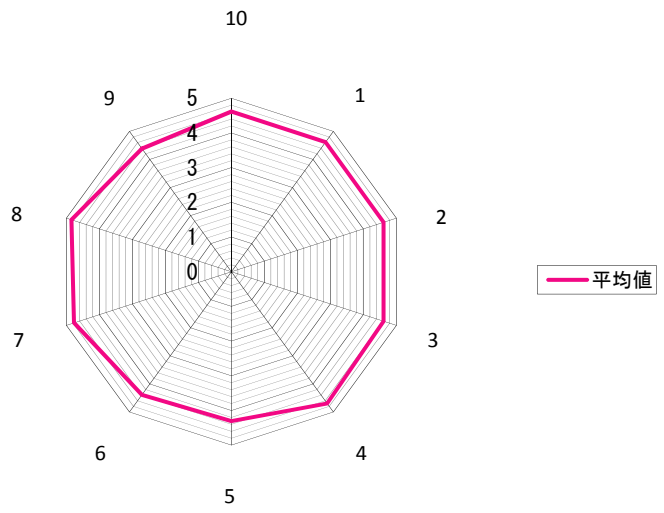
教員のコメント

ドイツ・ベルリン大学のヘーゲル教授と、鳴門教育大学の木内教授は似ているところがある。それは受講生との出会い、受講生との交流を心底楽しみにしているということである。本年度の受講生は、年齢差が大きくて、それはそれで様々な見方を知ることになり、受講生も木内も有意義な時間を過ごせたと思う。本講義では、近代日本の代表的哲学者、西田幾多郎の著書『善の研究』を受講生が分担してレジュメをつくり、レポートして議論を深めるということをしている。こうした進行形式なので、視聴覚機器は使用せず、板書も最小限度しかしない。したがって評価が低いのはやむをえない。西田幾多郎と教育学は一見何の関係もないように見えるが、近年、京都大学の矢野智司教授が指摘しているように、西田哲学は近代日本の教育学の発展に、重大な役割を果たしてきたとも解釈できる。今後は矢野教授のお仕事も参照して、更に西田哲学と近代日本の教育学とのつながりがよりくっきりと浮かび上がるように、授業を構成していきたい。また、定年まであと5年となったので、この5年間でドイツ・ロマン主義についてさらに考えていきたいと思う。西田との取り組みは続けるつもりであるが、ドイツ・ロマン主義との関連にも留意した内容になっていくであろう。評価が低い教育実践力とのつながりについてふれよう。実践力とのつながりかたは多様であり、今の時点から見て、つながるか、つながらないかは容易には断定できないと思う。また、学問の真骨頂は、問題を「解決」することではなく、問題を「提起」することにあると思う。国際的な視点でも、「問題提起力」が日本人には弱いと思う。可能ならば、受講生に外国人留学生を迎えて、こんな点も考えていきたいものである。

結果報告書

授業科目名　発達健康心理学研究
評価実施日　平成26年7月29日
担当教員名　山崎　勝之　　回答者数　13　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	5					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	3	1				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	3	1				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	4					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	4	1	1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	4	2				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	3					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2	3				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	5					4.6



教員のコメント

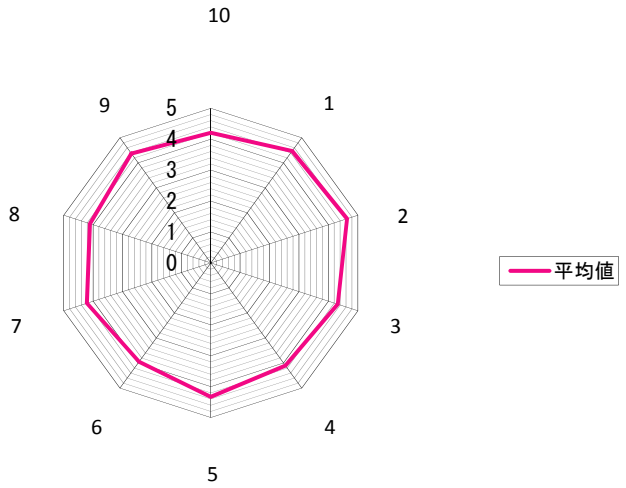
例年どおり、総合評価は4.5を越えることができた。評価で低い箇所は、進む速さ、わかりやすさ、受講生の積極的な取り組み（それでも4.5弱あるが）であり、残念ながら、これらも例年どおりである。積極的な取り組み度の評価は低いわけではないが（4.4）、さらに高める工夫が必要である。

これはこの授業自体の問題でもあろうが、大学院でありながら全体の授業数の多さや実習など他の必要事の多さもマイナス面になっていることが推測される。とくにこの授業では、積極的な取り組みを必須とし、強く要請していることから、受講生にも不十分感が高まるのであろう。両要因の方向から改善を検討したい。

結果報告書

授業科目名　教育認知心理学研究
評価実施日　平成26年7月22日
担当教員名　皆川　直凡　　回答者数　19　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	6	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	7					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	9	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	5	6				4.1
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	6	3			1	4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	7	3	1	1		3.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	8	2	1			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	10	2	1			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	12					4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	8	2	1			4.2



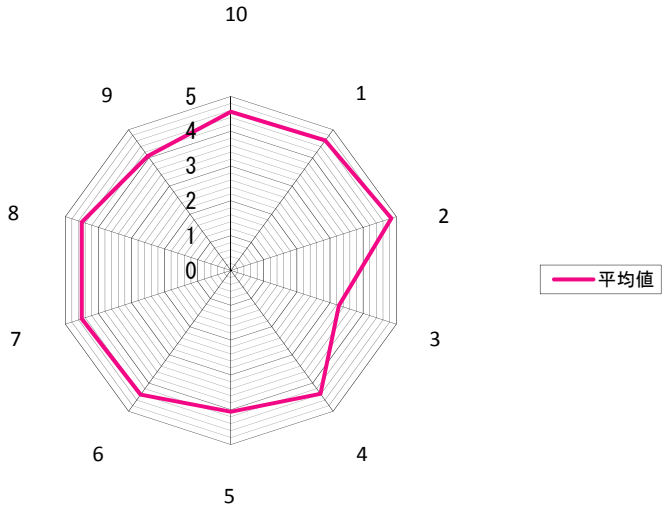
教員のコメント

総合評価の平均値は4.2と高く，かつ4以上の評定者が85%近くを占めたことから，受講生の多くは，この授業におおむね満足していたといえる。項目別に見ると，授業の内容についての3項目は平均値が4.3～4.6であり，かつ4以上の評定者が90%前後を超えていたことから，受講生の多くは，授業の内容におおむね満足していたといえる。特に，「専門的知識を深める」の項目は高い評価を得ており，専門科目としての役割を果たしたと言えるが，いっそうの向上を期したい。一方，教員の授業の進め方についても大半の項目において平均値4.1以上の評価を得ており，受講生の多くは，おおむね満足していたといえる。ただ，唯一「受講生にわかりやすく説明した」の項目だけが平均評定値が4を下回り，3以下の評価者も5名いたことから，改善の余地が示唆された。受講者の授業への取り組みについても高い評定値を得たが，今後とも，主体性・積極性が向上させる工夫を怠らないようにしたい。

結果報告書

授業科目名　精神医学研究
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　今田　雄三,古川　洋和　　回答者数　35　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	23	9	2			1	4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	29	5				1	4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	12	11	7	1	1	3.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	17	13	4			1	4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	12	15	4	3		1	4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	19	11	3	1		1	4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	20	11	3			1	4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	19	13	2			1	4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	16	5	2		1	4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	20	13	1			1	4.6



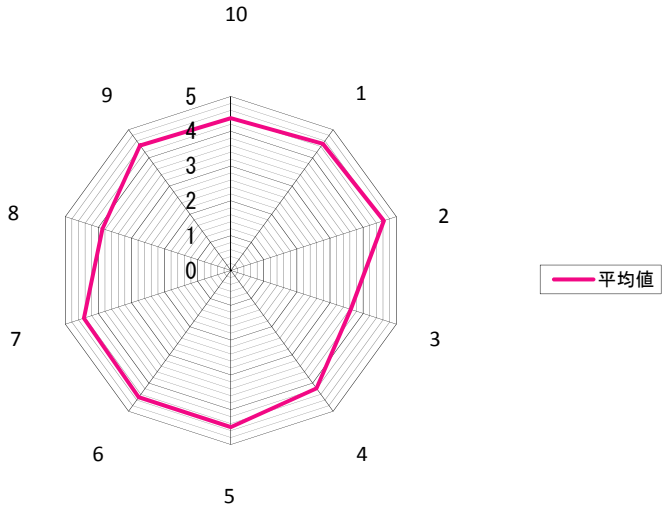
教員のコメント

質問10項目中9項目での評価が4.0点以上であり、総合評価(10)「この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。」では4.6点と評価されており、受講生からは高い評価を得られたものと考える。評価の平均点が唯一4点に達していなかった、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」に関して2点以下の評価を行っていた受講者の自由記述の内容を確認したが、この項目の評価が低くなった理由は特に記述されていなかった。他の受講者の自由記述の内容を参考に推測すると、本授業について「精神医学の知識を身につけることができた」ことを評価する者は多かったものの、精神医学の知識が教育現場においてどのように生かされるのかを十分に感じ取れなかった受講生がいたのかもしれない。今後は精神医学の実践知が、教員の実践力向上にとっても重要であることが十分に伝わるよう、より丁寧な導入、解説や具体例の紹介などを検討したい。また自由記述では、[3]の授業の改善点として、「情報量が多すぎる」という意見が見られた。精神医学の学問としての特質上、一定量の情報を学習者が習得した上で初めて成立するものであり、必然的に多くの情報を提示することになるのだが、今後は限られた授業の枠の中で提示する情報の量を吟味し直したい。「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」に関する自由記述では、「興味が持てた」「わかりやすく教えてもらった」「将来の自分に役立つ知識だと思った」「積極的に話を聞いた」という肯定的な記述がある一方、「授業でよくわからなかった点があった」「文字が多く、少し眠くなることがあった」という受講者自身の姿勢について反省する記述も見られた。今回のアンケート結果を参考にして、次年度以降は授業で提示する情報量を吟味し、また受講生がより主体的・積極的に授業に取り組める工夫をしていきたい。

結果報告書

授業科目名　精神医学文献演習
評価実施日　平成26年7月30日
担当教員名　今田　雄三,小倉　正義　　回答者数　16　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	8					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	6					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	6	5	2			3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	6	2	1			4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	8					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	6	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	6		1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	9	3	1			3.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	9					4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	7		1			4.4



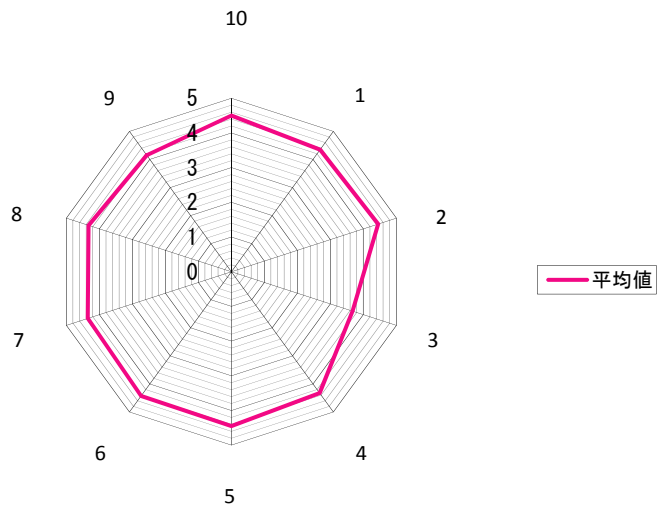
教員のコメント

質問10項中8項目での評価が4.0点以上であり、総合評価(10)「この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。」の評価では4.4点と評価されており、受講生からは高い評価を得られたものと考える。評価の平均点が4点に達していなかった2項目のうち、質問項目(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった」に関しては、今年度の本授業の前半で海外のいじめの現状に関する文献をテキストとして用い、教師の実践力の育成に関連したテーマを取り上げたにもかかわらず、やや以外な結果となった。引き続き、専門領域についての知見を深めるため、必要に応じて外国語の文献に当たることは、教育者として学問の本質に触れる貴重な機会であることを受講生に喚起していきたい。また、質問項目(8)の「板書や視聴覚機器の使用は，適切であった」に関しては、本授業が翻訳を担当したグループがレジメを配布して読み上げて検討する形式を取っており、板書や視聴覚機器をあまり利用していなかったことに由来すると思われる。今後は必要に応じて板書や視聴覚機器の利用も取り入れたい。なお自由記述では「英語の文献を読む機会となった」ことや、「いじめの海外での研究動向や、精神疾患の最新の診断基準であるDSM-5などの内容に触れることができた」ことを評価する記述が多くみられた。一方課題としては「自分たちの翻訳の分担は一生懸命やったが、他のグループのところはただ聞くだけになった」という感想があり、「もう少し話し合いなどがあればよかった」という意見も寄せられていた。アンケート結果を反映させた、効果的な授業の構成について引き続き検討したい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学研究Ⅰ
評価実施日　平成26年7月31日
担当教員名　吉井　健治　　回答者数　40　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	19	17	3	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	23	12	5				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	8	10	7	1		3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	19	16	4	1			4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	20	18	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	23	12	4	1			4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	20	15	4	1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	17	19	4				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	14	8		1		4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	23	14	3				4.5

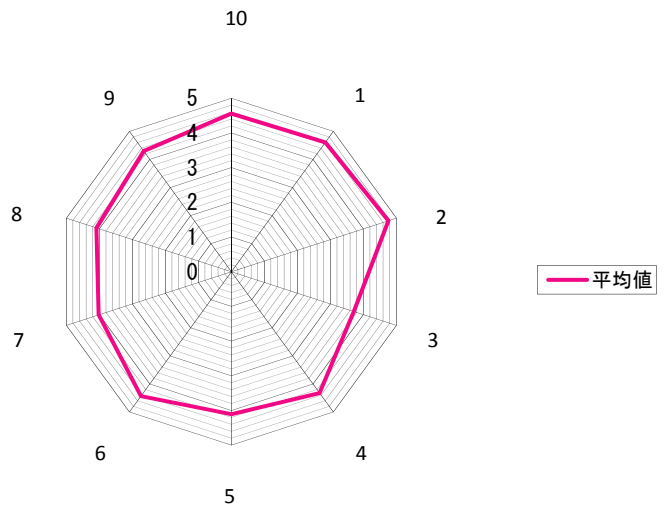


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　臨床心理学研究Ⅱ
評価実施日　平成26年7月18日
担当教員名　葛西　真記子　　回答者数　46　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	29	16	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	36	9	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	15	9	15	5	1	1	3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	25	12	8	1			4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	19	15	10	2			4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	25	17	3	1			4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	17	16	10	3			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	19	13	13	1			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	20	17	7			2	4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	29	12	4			1	4.6



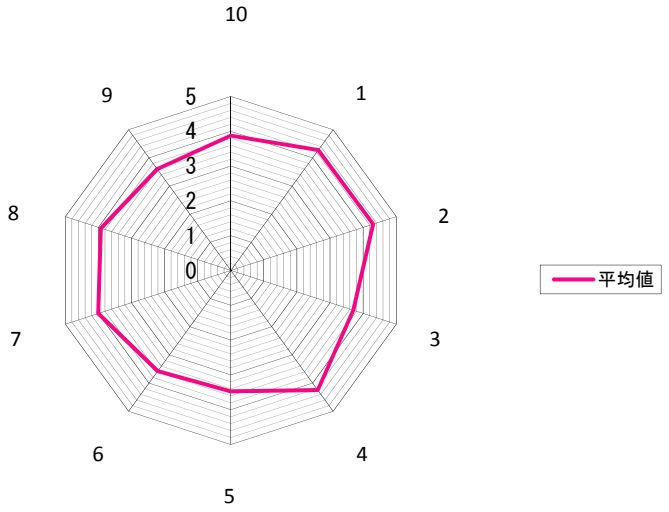
教員のコメント

例年と同様に受講生からの総合評価は高く4．6であった。また、これも例年と同様に、「教師の実践力の育成につがなる内容であった」が一番低く、3．7であった。しかし、「そう思う」が15人、「ややそう思う」が9人で、半数以上は、高評価であった。授業の内容としては、上級者向けの臨床心理学の理論と実践であり、教師というよりも臨床心理士を対象に講義をしているので、このような結果となったと考えられる。また、昨年は、学校現場ではという内容を1コマ設けていたが、今年度は、各コマで触れるようにしたためはっきりとした印象をうけなかったのかもしれない。　　自由記述からは、「具体的な臨床事例が聞けて良かった」「専門的であった」「実体験を具体的に説明してくれ理解しやすかった」「精神分析について理解が深まった」「内容が興味深かった」「実際に理論をどう使うのかテクニックが理解できた」「本の理論から実際のカウンセラーとクライエントの間に起こっていることとつながってわかりやすかった」と講義者が意図した内容が十分伝わっていたことがわかる。また、講義者が「楽しそうに話していて興味深く聴けた」「楽しかった」等、意図しなかった内容であるが、受講生の学習意欲の向上にもつながったようである。

結果報告書

授業科目名　学校精神保健学研究
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　今田　雄三　　回答者数　40　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	14	23	3				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16	20	4				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	19	13	1	1		3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	19	14	5	2			4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	17	7	10			3.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	17	12	4	1		3.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	23	5	1	1		4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11	18	8	3			3.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	24	10	4			3.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	16	10	3			3.9



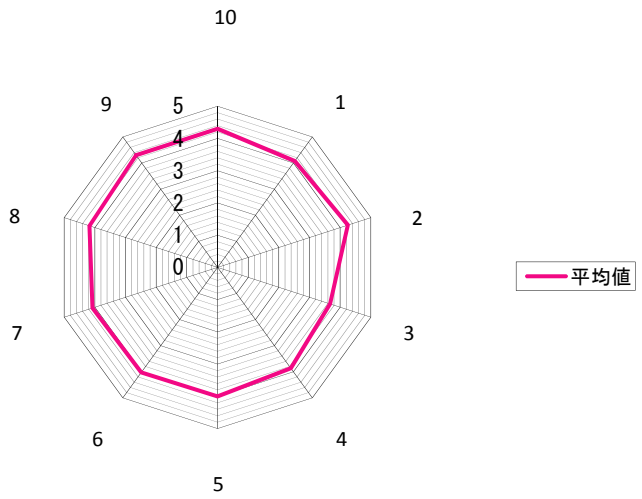
教員のコメント

(1)～(10)の各項目ごとの評価では(1)、(2)、(4)、(7)の4項目で4点台を、(3)、(5)、(6)、(8)、(9)、(10)の6項目で3点台後半(3.5～3.9点)を獲得し、本授業は受講生から一定の評価を得たものと考える。4点台を獲得した項目からは、本授業のシラバスや成績評価の説明、専門的知識を深める授業内容、配付資料などの点では特に高い評価を得られたものと思われるが、3点台後半であった項目からは、授業の進む早さ、授業のわかりやすさ、授業への主体的な取り組みに関しては改善の余地があることが示された。自由記述では「授業のスピードが速い」「情報量が多くて知識を吸収できない」という意見が多く見られたため、今後は授業内で取り上げる内容を厳選し、より発展的な内容については文献を紹介し自主的な学習を促す形式を導入したい。また授業の進め方に関しての自由記述では「PowerPointの文字量が多い」「PowerPointの画面を読み上げるだけになっている」といった指摘もあり、それについても完全に取り組みたい。なお講義形式主体の授業のため、どうしても受講者が受け身的になってしまう傾向があり、今年度は授業内での短い演習や、事例の紹介などに加え、思春期の心理を描いた映画を上映して感想を提出してもらい、フォードバックを行うという試みを取り入れたが、自由記述においては工夫を評価する意見も見られた。次年度以降も授業の形式をさらに工夫し、受講生がより主体的・積極的に授業に取り組めるようにしていきたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学研究法特論
評価実施日　平成26年9月12日
担当教員名　葛西　真記子,吉井　健治,松嶋　秀明　　回答者数　40　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	12	22	3	3			4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	17	17	5	1			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	15	13	1	2	1	3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	22	10			3	3.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	10	22	6	2			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	22	4	3			4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	25	3	2			4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	14	20	5	1			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	18	16	6				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	16	21	2	1			4.3



教員のコメント

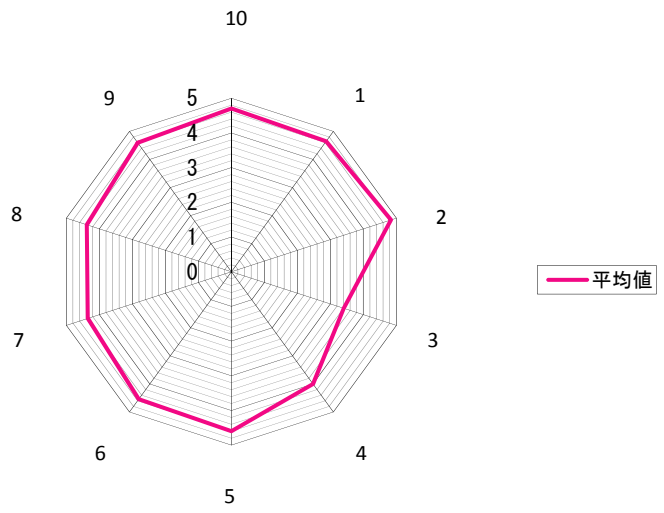
ほとんどの項目の平均値が4.0以上だったので、高い評価が得られたといえよう。この授業で良かった点について、自由記述は次の通りだった。全体的には、「研究法をいろいろ学ぶことができた」という感想があった。授業後半の集中講義では、「質的研究法を学べた」ことが良かったという感想があった。「質的研究について短い時間の中で，とても多くの内容を教えていただいた。言葉の大切さや，文脈，会話を客観的に見ることの大切さを改めて感じることができた」、「今後の研究に役立つような知識を得ることができた」など大変好評であった。また、集中講義の授業方法については、「グループになって実際にインタビュー体験を行うことによって質的研究の方法を具体的に知ることができた」、「理論を実践につなげることができた」などの感想が述べられていた。さらに、「普段話さない人と話すことができたのはとても良かった」、「グループ活動が楽しかった」など、学生同士の交流という点でも良かったという感想があった。

他方、この授業で改善すべき点について自由記述で書いてもらった。複数名の担当教員がいるので、「日程がわかりにくかった」という意見があった。また、「具体的な説明が欲しかった」、「もう少し説明の時間が欲しいと思った」などがあった。

結果報告書

授業科目名　臨床心理面接演習
評価実施日　平成26年7月31日
担当教員名　中津　郁子,粟飯原　良道,今田　雄三,葛西　真記子,吉井　健治,小倉　正義　回答者数　37　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	26	9	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	32	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	7	10	4	5		3.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	20	7	1			4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	24	11	2				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	24	10	2	1			4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	18	14	5				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	19	14	3	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	24	11	2				4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	27	9	1				4.7



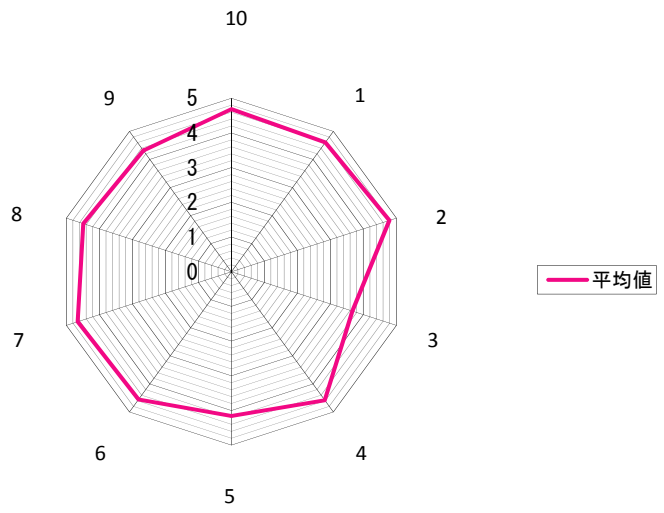
教員のコメント

この授業は院生が6つのグループ(1グループが7～8人)に分かれて，ロールプレイを行いグループ討議をするという授業である。面接場面での傾聴技法の習得など，相談室での面接を担当する上では重要な授業である。前年と同様，総合評価が4.7ととても高い評価になっている。院生にとって満足のいく授業であったと考えられる。しかし，「(3)教師の実践力」に関する項目が昨年と同様に3.4と低くなっている。これは，毎年のことであるが，教師を目指していない学生がほとんどなのでイメージがしにくい項目である。昨年低かった「(4)成績評価」に関する項目は，やや改善した。学生への事前の説明を改善した効果のようだ。院生のコメントを見ると，良かったこととしては，「小人数で」，「実践的」で，「専門的」な授業であったことや，「適切な意見や指導を得られた」ことや「自分を客観視でき」，「自分の癖や面接スタイルを知る」，「良い点や課題等が明確になった」ことを多数の人があげていた。また，改善点としてあげられていたことは昨年に比べほとんどなく，「回数が少ない」というようなことだった。昨年はグループによるやり方の違いについての不満が見られていたが，今年度はほとんど見られなかった。これも，昨年の反省を受けて担当教員で共通理解をしたり，事前の説明を改善した効果であるとも考えられる。学生が「授業に主体的・積極的に取り組んだ」理由についての回答では，この授業は「臨床現場での実践につながると実感した」や「実力を伸ばす訓練」と思ったことや「将来の仕事に関する大事なこと」であることなど臨床家として大事な授業の一つであることが自覚されていた。その他，「本を読んで勉強しようと思った」や「まだ実力不足なので最低限のことが出来るようになりたい」「自己理解のための気づきや自分をどう生かすかなどを教えてもらった」などの感想があった。「機器など初めて扱うものが多く苦労した」という意見があったが，事前の説明を今後も充実させていきたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理面接研究Ⅱ
評価実施日　平成26年7月17日
担当教員名　粟飯原　良造　　回答者数　38　人

質　問　項　目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	27	8	2	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	33	3	1	1			4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	9	11	3	2	2	3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	26	9	2	1			4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	16	16	3	2	1		4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	25	10	2	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	28	8	1	1			4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	24	8	4	1		1	4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	20	12	4	2			4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	30	5	2	1			4.7



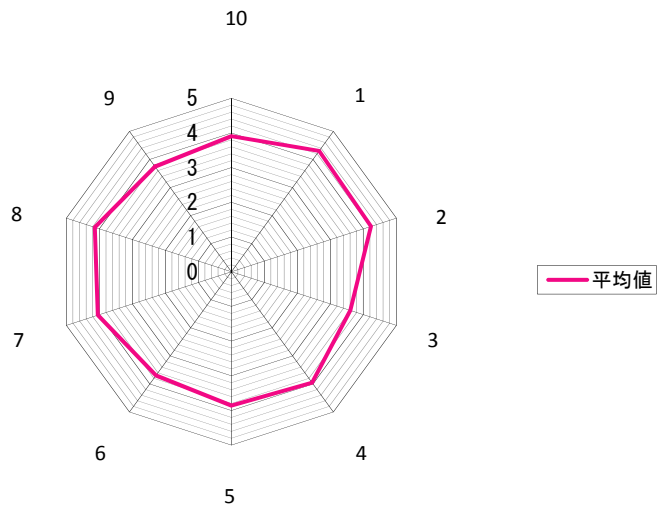
教員のコメント

本講義に対する総合評価は4.7であった。質問項目別では，(3)教師の実践力の育成の項目が3.7と最も低かった。本講義は臨床心理士資格を取得する大学院生を対象にしていることと，面接技法や理論が日常にも活用できるという視点が足りなかったと思われるので，来年度以降は，「日常に使える面接理論と技法」という視点でも講義を行いたい。(9)授業に主体的・積極的に取り組んだは4.3と他の項目に比べると低かったので，グループワークを増やして受講生が発表する場を提供する必要があると考えられる。他の項目は4.5以上であり，受講生の受講動機と講義内容に大佐がな方と思われる。自由記述では，レジメを冊子にしたことで予習や復習がしやすかった9名，実技による教員からのコメントやワークが実践に繋がった14名であり，丁寧な講義であった3名と実技とレジメを冊子にしたことが好評であり，今後も続けていきたい。

結果報告書

授業科目名　社会心理学研究
評価実施日　平成26年9月26日
担当教員名　佐藤　健二　　回答者数　43　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	20	16	7				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	17	19	7				4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	13	17	3	1		3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	12	18	12	1			4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	22	12	1			3.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	17	12	5			3.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	14	19	8	2			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	17	17	7	2			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	20	9	4	1		3.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	22	8	3			3.9

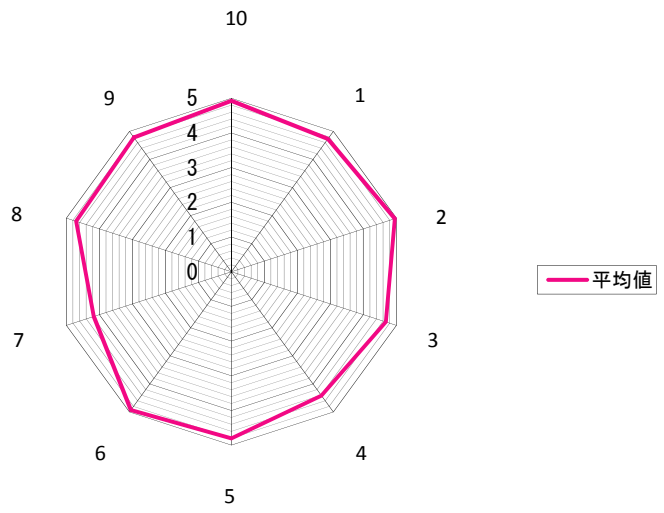


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　心理臨床特別研究
評価実施日　平成26年9月18日
担当教員名　岩宮　恵子　　回答者数　41　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	31	9	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	39	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	31	7	3				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	23	12	6				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	33	8					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	38	3					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	20	9	11	1			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	31	8	2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	33	7	1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	38	3					4.9



教員のコメント

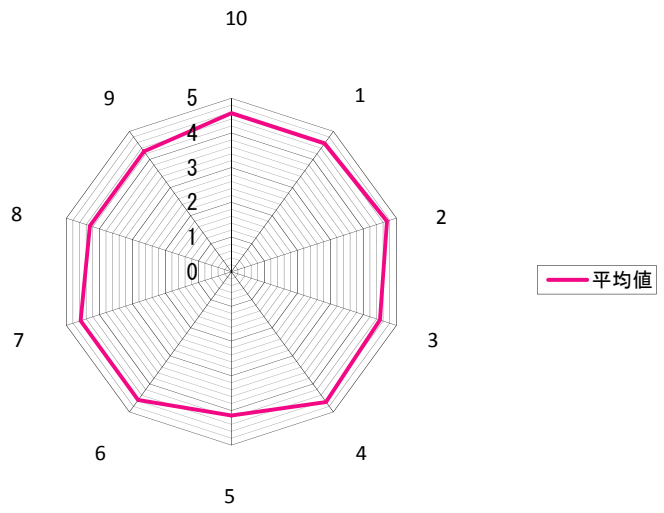
鳴門教育大学　院生のみなさま
お元気ですか。9月はお世話になりました。
私は普段、教育学部の学生さんとの付き合いが深いので、教育大学の院生であるみなさんとは、とても身近な気持ちで講義をさせていただきました。
とても興味をもって教育現場における臨床心理の考え方を聞いていただけて、とても嬉しかったです。熱心なみなさんのオーラに、とても刺激を受けました。
ケース検討では日頃の臨床のありようを聞かせていただき，それにコメントするチャンスをいただけたのは、学びをより具体的にするうえでとても良かったです。
ケースを出してくださった方々、フロアから発言をしてくださった方たち、そして熱心にコミットして聞いていてくださっていたフロアの方々、ほんとうにみんなで作り上げた授業だったと思います。
ほんとうにありがとうございました。
今度お目にかかるときには、お互いに臨床家同士だと思います。
これからもずっと臨床の勉強に取り組み続けていきましょう。
どうぞ、みなさん、お元気で！

島根大学　岩宮恵子

結果報告書

授業科目名　幼年期福祉研究
評価実施日　平成26年7月24日
担当教員名　木村　直子　　回答者数　14　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	4	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	4					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	7					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	5					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	5	2	1			4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	2	2				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	4	1				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	3	2	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6	2				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	4	1				4.6



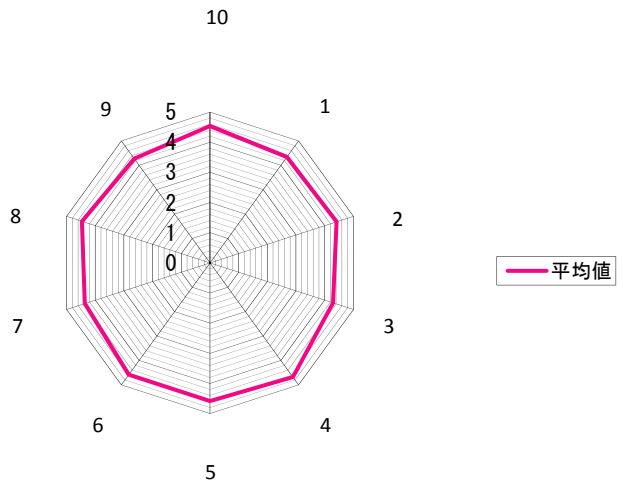
教員のコメント

今年度も様々なコースの方が履修してくださった。今年度は、色々な点から考えさせられることの多い講義となった。一定水準の評価を得られてはいるが、反省点が多かった。今年度も昨年度等に引き続き、対話型の授業を行ったが、昨年はそのことが受講生の満足につながっていた。しかし、今年度は、対話型の授業の難しさを教員として実感する機会につながった。そのことは、「授業の進む速さ」や「板書・視聴覚資料の提示の仕方」への評価や、院生からのコメントが「積極的に取り組めた」という内容から「ついていけないことがあった」まで、両極に分かれている点にも、よく表れているように思う。次年度は今年度のコメント等も十分考慮し、今一度授業の組み立て、資料を刷新して臨みたい。

結果報告書

授業科目名　こころの発達支援研究
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　浜崎　隆司　　回答者数　41　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	19	17	5				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	21	16	4				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	17	19	5				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	30	9	2				4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	26	13	2				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	25	15	1				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	21	14	6				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	25	10	6				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	18	18	3	2			4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	24	15	2				4.5



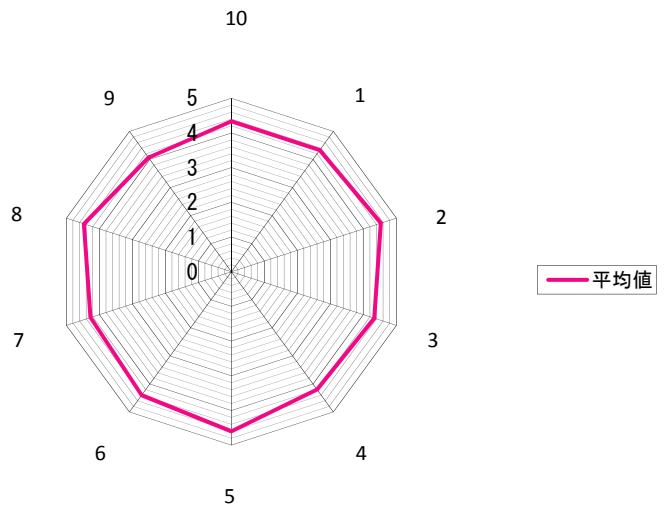
教員のコメント

総合的評価が4.5とおおむね授業に対する評価は高かった。講義だけでなく、視聴覚教材をを用いて、最新の子どもの心理発達に関する映像を示し、主要な理論や最新の理論を交えて解説するようにしている。次年度以降、教員と幼児、児童との人間関係を中心に最新の理論を紹介する。

結果報告書

授業科目名　幼年発達心理研究
評価実施日　平成26年7月31日
担当教員名　田村　隆宏　　回答者数　15　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	6	2				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	5	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	6	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	8	2				4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	6					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	5	2				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	4	2	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	6	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	10	2				4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	6	2				4.3



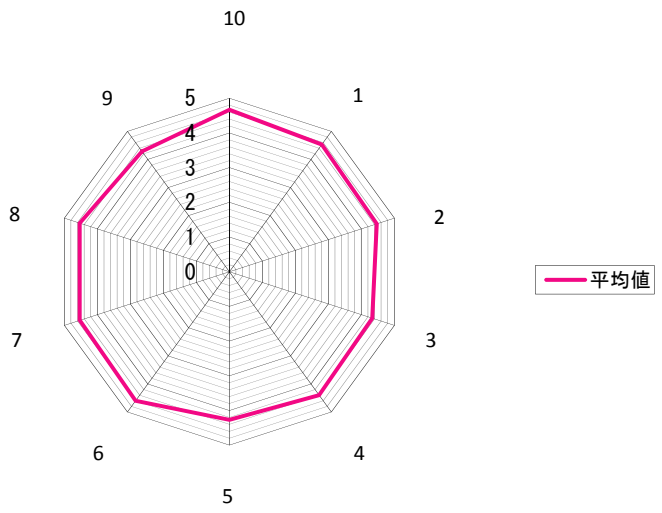
教員のコメント

各項目の評定値をみると，すべての項目が4．0以上であり，概ね良好な評価を受けている結果となった。受講生のコメントでは，特に本講義では授業内容についてグループ討論をすることから，授業内容について様々な人の意見を聞きながら，考察がより深められた，といった内容が多くみられた。ただし，いくつかの項目において少数ではあるが，評定値として3や2にチェックした受講生もみられたことから，各項目の内容についてさらに改善を図ることも必要である。今後の授業では特に内容に関してはより教師の実践力に関わるもの，より専門的知識に関わるものを提供することが改善すべき点である。また，授業の進め方においても受講生に対して，成績評価の適切な説明，適正な進度，より分かりやすい説明，適切な資料配付，機材利用を心がけることが重要な改善事項である。

結果報告書

授業科目名　幼年期教育学研究
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　湯地　宏樹　　回答者数　15　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	5	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	6	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	8	1				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	3	3				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	5	3				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	4	1				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	5	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	5	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6	2			1	4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	5					4.7



教員のコメント

本授業は受講者数は16人(昨年度13人)中15人の回答の結果である。授業アンケートの質問項目「(1)授業概要」「(2)専門的知識」「(6)分かりやすい説明」「(7)配布資料」「(8)板書・視聴覚機器」「(10)総合評価」は「5」>「4」「3」であったが、「(3)実践力育成」「(9)主体性・積極性」は「5」<「4」「3」であった。全項目に「3」評価がおり、「(4)成績評価」「(5)授業進度」には「3」評価が3名いた。

自由記述[2]のよかった点は、「興味のあることについて理解できた」「興味のもてる授業構成」「幼児教育の人物についての理論的な内容」「パワーポイントの説明でわかりやすかった」という授業方法にたいする評価や「プレゼン発表で先生と学生の意見を聞く場があった」「課題が楽しかった」「調べる、まとめる、発表とも充実」「子どものつぶやきの紹介」など(遊び場に関する研究)課題にたいする評価だった。

[3]の改善点についての記述はとくになかった。

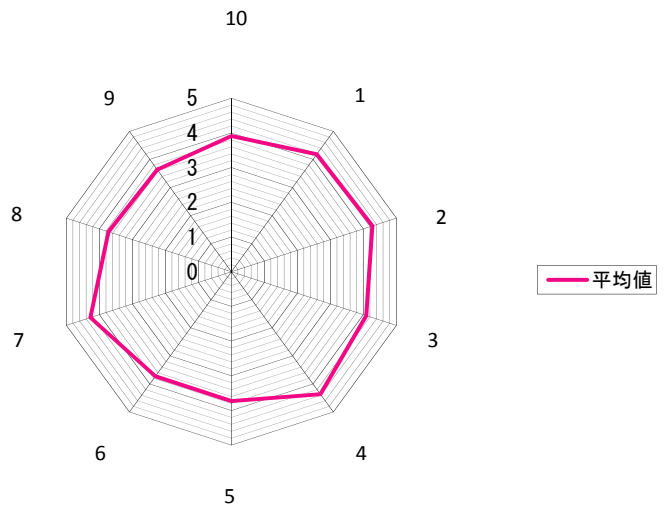
[4]授業の参加度「他の人の発表から知識を得ようとした」「興味ある内容だった」「課題の発表のためにフィールドへ出て、まとめる努力をした」「疑問点は質問しながら、考察できた」と[2]の研究課題が主体性・積極性を高めていたようである。しかし、学生の授業への取り組みに関する「(9)主体性・積極性」については、一昨年度4.6→昨年度4.9→今年度4.3と3年間で平均値が最も悪かった。

[3]その他には「教師主導ではなく、ディスカッション形式でできたことがよかった」「充実した内容」「後期も受講しようと思った」全体的な授業の感想がみられた。「海外の保育事情を知りたかった」と授業では予告だけに終わってしまったところが反省点である。

結果報告書

授業科目名　幼年発達と幼児教育内容論
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　塩路　晶子　　回答者数　11　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	5	2				4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	6	1				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	4	3				4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	3	2				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	4	5				3.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	2	6				3.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	3	1	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	5	3	1			3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	6	3	1			3.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	4	4				3.9



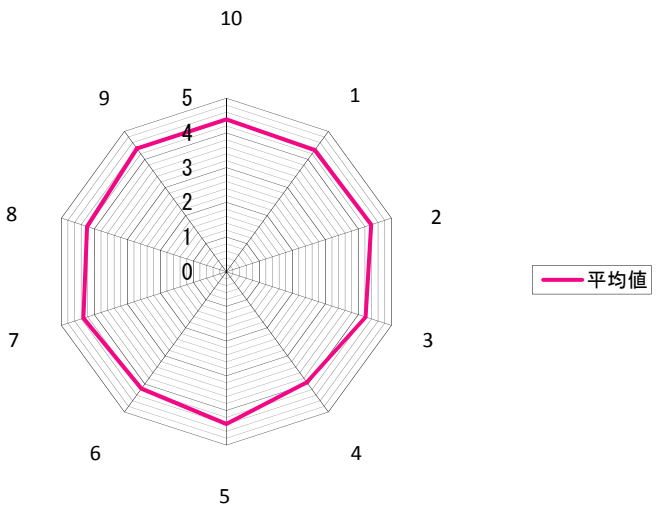
教員のコメント

本講義は、乳幼児を取り巻く現状や、日本の保育の意義付けについて理解し、どのような保育内容が子どもたちにとって相応しいのか、ということについて理解することを目的としていた。その際には、アメリカの保育や小学校との連携も視野に入れて講義を展開した。受講生からの評価を見ると、専門的知識を深めることには概ね寄与できたようである。資料の提示に関しても、肯定的な意見があった。授業の進め方については、話し合いの時間を多く取るなど、受講生がより主体的・積極的に取り組むことが出来るような工夫も含めて、さらなる手立てを考えたい。

結果報告書

授業科目名　文化とコミュニケーション
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　太田　直也,小西　正雄,金野　誠志　　回答者数　18　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	7	1	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	5		2			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	6	4				4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	7	1	2	1		3.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	10	7			1		4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	10	1	1			4.2
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	5	2	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	10	2				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	7	2				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	5	3				4.4

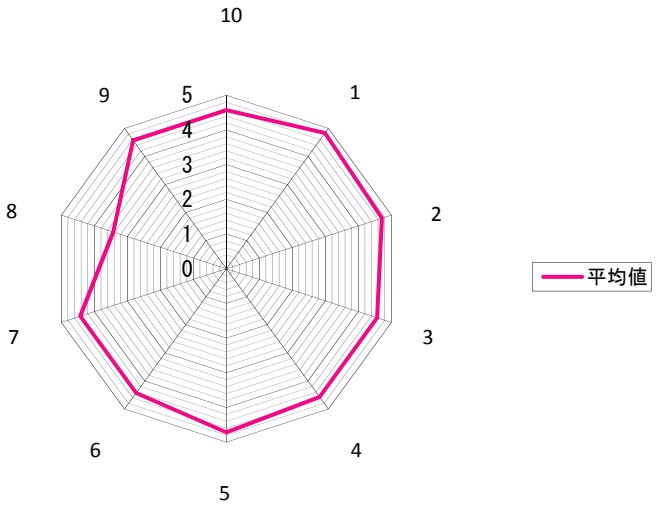


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　人間と文化Ⅰ（基礎研究）
評価実施日　平成26年7月22日
担当教員名　小西　正雄　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1				1	4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2					4.7
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3					4.6
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	3					4.6
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5	2					4.7
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	3	4					4.4
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	3	4					4.4
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		3	4				3.4
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3					4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	3					4.6



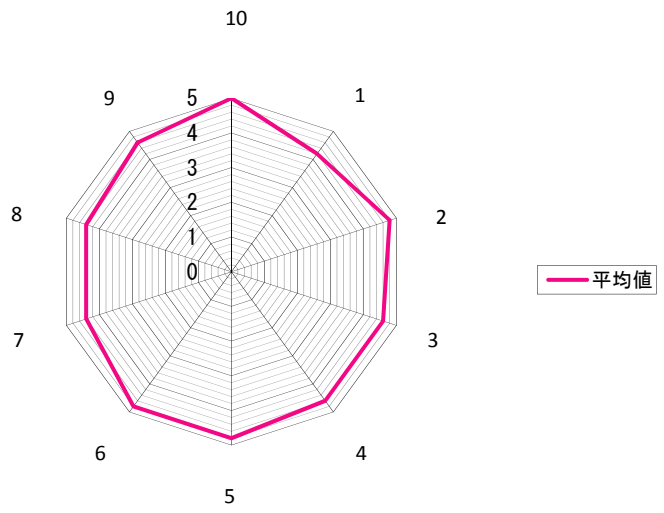
教員のコメント

この授業は、人間と文化に関する先行研究を知ることを目的に毎回1本の論文を全員が要約して発表するという演習形式で行われたものである。したがって、通常の講義とは異なり教授者の指導の巧拙、適否を判断することは必ずしも容易ではないのであるが、それにしても予想外に高評価を得ているので、安堵している。この授業は毎回の作業の多さから敬遠する向きもあるが、あえて選択受講した学生だからこそ教員の意図を十分にくみ取ってくれたものと解釈している。なお「板書や視聴覚機器」はもともと使用していないので、評価ができなかったというのが実状である。今後は評価項目の設定を適切なものに改めたい。

結果報告書

授業科目名　人間と文化Ⅱ（地域研究A）
評価実施日　平成26年7月24日
担当教員名　太田　直也　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	2	1				4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	2					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	3					4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	3					4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



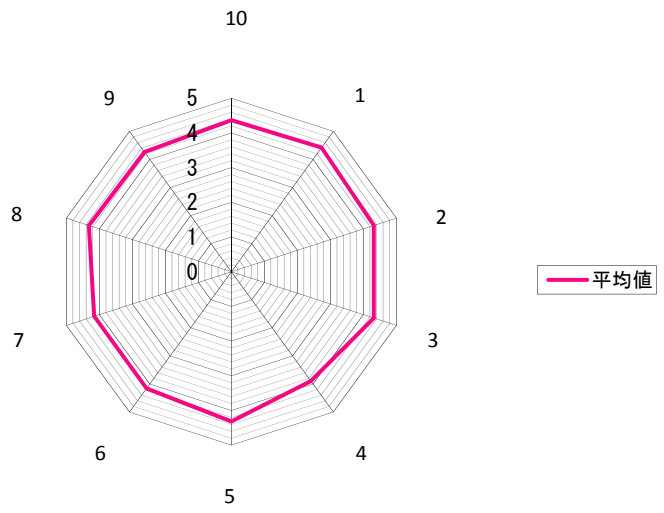
教員のコメント

高い評価を得たことは受講者に恵まれたことを示していると考える。本授業は演習であり、ある地域の文化的特性を調べ考察するというものであったが、受講者たちは丁寧な調査をした。一方で、授業担当者は時として指示が不明確なものとなってしまったという反省がある。次年度の課題としたい。

結果報告書

授業科目名　コミュニケーションと環境
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　金野　誠志,谷村　千絵,小西　正雄　　回答者数　19　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	9	1				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	6	2	1			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	7	1		1		4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	5	3	2	1		3.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	9	2				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	7	1	1	1		4.2
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	6	5				4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	9	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	9	1	1			4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	7	1	1			4.4



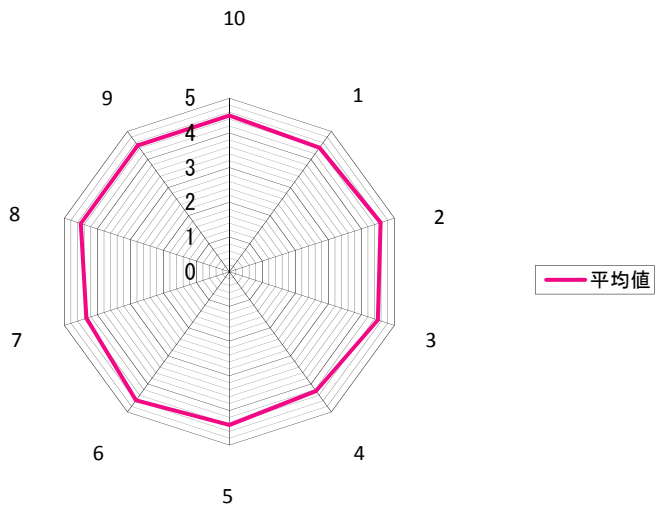
教員のコメント

概ね受講生の要望には応えられたと考えている。受講生には、現職教員から教育学部出身ではない者まで多様におり、レディネスも多様である。授業の内容に、自分が教員となった差異のいわゆる“How to”を身につけることやその説明を期待したりする受講生が若干いたため、評価のばらつきが若干でた感が否めない。オリエンテーションの際、授業の内容の説明をしっかりとしていきたい。授業の進め方については、ワークショップ型のコミュニケーションを多用せざるを得ない方法を取り入れたことは好評であった。今後も、積極的に受講生同士のコミュニケーションを促す授業をしていきたい。

結果報告書

授業科目名　人間とコミュニケーションⅢ（実践研究B）
評価実施日　平成26年7月31日
担当教員名　金野　誠志,谷村　千絵　　回答者数　12　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	7					4.4
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	3	1				4.6
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	6					4.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	7	1				4.3
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5	7					4.4
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	7	5					4.6
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	6	4	2				4.3
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	6					4.5
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	6					4.5



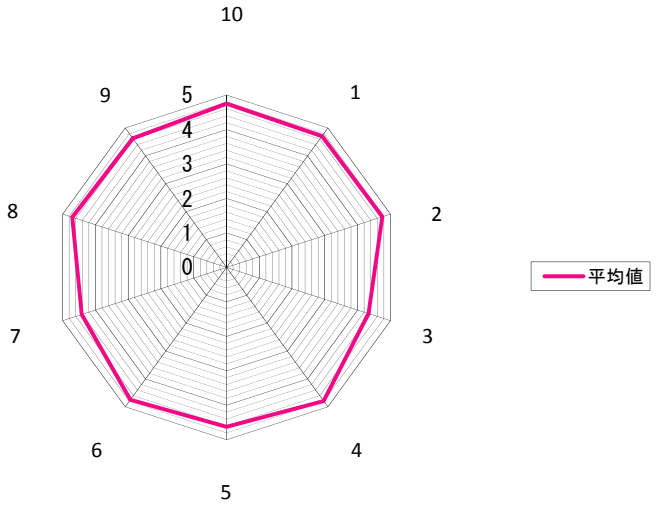
教員のコメント

概ねよい評価を得ていると考える。受講生の専門分野やレディネスが多様なため、そのニーズに応えようと、現在の社会問題と学校教育の内容を関連付けて授業を進めたことや、受講生参加型の授業を多くしたことか好評であった。今後も継続していきたい。一方で、受講生自身が、積極的に事前の学習をしてくるような風土を築けていないので、そういう面での主体性を今後、検討していきたい。

結果報告書

授業科目名　環境と文化
評価実施日　平成26年7月29日
担当教員名　田村　和之　　回答者数　24　人

質　問　項　目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	17	7					4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	18	6					4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	13	7	3	1			4.3
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	19	5					4.8
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	15	9					4.6
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	18	6					4.8
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	13	8	3				4.4
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	17	7					4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	7	1				4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	18	6					4.8



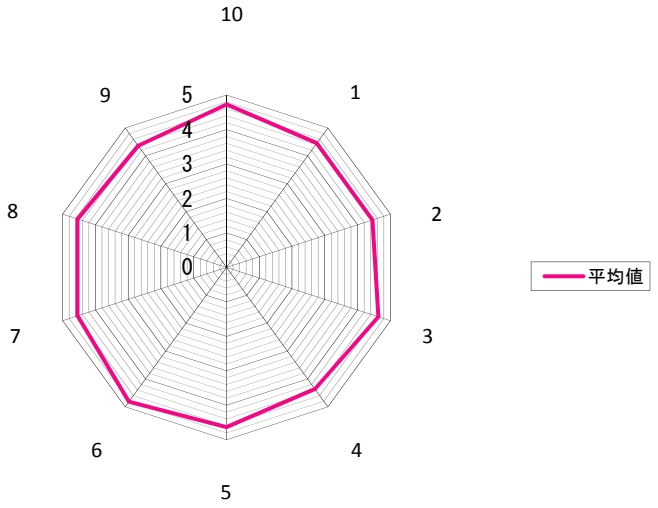
教員のコメント

学生からのコメントは基本的に「面白かった」「勉強になった」などが多くあったが、スライドについては一部で読みづらい物があったり、授業によっては枚数が多かった所が反省点である。来年度はこのような点に気をつけてスライドを改善して行きたい。
来年度も学生から高評価をもらえるような授業づくり・授業展開を目指して頑張りたい。

結果報告書

授業科目名　人間と環境Ⅱ（実践研究A）
評価実施日　平成26年7月29日
担当教員名　田村　和之,近森　憲助　　回答者数　11　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	4	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	6					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	4					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	5	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	4					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	5					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	5					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5	1				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	3					4.7



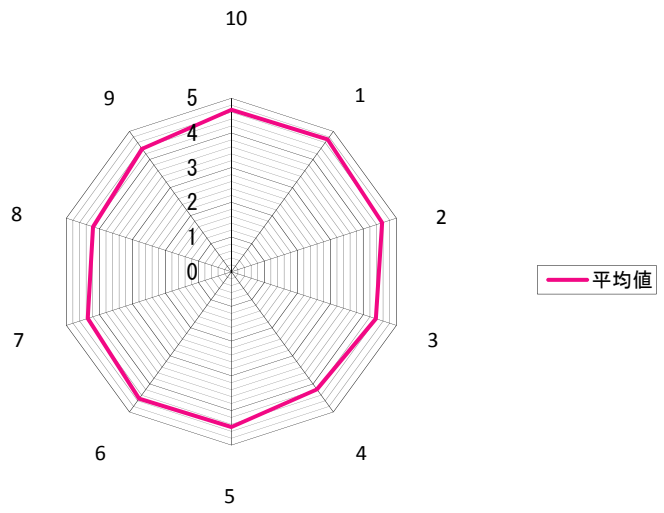
教員のコメント

学生からは高評価を得ているが、コメントでは授業の実践に関する機会（模擬授業を行う機会）が少なかったとの指摘が数人から出ていた。
来年度はこのようなコメントを踏まえ、もう少し模擬授業などを行う回数を増やし、学生どうしの授業実践に対する指導を行いたい。

結果報告書

授業科目名　現代の子どもと学校教育
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　谷村　千絵　　回答者数　21　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	16	4	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16	2	2	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	13	4	3	1			4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	9	4				4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	11	9	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	14	5	1	1			4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	11	5	4			1	4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11	4	5	1			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	9	2				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	16	3	2				4.7



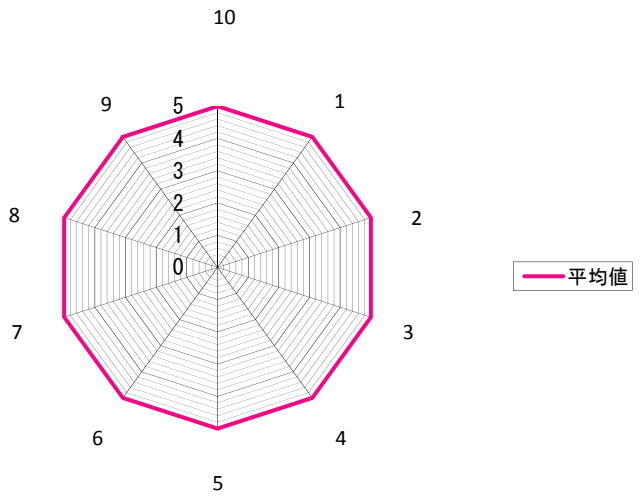
教員のコメント

概ねよい評価であった。自由記述欄には、グループワークによって思考を深めたり、他者の意見を聴くことをしっかりできたということについて、とくによかった、大変面白かったというコメントが多数みられた。時間外や他の授業でも、関連させて多くのことを考えたというコメントもあり、波及効果が期待される。改善点としては、時間配分(一人)と話し合いが苦手な人へのフォローが指摘された。時間配分については、具体的なコメントがないので、どう改善してほしいのかが不明であるが、本授業はゆとりをもった進行をしており、それは授業目的に合わせてあえてそうしている旨、説明している。話し合いが苦手な人へのフォローは、全体としても個別にも気が付いた時点で介入するようにしているが、今後も、より目配りをしていきたい。また、教員から得られる知識が少ない(一人)という意見もあったが、こちらが示した知識を経験として根付かせるための授業であるという主旨は授業内で説明している。

結果報告書

授業科目名　現代授業メディア論
評価実施日　平成26年8月2日
担当教員名　林　向達　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



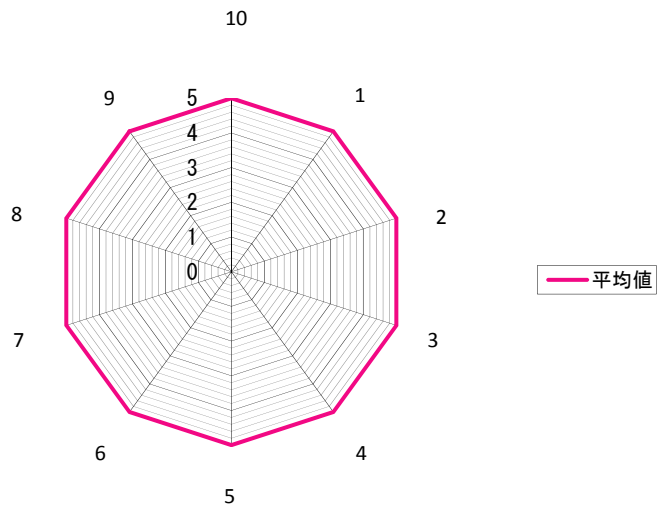
教員のコメント

今回、夏期スクーリングの一授業として「現代授業メディア論」を担当した。
新しく担当することもあり、事前準備では比較的広範なテーマを講義で扱う予定を立てたが，講義当日に受講生からのヒヤリングを通して適宜講義内容を修正していくこととなった。
特に他の授業で学んだ内容を手がかりとして授業とメディアの関係を考え始めたことが，興味深い展開を見せたことは今回の授業評価の結果からも垣間見える。受講生たちの問題関心から知識との関係の仕方について様々な議論を深めることができた点について評価も高かった。
一方，具体的なメディアに関する知見を学ぶにあたって，十分な教材を提供できなかった点は再考すべきと感じた。たとえば，昨今のメディア活用の代表的な道具である情報端末機器やインターネットサービスについて，多様な実例を演示できなかった点は悔やまれる。
可能な限り，参考図書の紹介を心掛けたが，本学の図書館を十分活用できなかったことも反省点の一つとしてあげられる。再度，講義を担当するご縁があれば，そのような点についても配慮できるようにしたい。今回の授業は担当者としても学びの多い講義となった。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育コーディネーター概論
評価実施日　平成26年7月29日
担当教員名　井上　とも子　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



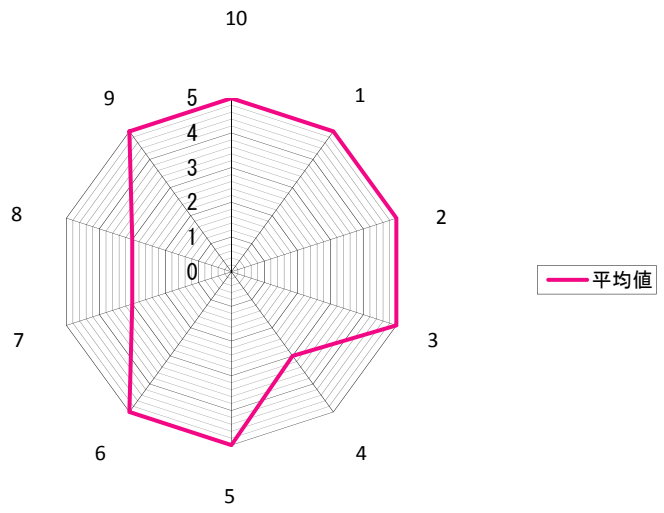
教員のコメント

この授業は、特別支援教育コーディネーター養成分野に所属する大学院生、今年度は3名以外に、聴講する者が7名、合計、10名の受講者であった。本学の他専攻他コースの院生も修了後、学校現場でコーディネーターに指名されることが多いことを知ってのことと思われる。単位を取得する3名の受講者には、毎週、授業のはじめに院生同士が協議する課題が授業の最後に示され、レポートにその課題をまとめてくる事になっている。どの課題にも、まじめに下調べをし、自身の考えをまとめてくるなど、真剣な授業への取り組み態度であった。授業は、これまでの「現職としての教育の考え方」「特別支援教育の見方」を基本から再度考え直してみようというというところから、校内委員会のあり方や支援のあり方を探っていく方針で進めた。受講者は共に、提示する課題に関心を示し、協議は、それぞれの意見を出し合うなど、活発であった。特別支援教育を「こうあるべき」と考えるのではなく、自身の経験を元にしながらも、新しい視点を持って教育現場で、「教育について語る」事のできる雰囲気作りのできるコーディネーターを目指してほしいと考えて、来年度も様々な観点から「特別支援教育とは?」と投げかけていきたい。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育コーディネーター実地教育
評価実施日　平成26年7月31日
担当教員名　井上　とも子　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。			2				3.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。			2				3.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。			2				3.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



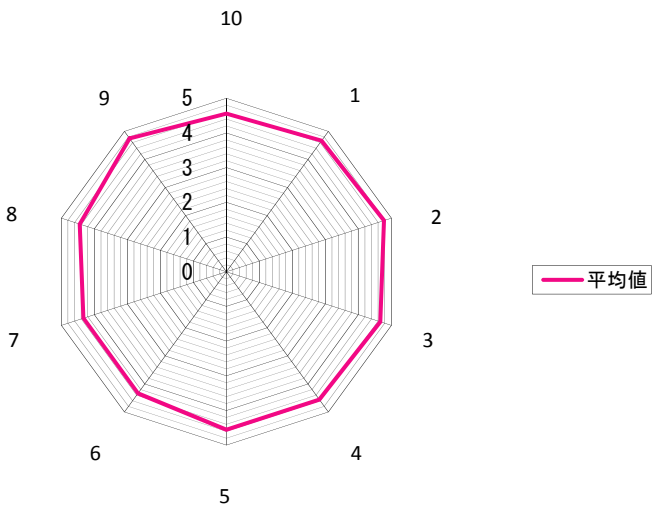
教員のコメント

この授業は、高機能自閉症スペクトラム障害幼児を対象にした就学前指導の指導者としての教育実践の場である。毎週、1時間半の指導場面のために、二日前にはプログラムを再考し、計画し、大学教員は点検をしている。指導の後は、その日の指導の振り返りをし、指導を観察見学していた保護者の支援を行っていた教員から、個々の保護者の話や家庭の幼児の様子が伝えられ、次週の計画に反映させるカンファレンスを行っている。そのほかにも、動画記録を何度も見直すなど、子どもの様子を見極め、計画の変更等に反映させている。この授業は、カンファレンスから実践、自主的な振り返りを含めて週3時間以上の予習復習を繰り返していることとなり、受講生にとっては非常に負担感の高い授業となっているはずである。しかし、どの受講生も、真剣にこの実践指導に取り組み、第一指導者として、子ども様子を把握する力や、音声言語を使用せずに子ども自身の動きを引き出す指導方法を身につけるなど、実践力が高まったと感じる。子ども達は、指導者から指示されることなく次々と課題に向くこと、準備することができる様になり、片付けも、次の課題を意識しながら、子ども同士言葉を掛け合って進めるなどができるようになってきている。この子どもの姿が、とりもなおさず、院生の成長であると言える。今後も、医療機関からの支援をもらいながら対象児を集め、授業を展開してきたい。この授業で重点を置いている観点に関しては「5」が得られており、十分な評価と判断している。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育学研究論Ⅰ
評価実施日　平成26年8月5日
担当教員名　高橋　眞琴　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	1	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	3					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	2	1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	2	1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	3		1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	1	1	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1	2				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7		1			1	4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	2	1				4.6



教員のコメント

本授業の受講者は、M1が5名（現職教員3名・うち特別支援教育に携わった経験がある教員1名）、長期履修生6名であり、長期履修生のうち2名は、聴講生であった。（回答者は、最終授業時に、研究等の関係で欠席の現職教員1名、聴講生1名を除く9名である。聴講生1名が回答者に含まれている。）

本学では、「英語による授業」の検討も行われているが、本授業では、英国のインクルーシブ教育に関する英文の論文（複数の論文の候補より受講生が希望して、選定したもの2本・翻訳あり）の購読とディスカッション、開発途上国の障害当事者研究者による英語での自国のインクルーシブ教育に関する話題提供（逐次通訳有）を取り上げた。

海外のインクルーシブ教育については、「関心があった」「刺激がある授業だった」「日本の教育と海外の教育とを比較することができた」と肯定的に回答する受講者がほとんどだった反面、「英語は、単語（用語）だけでいいのではないか」という意見や、「レポート課題について考えさせられた」といった意見も少数であるが見られた。

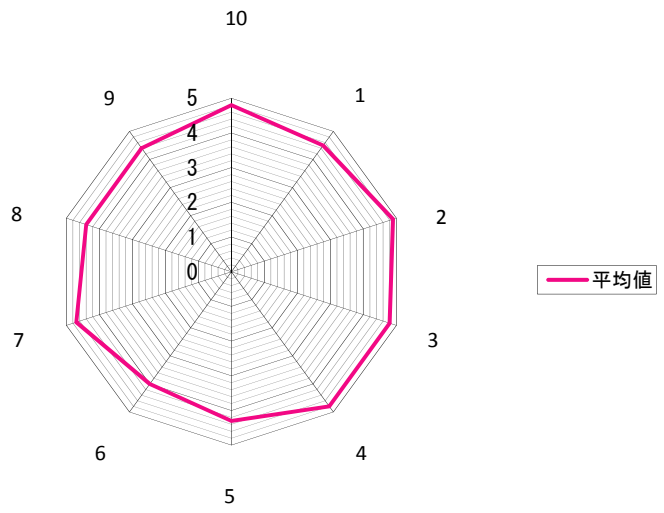
他大学出身で、学部では、他の領域の学習歴はあるが、大学院から特別支援教育について、初めて研究を行う受講者もいるため、今後は、オリエンテーション等で、学部の授業で、特別支援教育に関する基礎的な知識を得てから、大学院の専門的な授業の履修を検討することについても伝達していきたい。

尚、受講生の1名より、本授業で取り扱った研究内容を参照して、研究計画を立て博士課程に合格した旨、講義終了後に、連絡を受けている。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育学研究論Ⅱ
評価実施日　平成26年7月24日
担当教員名　大谷　博俊　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	1	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	2					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9		1				4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	2	1	1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	4	3				4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	3					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7		3				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4	1				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	2					4.8



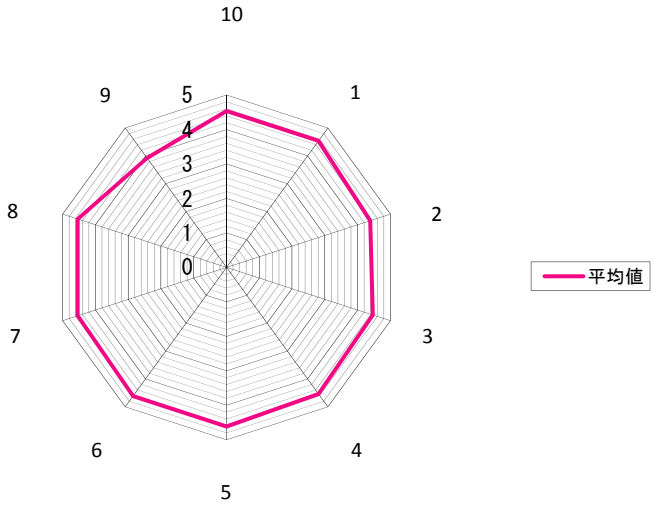
教員のコメント

総合評価は、4.8であり、受講者の授業に対する満足度は高いと考えられる。また、「授業の内容について」および「教員の授業の進め方」の項目から、次のようにも推察できる。受講者は、本講義について、「専門的知識を深めるのに役立つ内容」であり、「教師の実践力の育成」に資すると受けとめており、「成績評価の方法の説明」も適切であると受けとめていたと考えられる。次年度の講義計画の参考にしたい。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育臨床心理学研究論
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　高原　光恵　　回答者数　13　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	4	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	4	2				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	3	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	2	2				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	5					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	2		1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	2	2				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10	1	1	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	5	3	1			3.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	2	2				4.5



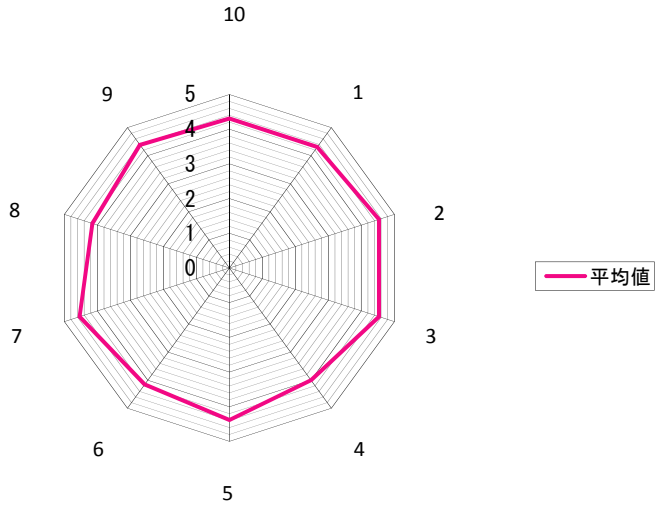
教員のコメント

本授業は講義形式中心で進めたが、時折、グループ討議を通して受講生同士の意見交換、まとめ等の活動を取り入れた。扱うテーマによって、具体的に受講生同士が考えて話し合う時間を設定したことも影響したと思われるが、全般的に「わかりやすく」「適度な進行速度」と評価された。一方、授業では「主体的」に取り組まざるを得ない時間を設定していたにもかかわらず、「主体的、積極的」野項目が他項目と比べて若干評価が下がっている。今後は、より積極的に取り組める授業内容、進行方法となるよう、工夫が必要と思われる。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育学習心理学研究論
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　島田　恭仁　　回答者数　13　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	5	2				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	4	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	4	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	5	4				4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	2	3				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	5	3				4.2
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	6					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	5	3				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6	1				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	9					4.3



教員のコメント

項目(7)で，13名の受講者全員が5又は4の高い評価を行ったことから，「配布した資料は適切であった」ことが分かった。DN-CASやKABC-Ⅱなどの近年標準化された日本版の認知能力検査に関する資料を豊富に配布したことが効を奏したと思われる。また，項目(2)(3)(9)でも，13名中12名の受講者が5又は4の高い評価を行ったことから，「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」こと，「教師の実践力の育成につながる内容であった」こと，「授業に主体的・積極的に取り組んだ」ことが分かった。とりわけ(2)と(3)で5の評価が多かったことから，専門的な内容を教育実践に結びつけて説明することができたと言える。これらのことより，項目(10)でも，13名の受講者全員が5又は4の高い評価を行う結果になり，全員が「総合的に評価して，この授業はよかった」と思ったことが確かめられ，満足度は高かったことが分かった。

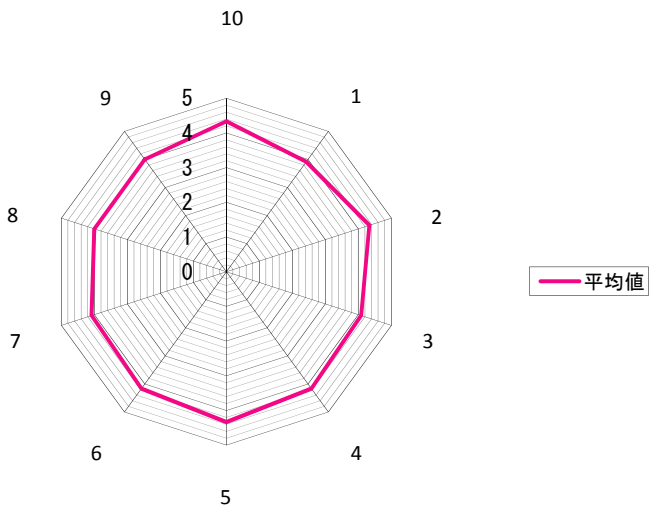
本講においては，新しい認知能力検査の内容を豊富な資料を用いて分かりやすく講義した上で，障害の実態把握に役立つアセスメント法を詳細に講義した。さらに，発達障害の事例を取上げて，アセスメント過程について具体的に説明し，アセスメント結果に基づいて個別指導計画と教材・指導法を考案する方法について説明した。P.P.を使ってこれらの一連の説明を行った上で，個別指導計画の作成実習をグループ別に実施したことで，専門的な知識と実践力の向上を促すことができたと考えられる。

しかしながら，項目(4)では3の評価を行った受講生も多かったことから，「成績評価の方法が分かりにくかった」と思う受講生もいたことが分かった。今後は，レポートの内容に関して，グループ内で共通する事柄を記述する部分よりも，各個人で個別に記述する部分を増やす等の工夫をして，各自の独創性を評価することにウェイトをかけるようにしたい。

結果報告書

授業科目名　発達障害児病理・病態生理学研究
評価実施日　平成26年8月1日
担当教員名　田中　淳一　　回答者数　12　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	4	3	1			3.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	4	2				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	5	3				4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	2	4				4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	1	2	1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	3	2	1			4.2
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	3	1	2			4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	5	2	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2	5				4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	4	2				4.3



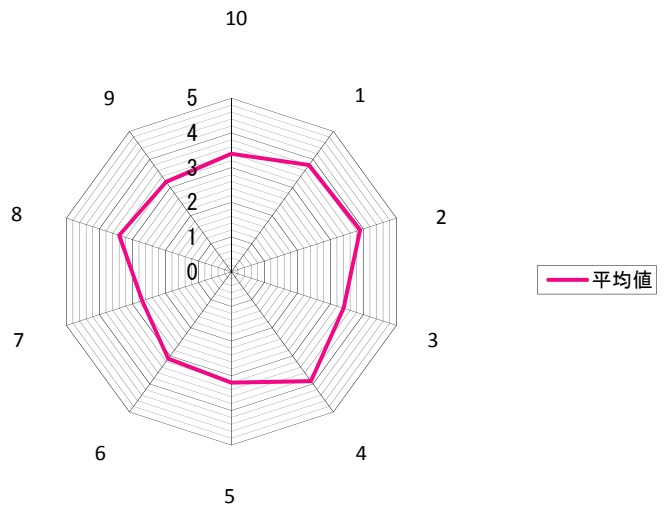
教員のコメント

ある程度の適切な授業が出来たことが、質問項目の平均値が4.0を上回っていることから評価できると考えられる。ただ、授業の内容について、考慮すべき点があるように思われる。特に、教師の実践力につながる内容や、院生がより興味を持つようなスタイルに改善していくことが重要とされている。専門性が高い授業であるため、理解しやすいような説明を行うように努力したが、この点ついても検討を要すると思われる。本授業は、興味、関心のある学生が受講するので、積極的に取り組んでいたと感じていたが、改善の余地があることをも物語っている。また、授業方法の問題点についても考慮したいと考えている。アンケートで、その他の授業の改善点について指摘して頂ければ幸いであると思っている。

結果報告書

授業科目名　発達障害児生理・発達学研究
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　津田　芳見　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	3	3	1			3.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	6	1	1			3.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3	5	1			3.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	3	4				3.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	4	1	4			3.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		5	2	2	1		3.1
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。		4	1	3	2		2.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	4	3	2			3.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		3	6	1			3.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。		6	2	2			3.4



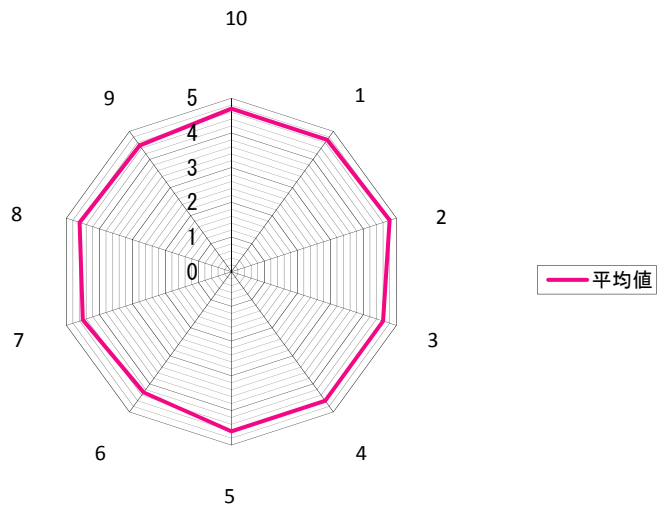
教員のコメント

全体的に平均的な評価を受けているようである。
特に専門的知識や、概説などが高い評価を受けている。
しかし、学生の授業への積極的取り組みについては、いまひとつである。
ワークショップ的な授業も取り入れ、もう少し、積極的な授業参加を図りたいと考える。

結果報告書

授業科目名　言語教育基礎論Ⅰ
評価実施日　平成26年8月7日
担当教員名　原　卓志　　回答者数　10　人

質　問　項　目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	3					4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2					4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2	1				4.6
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	4					4.6
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	7	2	1				4.6
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	5	4		1			4.3
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	5	5					4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	4					4.6
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3	1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	3					4.7



教員のコメント

「言語教育基礎論Ⅱ」担当の英語コース担当教員との合同授業で、日本語ばかりではなく、英語にも目を向け、ことば（言語）に関する問題を様々な面から考究する内容である。授業担当者による話題提供では、授業担当者も加わったグループでの話し合いや作業を取り入れて、授業を進めた。授業担当者（話題提供者）それぞれの工夫によって、高い評価が得られたことは喜ばしい。

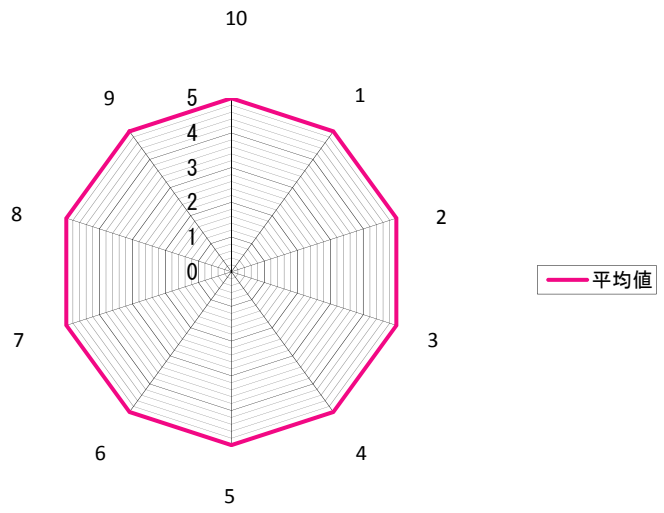
良かった点として「様々なコースと混合の授業だったので、刺激を受けた」「英語コースの方と共に学ぶことができて、新しいことを学べた」といった、合同授業形式の良さを指摘したコメントとともに、「言語の様々な視点を学ぶことができた」「様々な側面から日本語のことを学んで良かったと思う」といった、提供する話題の選び方に対するコメントが寄せられた。また、授業後半に行った受講生によるプレゼンテーション（研究発表）について、「個人の興味ある分野について、言語に関わることであれば自由に発表できたこと」「問題意識を持って発表に取り組めたこと」が評価されている。

なお、改善点として、「一受講生によるプレゼンテーションの発表時間が短い」こと「プレゼンテーションの期間が長い」ことがあげられた。これらについて、次年度以降、改善を図りたい。

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅰ
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　田中　大輝　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



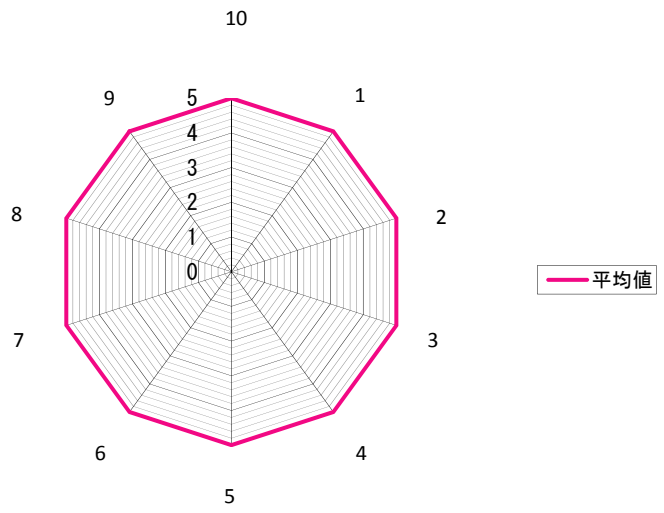
教員のコメント

本授業では，論文やレポートなどの学術的な文書を書く訓練を行った。特に，学術的文書特有の文体や語彙，問題提起や提案の定型表現といった「日本語」としての側面だけでなく，読みやすさを考慮したセクション分けや段落構成，説得的な論を展開するための証拠の挙げ方など，日本語に限らず，「人を説得するためにはどのような工夫が必要か」という側面を重視した。受講者は3名（＋聴講5名）であり，「学術的な文書が学習でき，大学院の課題やレポートにとても役に立つと思う」，「配布資料が詳しくて復習に役立った」，「先生の説明が分かりやすかった」など，実用面や分かりやすさを高く評価する声が多く見られた。本授業は参加者の日本語能力に著しい隔たりが見られた（N1レベル～N4レベル）ため，全員のニーズに応えることは難しかったのであるが，できる限り幅広い参加者に満足を与えられるよう，今後も最善を尽くしたい。

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅱ
評価実施日　平成26年8月18日
担当教員名　妹尾　春子　　回答者数　1　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



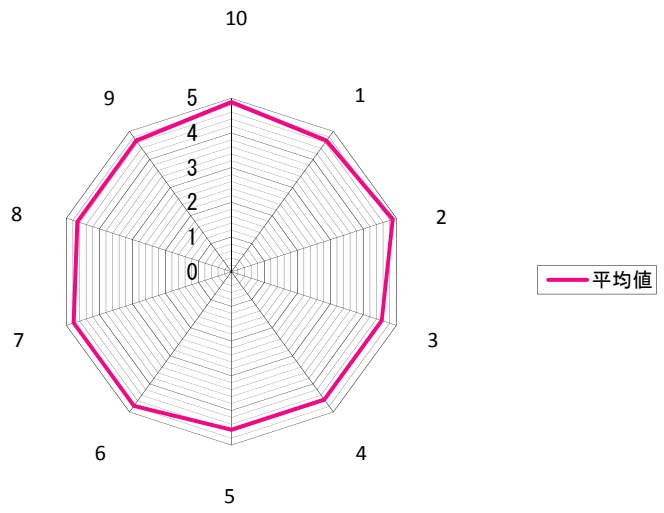
教員のコメント

この授業は「コミュニケーションのための日本語を伸ばす」ことを目的として進めました。そのためにまず、情報を理解し、整理することの練習、次にその情報を相手に正しく伝える表現力の習得を目指しました。受講者は院生1名、学部交換留学生5名の計6名。前半は自己紹介を中心に、自分の専門分野や大学との関わりをまとめ、わかりやすく伝える練習を行いました。後半は2グループに分かれ、2つの違うテーマの論文を読み、その内容を相手グループに説明するという形をとりました。国籍が違ったため、相手の発表を聞き、様々な違った意見が出たことは学生の興味を高め、活発な意見交換につながりました。論文の説明では、扱ったテーマが「日本人の英語習得」だったため、内容が難しすぎたようです。読解に時間がかかり、発表では筆者の主張や例の説明で終始し、自分たちの感想、意見が少なかったことが残念でした。次回は論文のテーマやレベル設定に配慮したいと思います。書き言葉の表現・語彙を学習したことにより、他の授業での論文の読解に役に立ったという意見がありました。

結果報告書

授業科目名　日本古典語研究
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　原　卓志　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	3					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	4					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	4					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	2	1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	1	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	1					4.9



教員のコメント

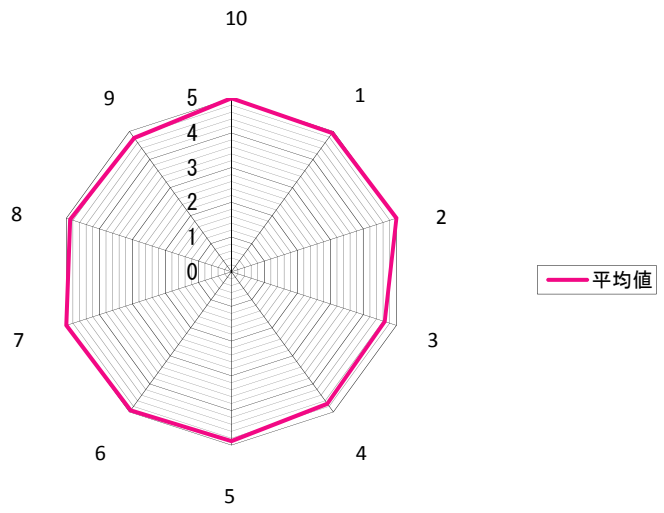
正式な受講者数は6名であるが、昨年度から続いて聴講する3名が加わって、本年も和気藹々と楽しみながら「祖谷東西記深山草」を読解していった。本年度は、学部時代に古文書等の解読に取り組んだ経験を持ち、くずし字・変体仮名についての知識が豊かな学生の参加を得たことで、受講生同士が教え合う姿が見られ、活気のある教室となった。

良かった点として、「みんなで一つの文を読むというのが、刺激的で内容も入り、よりくずし字も読めるようになった」「徳島に関する昔話についての内容だったので、理解しやすく、非常に興味深いものでした」「徳島の文献だったので、地域のことも分かり、くずし字のよみ方以外にも勉強になりました」というコメントがあり、「にぎやかで楽しかった」という感想が寄せられた。受講生の取り組みとしては、「予習もできるだけ頑張り、授業に臨みました」といった予習に関するコメントとともに「毎回発見があり、熱心に取り組めた」というコメントもあった。毎時間、受講生に読解発表が課せられるということで、受講生の予習につながったのであろう。

結果報告書

授業科目名　現代日本語研究
評価実施日　平成26年9月13日
担当教員名　茂木　俊伸　　回答者数　17　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	16	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	17						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	4	1				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	15	1			1		4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	15	2					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	16	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	17						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	15	2					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	2	1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	17						5.0



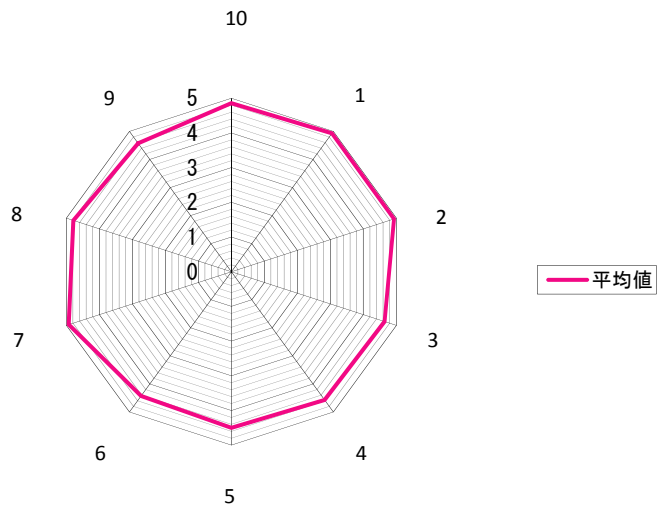
教員のコメント

本授業では，現代日本語の諸問題を題材としながら，教材分析やことばの研究において必要となる視点や技術に対する理解を深め，これらを獲得することを目標とし，講義を行った。受講者数は 17 名であった。
授業の総合評価(項目10)の平均値は 5.0，全項目の平均値は 4.88 であり，総じて満足度は高かったと判断できる。項目4に「1」を付けた受講者が1名いるが，その理由は不明である。
記述式の項目については，改善点(項目[3])として1件，「もう少し書き方の演習のようなことをしたかった」という指摘があった。集中講義という形態上，書くためのまとまった時間を持つことが難しいのであるが，改善の余地を検討したい。
最後に，授業への取り組みの理由(項目[4])の「先生が授業の準備をこれだけしてくれているのに，自分が何もしないのは考えれなかった」「講義に対する心構えがすばらしく，そういったことも学ぶことができた」というコメントは教育大学らしく，授業者としてありがたい限りである。

結果報告書

授業科目名　日本文学研究Ⅰ
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　黒田　俊太郎　　回答者数　14　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	13	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	3	1				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	11		3				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	4		1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	4	2				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	13	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	1	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	4	1				4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	12	2					4.9



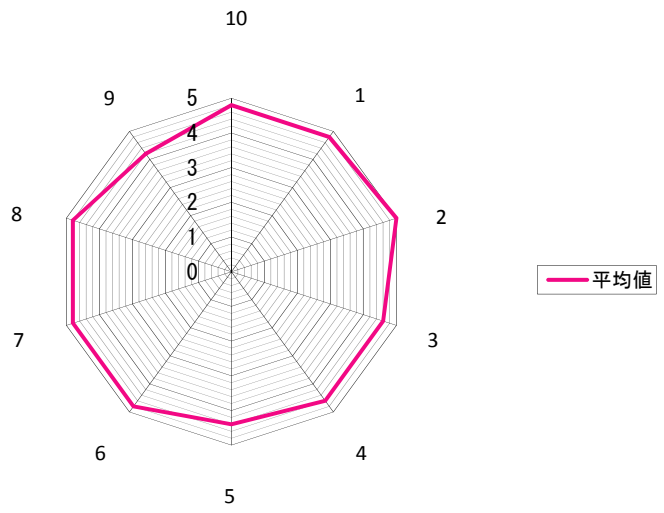
教員のコメント

・総合評価4.9と、高い評価であった。ただし、「(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。」「(5)授業の進む速さは，適切であった。」という項目について、不満を抱く学生が若干名存在する。成績評価の方法については、初回授業における説明を現状よりも充実させたい。授業進度については、1名の学生だけが「2」という低い評価であった。これまで以上に、学生の学力や理解度の深度を配慮しながら、授業を進めたい。

結果報告書

授業科目名　日本文学研究Ⅱ
評価実施日　平成26年7月31日
担当教員名　小島　明子　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	2					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	3					4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	1				4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	1					4.8



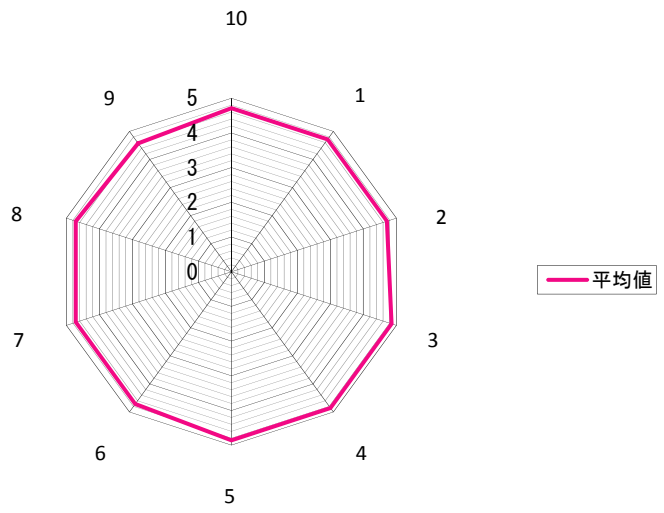
教員のコメント

「総合評価」は概ね良好であったと思われるが、「主体的・積極的に授業に取り組んだ」の項目の回答が4．2であったのは少々問題を感じる。講義とはいえ、授業内容に関して受講者の見解を指名ないしは挙手させて発表してもらっていたのだが、まだ不十分であったということとなる。次年度はこれらの点に改善を加えたいと思う。

結果報告書

授業科目名　日本語教育学研究
評価実施日　平成26年7月29日
担当教員名　小野　由美子　　回答者数　7　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	2					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3					4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	2					4.7



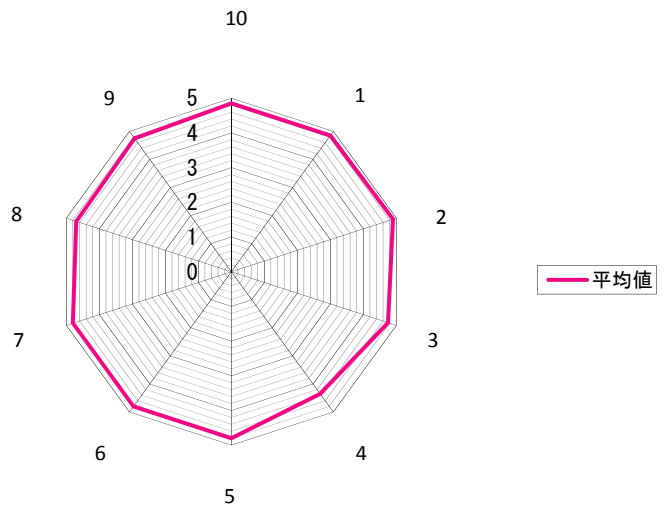
教員のコメント

今後も授業を受けてよかったと思ってもらえるよう、学生の意見も参考に充実した授業内容に取りくみたい。

結果報告書

授業科目名　社会言語学研究
評価実施日　平成26年8月5日
担当教員名　永田　良太　　回答者数　20　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	17	3					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	18	2					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	16	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	12	4	3	1			4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	16	4					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	16	4					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	16	4					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	15	4	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	3	1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	17	3					4.9



教員のコメント

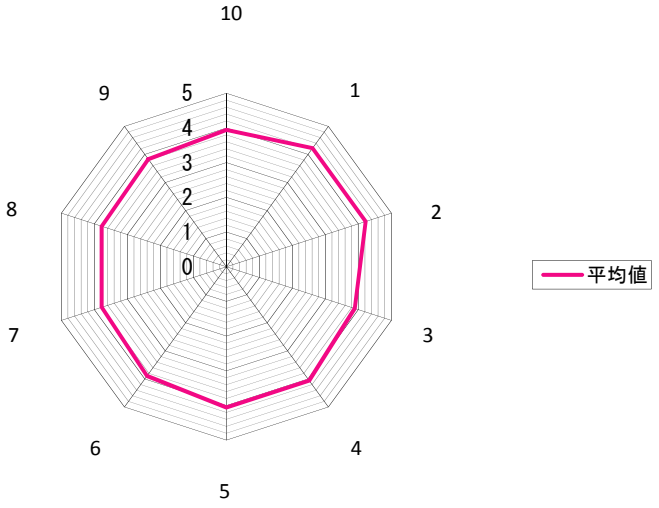
本授業は，「バリエーション」「会話の仕組み」「言語意識」「言語政策」という観点から，普段無意識に使用している日本語について意識化するとともに，日本語教師として必要な社会言語学的知識を身につけることを目標とした。本年度は留学生や様々なコースからの受講生が多く見られたが，前述のような授業目標を達成する上で，日本語教育を専門とする日本語教育分野の学生の積極的な授業参加に加えて，留学生や他コースの学生からも積極的な発言を得たことは有意義であった。参加留学生の母語である中国語やタイ語といった他の言語と比較することで，日本語の社会言語学的特徴が明らかになるとともに，日本語学習者としての視点からの発言により，習得上の問題点を確認することができた。また，他コースの受講生からは，それぞれの専門的観点からの意見が出され，議論を深めることができた。

今回の評価結果を見ると，いずれの項目も高い評価を得ており，本授業に対して受講者自身も達成感を感じているものと思われる。今後は，評価の観点をさらに明確にするとともに，さらなる授業改善に取り組みたい。

結果報告書

授業科目名　対照言語学研究
評価実施日　平成26年8月28日
担当教員名　山川　太　　回答者数　18　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	5	3	1			4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	5	3	1			4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	10	2	2			3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	3	3		2		4.1
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	5	1	3		1	4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	4	5	2			3.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	4	4	2	1		3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	5	4	3			3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6	4	1	1		3.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	4	6	1			3.9

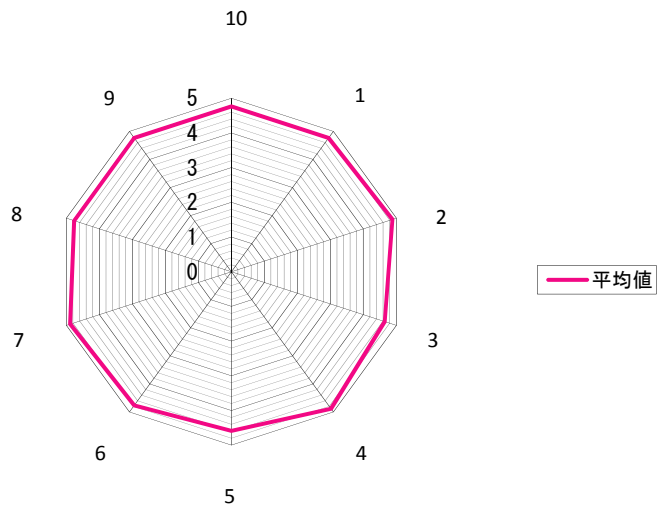


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　日本語文法研究
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　田中　大輝　　回答者数　17　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	14	2	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16		1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	4	1				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	16		1				4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	13	2	1	1			4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	14	2	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	16		1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	14	2	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	2	1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	14	2	1				4.8



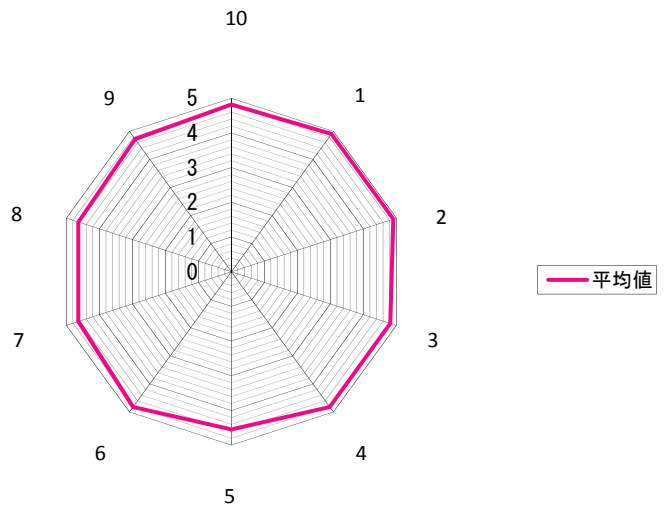
教員のコメント

本授業では，日本語学習者が誤りやすい動詞の自他対応や授受表現，多様な体系を持つ名詞修飾，モダリティなど様々なトピックについて理解を深めることで，日本語学習者に対して適切な文法指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では，「頑張れば必ずプラスになるという雰囲気がこの授業にはあった。挑戦的なこともあり，とにかく授業が一定のリズムで進行しないので，有意義に学べた」，「先生の説明が丁寧で，学習者側の疑問にもきめ細やかに対応してくださり，資料も見やすく，学習者が考える時間やグループワークの時間なども適切にあり，良い印象を受けた講義だった」など，授業内容や授業方法を高く評価する声が多く見られた。一方で，「1つのテーマに時間をかけすぎて広く学習できなかった」，「扱った内容が少なかった。もっと多くのことを知りたかったが，時間が足りなくて残念だった」など，授業で扱う内容の範囲に関して改善（再考）を求める声も出ていたので，今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名　言語習得・発達論
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　田中　大輝　　回答者数　11　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10		1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10		1				4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	2		1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10		1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	1		1			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	2	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	1	1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10		1				4.8



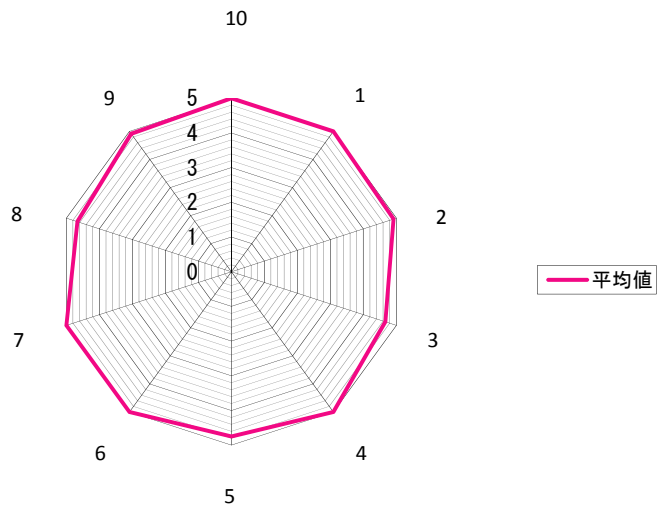
教員のコメント

本授業では，日本語学習者の習得のメカニズムを理解し，実際の教室活動に役立てられるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では，「教科書を使用し，担当を分けて，さらに詳しく調べたことをメンバーに問題を提起しながら進んだこの授業は，理解をお互いに深め合えてとてもよかった」，「初めて日本語教育について学んだが，先生の説明，解説の中で，具体例を提示してくださったり図示してくださったりしたので，たいへん分かりやすかった」など，演習形式という授業スタイルや担当教員による解説を高く評価する声が多く見られた。一方で，「(学生の発表担当において)それぞれの発表時間にバラつきがあった」「(教科書を使用したが，)終章まで到達しなかった」など，学生による負荷の違いや授業で扱う内容の範囲に関して改善(再考)を求める声も出ていたため，今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名　日本語音声表現研究
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　田中　大輝　　回答者数　12　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	12						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	4					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	12						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	3					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	12						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	12						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	4					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	1					4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	12						5.0



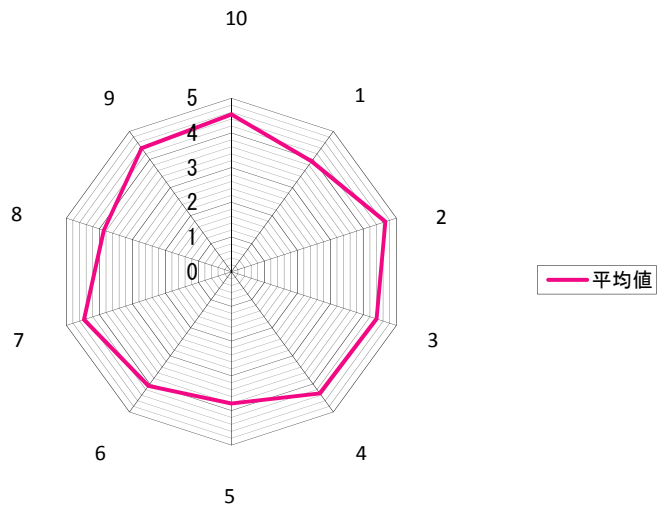
教員のコメント

本授業では，日本語の単音(母音，子音)の特徴，音声と音韻の関係，アクセントとイントネーションの違いなど様々なトピックについて理解を深めることで，日本語学習者に対して適切な音声指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では，「毎時間，受講者からの感想や疑問点を振り返る時間があったのが良かった」，「授業中の雰囲気がとても良かった。先生の工夫が欠かせないものだと思う。学生たちに自らやらせてみることが多く，みな積極的に取り組んだと思う」など，授業方法を高く評価する声が多く見られた。一方で，「人数が多かったので，広い教室に変えて授業してほしかった」，「(「音声」に関する授業なので，)ビデオなどの視聴覚機器を使って授業を行うのはいかがでしょうか」など，授業環境および使用教材に関する工夫について改善(再考)を求める声も出ていたため，今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名　国語科教育学研究
評価実施日　平成26年7月14日
担当教員名　村井　万里子　　回答者数　15　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	7	3	1			3.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	5					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	7	1				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	3	2	1			4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	6	3	2			3.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	5	3	1			4.1
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	5		1			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	7	2	2			3.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	7	1				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	5	1				4.5



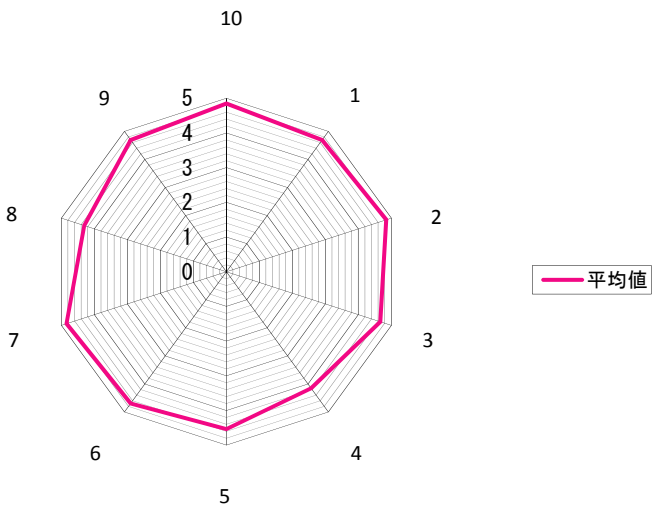
教員のコメント

総合評価が4.5は、授業全体としては概ね成功であると見られるが、個々の項目を見ると長短の差があり、改善すべき課題が明確である。
まず、維持発展させるべき長所は、項目(2)である。実際の教室で生まれた子どもの作文を解釈する、という作業課題の実践性を高め、この長所を活かすには、「発達」と実践の各場面に関わる「典型作文」の種類を増やし、解釈演習を豊富にすることが要請される。
授業者として常に注目する項目は、(9)授業に主体的・積極的に取り組んだーである。この項目の今回の「4．4」という数字は、学部授業と対比的に見て、「院生」の主体性を示していると推察され、授業改善によってさらに向上させる余地がある。
明らかに改善を要す項目は、(1)授業概要、(5)授業進度、(6)説明、(8)板書や視聴覚機器の使用、の4点である。これらの改善は容易ではないと見ている。このアンケートでは、問題点が具体的・詳細にはつかめないからである。教員側で可能な努力は直ちに行うが、授業での直接的反応把握はもちろん、毎回課している「ミニレポート(授業感想記録)」に工夫を加え、あるいはフォーマットや解釈法を開発し、そのつどにとらえきれなかった問題を具体的に明らかにすることに努めたい。

結果報告書

授業科目名　国語科授業研究
評価実施日　平成26年7月24日
担当教員名　幾田　伸司　　回答者数　13　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	4					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	4				1	4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	7	2				4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	2	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	11	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	7	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	2	1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	2					4.8



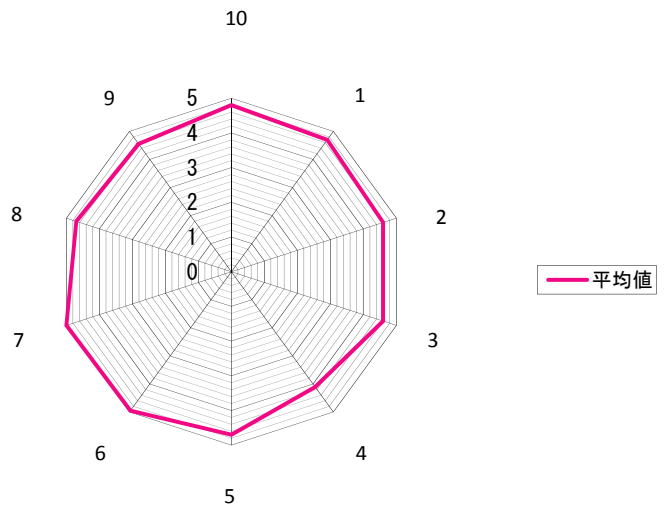
教員のコメント

総合評価は平均4.8と、よい評価をしてもらえました。本授業では、ディスカッションを多く取り入れるなど受講生の活動を多くしていますので、授業に主体的・積極的に取り組めたという項目の点数も高くなっています。満足度が高かったのは、受講生の方が積極的に活動に参加したという面も大きいと思います。本年から少人数でのディスカッションを多めにしましたが、おおむね効果的であったように思います。ただ、もっと議論する時間がほしかったという意見もありました。授業全体との兼ね合いで難しい面もありますが、考えていきたいと思います。
相対的には、成績評価の方法と板書・視聴覚機器の使用についての回答が若干低かったようです。成績評価については、もう少し明確にできるように来年度は工夫します。板書・視聴覚機器の使用については、意見整理のための板書をもっと構造的にできるように気をつけようと思います。また、教材の解釈について、強い解釈、可能性のある解釈の仕分けなど、私の整理がもっとあってもよかったのではという趣旨のご意見もいただきました。受講生の考えの整理の仕方なども課題だ考えています。来年度に向けての課題としたいと思います。

結果報告書

授業科目名　国語科教材開発研究
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　余郷　裕次　　回答者数　20　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	15	4	1				4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	6	1				4.6
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	8					4.6
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	7	5			1	4.1
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	15	4	1				4.7
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	19	1					5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	20						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	15	4	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	7	1				4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	16	4					4.8



教員のコメント

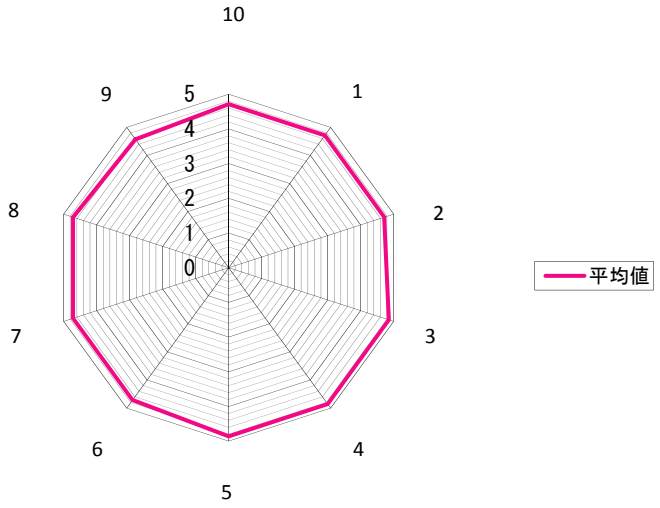
「総合評価」は、4.8の高得点評価であった。この結果は、本年度も現職院生が同じ授業者の立場から、好意的な評価をしてくれたことと、ストレートの学生も、もともとこの分野に興味・関心のあった受講者が多かったことによるものと考えられる。特に、昨年度受講生が12名と少ないことを課題としてあげたが、本年度は受講生20名と改善が見られた。今後も、受講生20名程度以上を維持したい。

受講生のコメントとして 「様々な絵本を通して、絵本のしくみや効果が分かった。学生の人たちが、1冊ずつ読み聞かせをしてくれたことが、それぞれの思いや本の良さを知るきっかけとなった。」、「理論と実践のバランスが非常に良かった。」、「発達段階における読みの系統性のプリントは非常に役立った。」など、数値評価を裏付ける好意的なコメントが得られた。また、「この授業がきっかけで絵本にはまりました。」、「一日一回鏡に向かって絵本を読んだ。」、「実際に置籍校で中学生（1年生）に読み聞かせたところ、大好評であった。」など、講義の内容を生活や実践に移すコメントも見られた。今後も、学生生活や教師生活の実践に役立つ、学生生活や教師生活の実践を変革していく講義を心がけたい。

結果報告書

授業科目名　日本語教育法研究
評価実施日　平成26年7月29日
担当教員名　小野　由美子　　回答者数　7　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	2					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3					4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	2					4.7



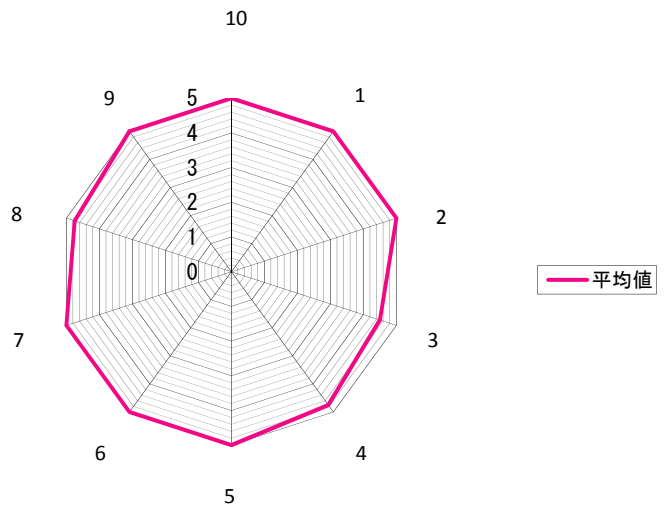
教員のコメント

今後も授業を受けてよかったと思ってもらえるよう、学生の意見も参考に充実した授業内容に取りくみたい。

結果報告書

授業科目名　英米文化研究Ⅱ（現代文化研究）
評価実施日　平成26年7月29日
担当教員名　前田　一平　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	3		1				4.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



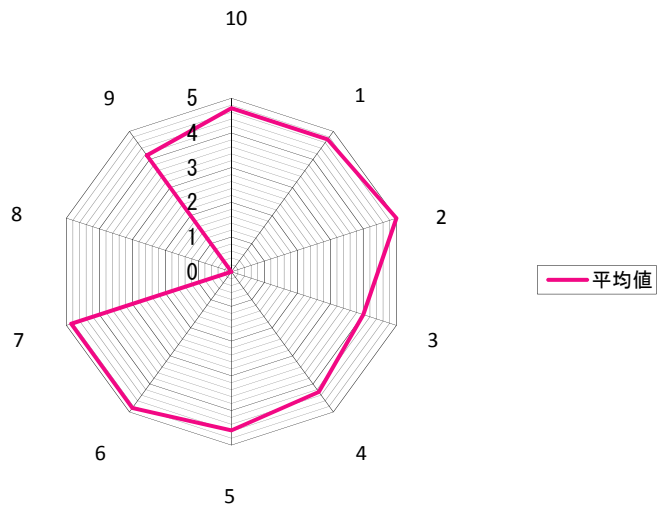
教員のコメント

受講生数の少なさ(4名)もあろうが、学生が気を使った過剰な評価(項目評価9項目中、6項目で5:00、総合評価で5:00)と判断する。一人だけ「教師の実践力の養成につながる内容であった」という項目に3ポイントとしているのは正直な評価であろう。英語教育の実践面には直接つながらない英語文学の授業であるので、実践という評価にはならないだろうが、英語教員養成で英語文学を読む意義を理解してほしい。むしろ、授業者たる私がその意義を語らなければならないという教訓を得た。それが受講生の増加にもつながるであろう。来年度の授業に生かしたい。

結果報告書

授業科目名　英米文学応用演習Ⅱ
評価実施日　平成26年7月24日
担当教員名　太田　直也　　回答者数　7　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3	2				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	3	1				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	1	1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。							
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2	2				4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	2					4.7



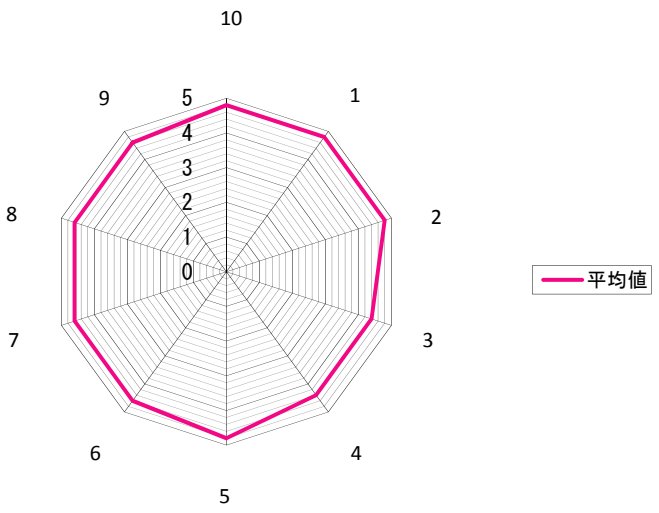
教員のコメント

高い評価を得たことに感謝している。受講者に恵まれたと言えるであろう。演習であるため受講者の発言機会を可能な限り多く設けたかったが予定外に少なくなってしまった。次年度の課題としたい。

結果報告書

授業科目名　言語教育基礎論Ⅱ
評価実施日　平成26年8月7日
担当教員名　藪下　克彦,眞野　美穂　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3					4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4		1				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4		1				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4		1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	1					4.8

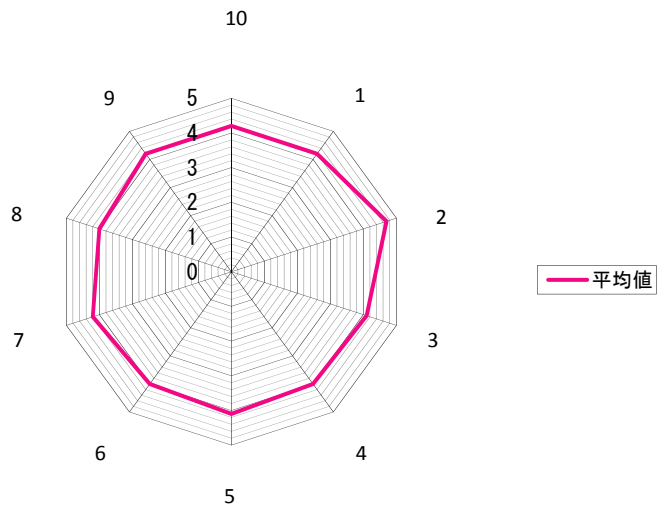


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　英語学研究Ⅰ（英文法理論）
評価実施日　平成26年7月16日
担当教員名　藪下　克彦　　回答者数　10　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	6	1				4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	3					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	5	2				4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	8	1				4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	5	2				4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	6	2				4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	6	1				4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	4	3				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4	2				4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	6	1				4.2

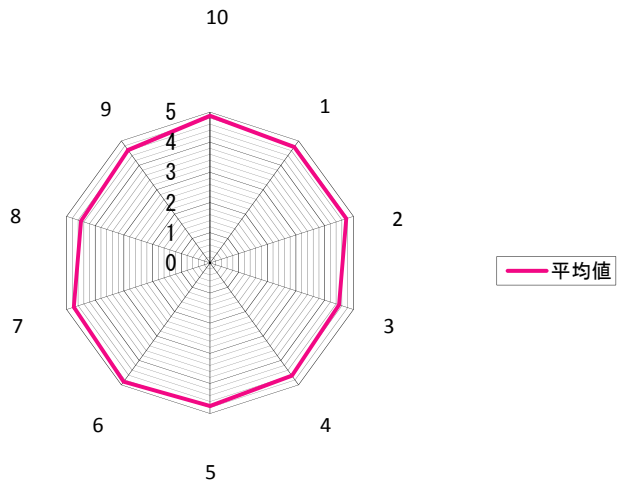


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　英語学研究Ⅱ（言語表現）
評価実施日　平成26年7月31日
担当教員名　眞野　美穂　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	2					4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2					4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	4					4.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	3					4.6
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	6	2					4.8
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	7	1					4.9
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	6	2					4.8
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6		2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3					4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	1					4.9



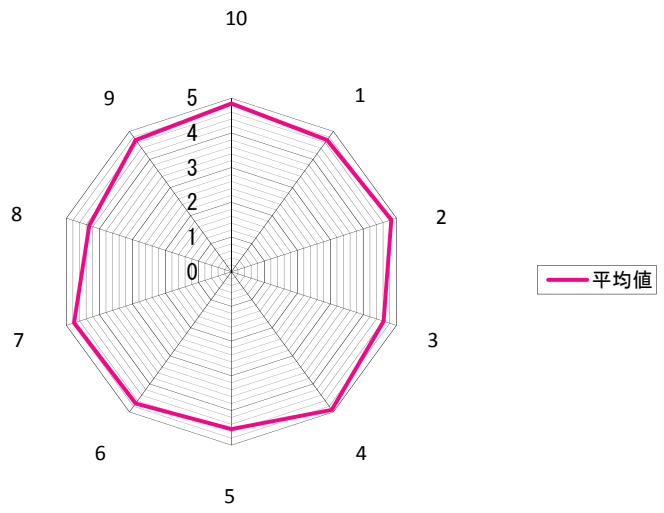
教員のコメント

総合的に高い評価が得られているようで、授業方法や内容については問題がなかったと考えられる。また自由記述欄からも発表を取り入れたことで積極的に授業に取り組めたことが分かったので、この方式は今後も続けたいと思う。板書はあまり使用しなかったことは今後の課題である。

結果報告書

授業科目名　アカデミック・ライティングⅡ
評価実施日　平成26年7月30日
担当教員名　クリストファー・ジョン・ポープ　　回答者数　13　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	4					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	5					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	12	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	4	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	4					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	3					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	5	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	2	1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	2					4.8



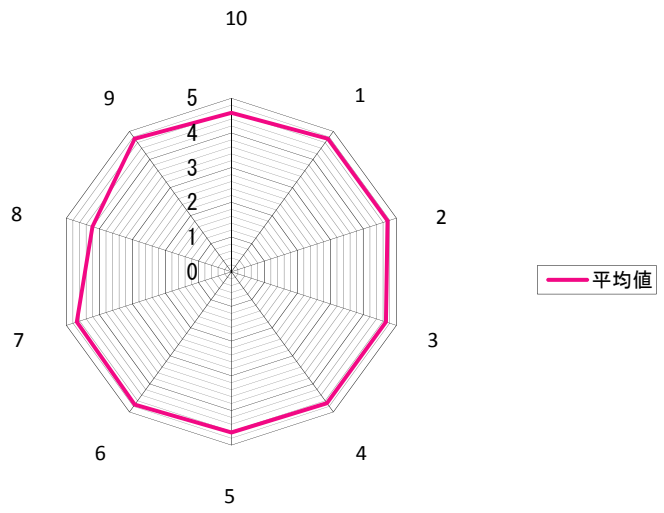
教員のコメント

I appreciate the feedback.
I will consider my blackboard work,however there was not media / technology made readily available to me.

結果報告書

授業科目名　パブリック・スピーキング
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　アーレン　ニムチャック　　回答者数　19　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	15	3	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	15	3	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	4	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	15	2	2				4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	14	3	2				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	15	3	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	14	4	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10	4	4	1			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	1	2				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	13	4	2				4.6



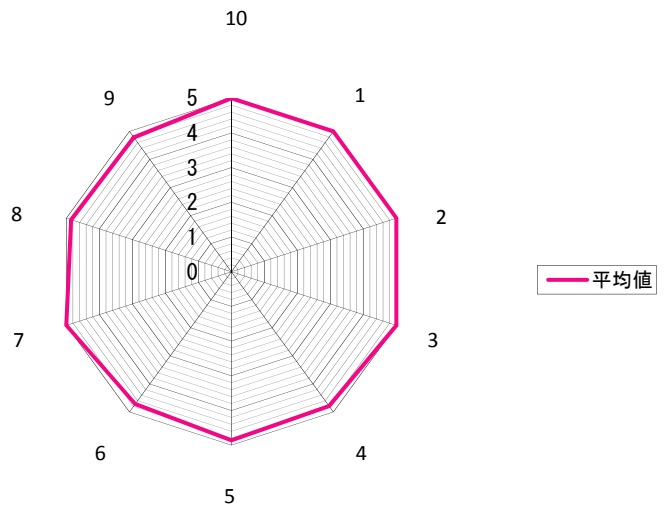
教員のコメント

I enjoyed teaching this class. The students worked hard on their presentations and we could all see the improvement in presenting as the class progressed.

結果報告書

授業科目名　英語科教育特論Ⅰ
評価実施日　平成26年7月18日
担当教員名　伊東　治己　　回答者数　14　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	14						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	11	3					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	12	2					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	14						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	2					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	3					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	14						5.0



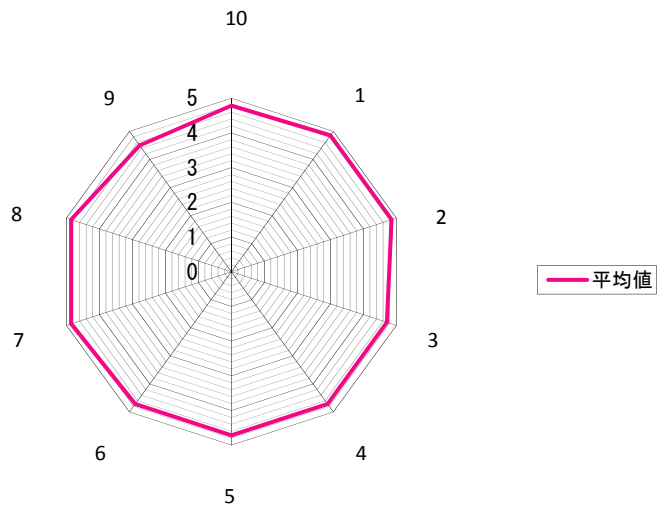
教員のコメント

本授業の目的は，社会の国際化・情報化が急速に進展していく中で、学校での英語教育においても国際社会で通用する実践的コミュニケーション能力の基盤作りが重要な課題となっているという現状認識に立脚し、小・中・高を問わず教室内において英語コミュニケーションを誘発し、英語コミュニケーションに対する積極的態度を育んでいくための方略について、実習形式を交えて多角的に検討していくことであった。受講生からの評価値（総合評価が5.0）や自由記述の形で寄せられたコメントから判断する限り，当初の目的は概ね達成できたと思われる。その中でも特に，授業の2本柱のうちのひとつであるコミュニケーション活動を取り入れた模擬授業（マイクロティーチング）に対して
・実践に役立つ指導例をたくさん学ぶことができた。
・実際に模擬授業に取り組み，助言を頂いたことは実際の現場に即生かせるものであり，大変役立った。
・授業における言語活動は英語科において最も重要な部分である。それについて学び実際に作る過程と実践ができたので大変有意義に感じた。
・現場の教師にもすぐ役立つ，また私たち教師の能力を高く伸ばしてくれる授業であった。
・この授業を受講することで自分の授業を振り返るよい機会となりました。自分の授業改善をしていきたいです。
・I learned how to be a good teacher, especially when we had a discussion. Also I go new methodology of teaching rom here.
など，好意的評価を得ることができ，実践力の育成する上での模擬授業の有効性を再認識することができた。今後も、模擬授業を核としながら理論と実践を融合させた授業改善に取り組んでいきたい。

結果報告書

授業科目名　英語科教育特論Ⅱ
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　山森　直人　　回答者数　14　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	13		1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13		1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	11	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	11	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	13		1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	13		1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	3	2				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	12	1	1				4.8



教員のコメント

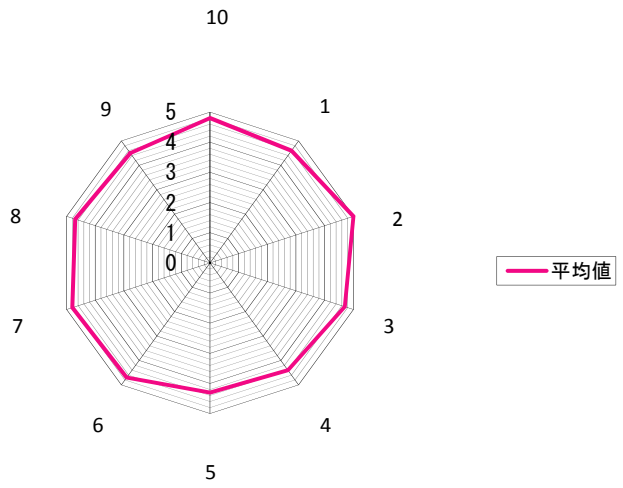
総合評価の数値が4.8であり，高い評価を得ることができた。また，「授業の内容について」や「教員の授業の進め方について」に関わる質問項目の数値も4.7以上であり，受講者にとって本授業の内容と方法は適切であったということが分かる。その一方で「あなたの授業への取り組みについて」の質問項目「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。」の数値のみが4.5と相対的に低い。この項目は毎年評価が低い項目である（昨年度は4.1）。これまでも受講生の積極的な授業参加を促すために，授業において受講生同士が話し合う機会を設定したり，moodleを活用するなどの工夫をしてきた。そして，自由記述欄に，本授業のよかった点として，履修生同士の意見を交換する場があることを挙げるコメントも見られる。今後はこれまでの取り組みを維持しながらも，授業者が学生個々人にも積極的に話しかけ，授業内容に関する興味関心や問題意識を高めるよう心がけたい。

結果報告書

授業科目名　英語科教育特論Ⅲ
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　畑江　美佳　　回答者数　10　人

[

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	4					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	3					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	4	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	3	2				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	3					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	3					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	2					4.8



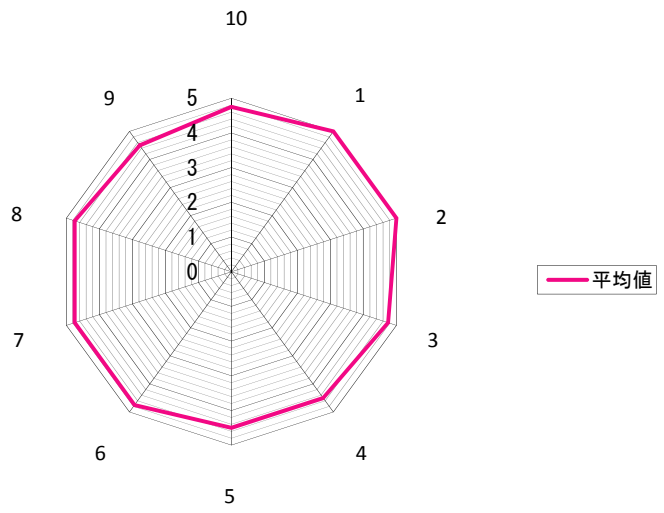
教員のコメント

内容については，「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」が5．0だったので，内容は学生のレベルやニーズに合っていたと思う。授業の進め方については，ICTの不調で授業が寸断されたり発表者がずれたりしたことがあったのが，「授業の進む速さは適切であった」が4．3だった理由と考えられる。授業への取り組みについては，4．5であり，毎回ディスカッション形式をとり，授業の最後に次の課題を与え，それを意見交換をしたり，また，自分の関心のあるトピックについてプレゼンテーションを2回課したことは，概ね受け入れられたと思う。大学院の授業であるので，教わるだけではなく，自ら疑問を持ちそれを解決するために自分で調べることが重要であると考え，授業ではいつもそのように学生に考えさせるように導いている。それが，総合的に4．8という評価になったと思う。

結果報告書

授業科目名　歴史学研究Ⅰ
評価実施日　平成26年9月27日
担当教員名　川岡　勉　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3		1				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3		1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3		1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1					4.8



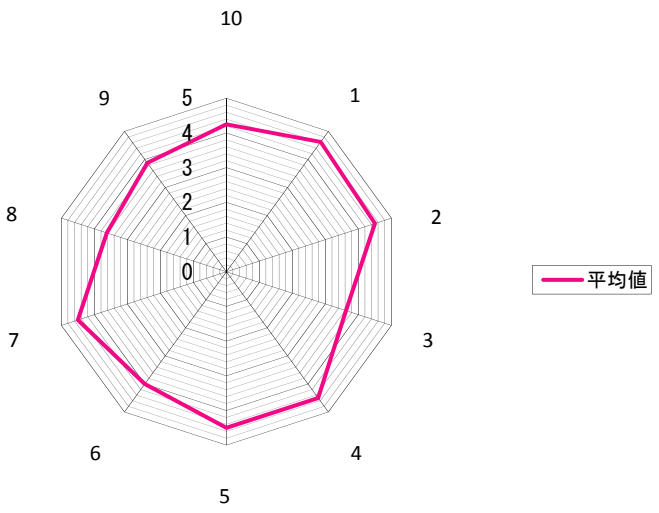
教員のコメント

4名の受講生は、いずれも熱心に授業に出席し、挙手して質問を投げかけるなど、自ら主体的に学ぼうとする姿勢を示していた。授業は教科書の記述を取り上げながら専門的な知識を提示する講義形式のものであったが、受講生の質問や意見を聴取し、双方向的な形をとるように心がけて、気持ちよく展開することができた。

結果報告書

授業科目名　歴史学研究Ⅱ
評価実施日　平成26年7月17日
担当教員名　町田　哲　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	1	1				4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2	1				4.5
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2	3	1			3.6
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	4					4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	4	4					4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	2	4	2				4.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	4					4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		5	3				3.6
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	3				3.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	2	2				4.3



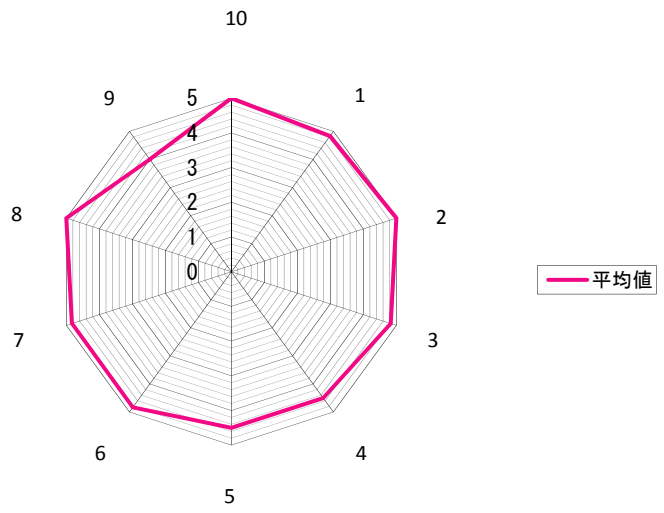
教員のコメント

今年度の歴史学研究Ⅱは、「山里からみた近世社会」をテーマに講義形式で実施した。対象としたのは主に、近世阿波国であるが、そこでの御林制度と実態だけでなく、そこに生きる人々の地域社会のありようとの関わりを中心に論じた。受講生はいずれも熱心に学んだようで、総合点4.3にそれは現れている。一方で、史実を示す史料を逐一取り上げながら講義を進めたためか、わかりやすさという点では4.0とやや低く、また実践力の育成については、3.6と低い数値となった。しかし、「研究方法を学ぶことで教材研究にいかすことができる」というコメントがあったように、直接的に実践力育成にはつながらなくとも、地域や歴史に沈潜しつつ、その特徴をとらえる方法を学びえたことは、実践力や教材研究等に充分反映できるものと考える。史料読解力の育成やポワーポイント等の写真の利用等を果たしながら、その向上につなげていきたい。

結果報告書

授業科目名　地理学研究Ⅰ
評価実施日　平成26年7月17日
担当教員名　畠山　輝雄　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	1	1			4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



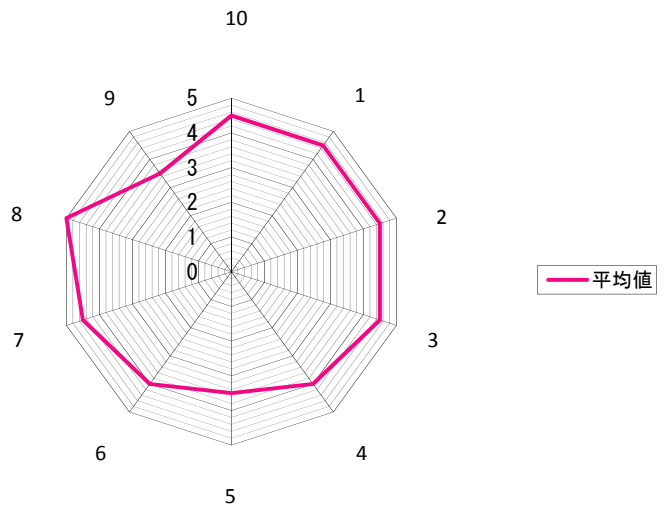
教員のコメント

大学院生からおおむね良い評価を受けたことは、良かったと思う。ただし、主体的・積極的に取り組むことのできなかった院生も数名いたため、次年度はもう少し主体的に取り組めるよう、努力をしたい。

結果報告書

授業科目名　地図表現学研究
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　立岡　裕士　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1		1				4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		1	1				3.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1		1				4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1	1				3.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1					4.5



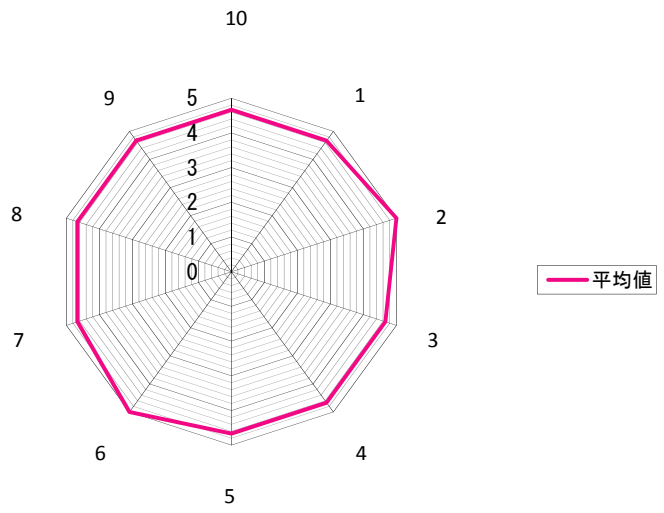
教員のコメント

受講者が2名のため、理解の程度を確認しながら講義を進めたが結果としてはそのように理解されていないようである。

結果報告書

授業科目名　法学・政治学研究
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　麻生　多聞　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



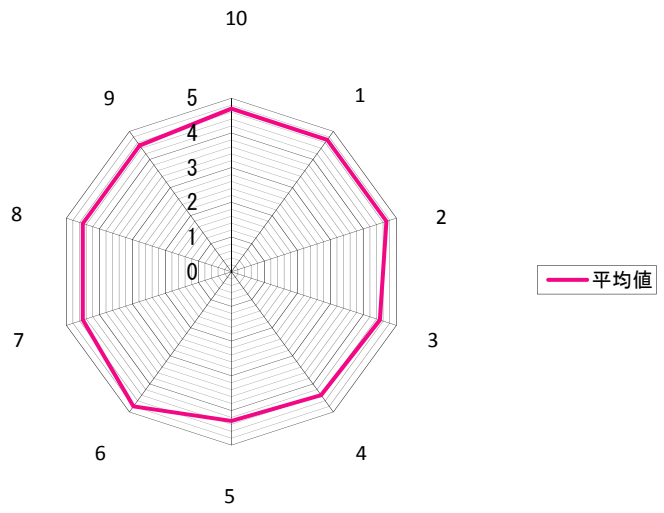
教員のコメント

今期も履修者の皆さんがしっかりと予習をこなし、活発に討議に参加してくれたお蔭で有意義な時間になったと考えています。本科目のような演習系科目では、教員だけではなく履修者の主体的な問題意識と討議に臨む姿勢が何より大切です。本科目では、初回に複数の選択肢を挙げた上での履修者の多数決による講読文献選定手続が設定されていますが、中には自分が読みたいと考えていた文献が多数決で選ばれず、残念な気持ちを抱く履修者も存在するものと思われます。しかし、今期については、全ての履修者が主体的に演習に参加してくれたように思います。心から感謝しています。皆さんから届いた声や課題をしっかりと反映するよう努めながら、今後も本科目を主催していきたいと考えています。

結果報告書

授業科目名　社会学研究
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　山本　準　　回答者数　10　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	3					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	3					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	5					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	4	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	5	1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	1	2				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	5					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	3					4.7

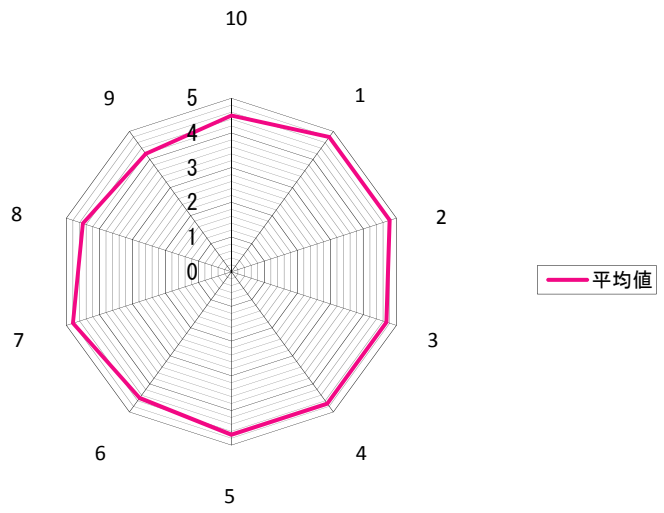


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　社会科教育学研究
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　梅津　正美　　回答者数　10　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9		1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	3					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	3					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	3					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	1	2				4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	1	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4	2				4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	3	1				4.5



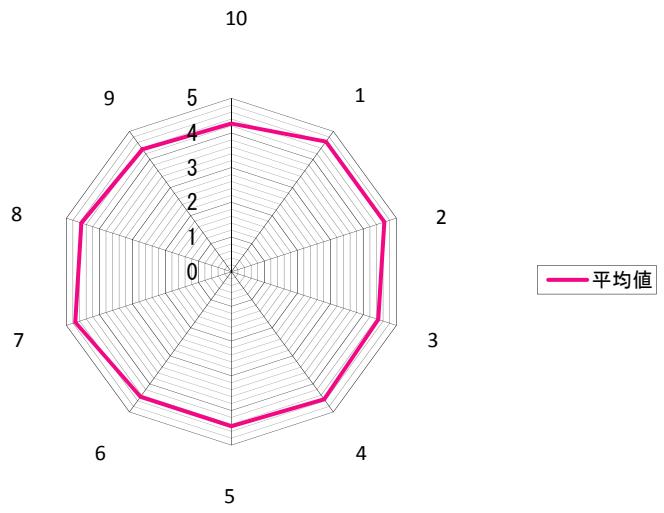
教員のコメント

本講義は、①社会科教育研究の方法論を理解し活用できる、②社会認識形成を視点にした主要な授業論を分析し、その特質・限界・類型を説明できる、③市民的資質育成を視点にした主要な授業論を分析し、その特質・限界・類型を説明できることを目標に展開した。本講義では、研究レベルの授業論と授業計画を主な考察対象にしたが、それに加えて県単位で行われてきた小・中学校の授業研究例を取り上げて考察し、理論的につかんだ授業研究の方法を、現場の授業研究の分析・評価に活用するようにした。本講義は、総合評価が4.5であり、授業の内容・進め方・自己の授業への取り組みに関する評価項目について、4.2～4.8の範囲で概ね高い評価を得ている。こうした評価結果から、本講義が概ね受講生から意義あるものとして評価されたと判断できる。今後一層の授業改善に努めたい。

結果報告書

授業科目名　社会科授業研究
評価実施日　平成26年7月30日
担当教員名　伊藤　直之　　回答者数　11　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	2	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	4					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	6					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	3	1				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	2	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	4	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	3					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	3	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5	1				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	4	2				4.3



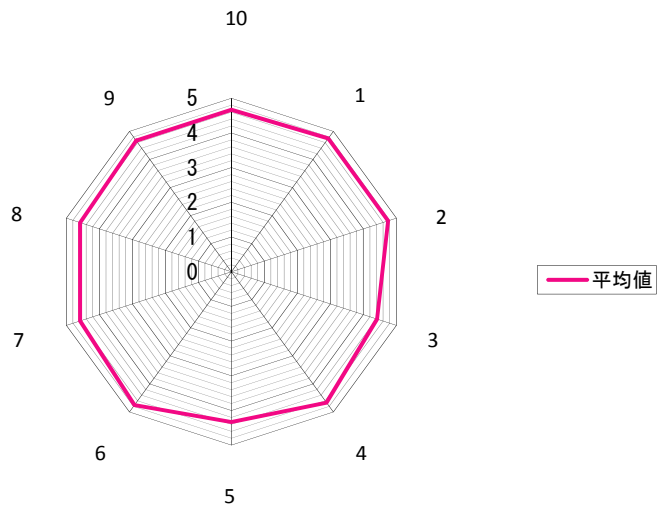
教員のコメント

任意の自由記述を見る限り，好意的な意見であったが，質問項目を見ると，とくに「授業の進む速さ」の点で，低い評価があったようである。
ややスローな展開であることは否めないため，次年度以降，改善を図りたい。

結果報告書

授業科目名　数理科学研究
評価実施日　平成26年8月1日
担当教員名　宮口　智成　　回答者数　12　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	3					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	3					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	5	1				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	5		1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	3					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	1	2				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	3	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2	1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	4					4.7



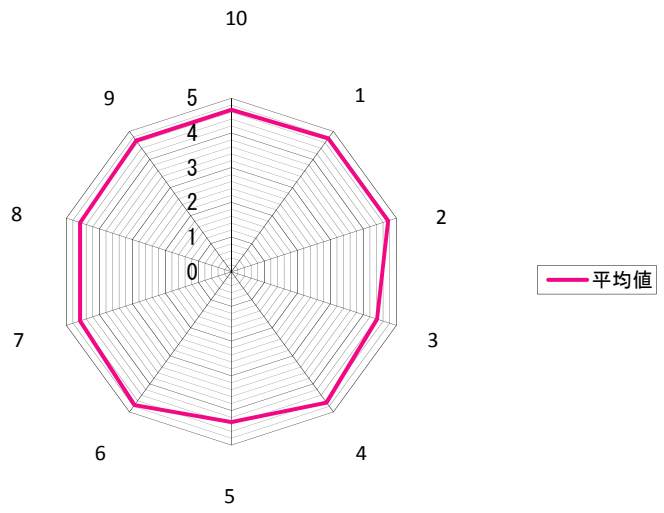
教員のコメント

「授業の進む速さは、適切であった」の項目について、低い評価が見られた。受講学生の学力差が大きく、全ての学生にとって適切な速度で授業を進めることは難しいが、今後も改善を試みたい。それ以外の項目についてはまずまずの評価であったと考えている。

結果報告書

授業科目名　数理科学演習
評価実施日　平成26年8月1日
担当教員名　宮口　智成　　回答者数　12　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	3					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	3					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	5	1				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	5		1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	3					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	1	2				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	3	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2	1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	4					4.7



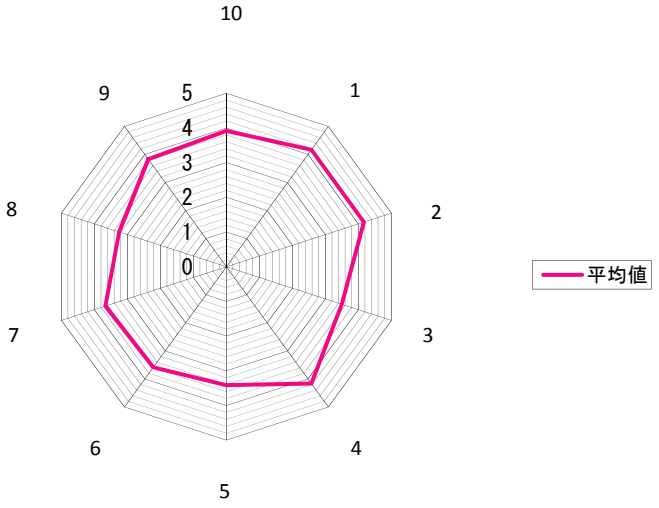
教員のコメント

「授業の進む速さは、適切であった」の項目について、低い評価が見られた。受講学生の学力差が大きく、全ての学生にとって適切な速度で授業を進めることは難しいが、今後も改善を試みたい。それ以外の項目についてはまずまずの評価であったと考えている。

結果報告書

授業科目名　代数学研究
評価実施日　平成26年7月31日
担当教員名　平野　康之　　回答者数　12　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	5	1	1			4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	5	1	1			4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2	3	2	1		3.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	2	4				4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	2	3	1	2		3.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	2	4	1	1		3.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	2	2	2	1		3.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2	4	1	2		3.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3	4	1			3.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	5	1	2			3.9



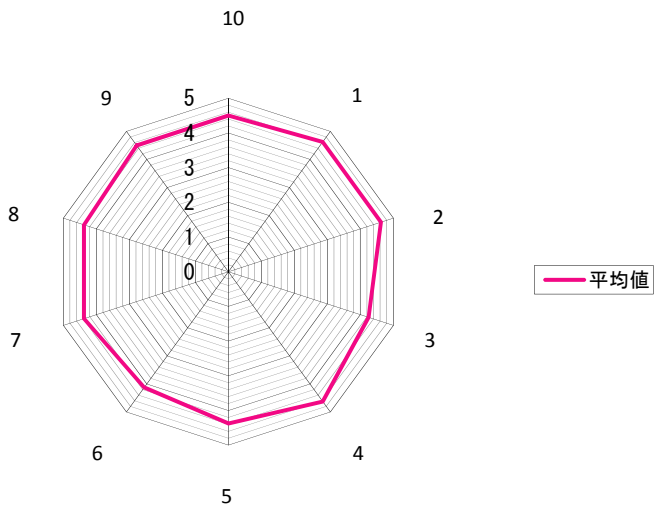
教員のコメント

すべての平均値が3.3以上であり，「(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた」，「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」,「(4)成績評価の方法の説明は，適切であった」という問いに対して評価の平均値が4.2であったので，この授業が受講者に一様の評価は受けていると思われる。しかし，「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」，「(5)授業の進む速さは，適切であった」,(6)受講生に分かりやすく説明した」，「(7)教科書や配布された資料は，適切であった」，「(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった」という問いに対して評価の平均値が3.7～3.3の範囲に留まって，その結果，「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」の平均が3.8に落ち込んだと思われるので，今後，これらの点に関して改善していきたい。総合評価として「(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う」という問いの平均値が3.9であったので大多数の受講者が概ね，この授業に満足しているものと思われるが，この平均値は例年より低い数値である。このことを反省して，板書の工夫や適切に視聴覚機器を使用することなどを積極的に行い，授業の進む速さも学生の理解度に合わせた適切なものに改善していきたい，

結果報告書

授業科目名　代数学演習
評価実施日　平成26年7月31日
担当教員名　平野　康之　　回答者数　8　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	3					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1	1				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	3					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	1	2				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1	3				4.1
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1	2				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1	2				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2	1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	2	1				4.5



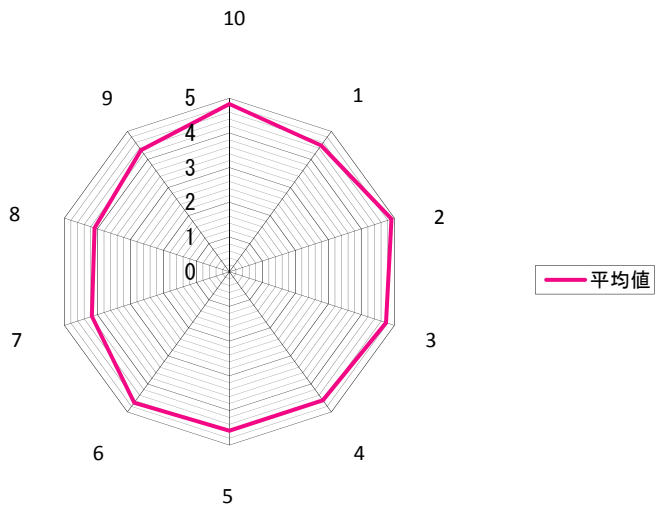
教員のコメント

すべての平均値が4.1～4.6の範囲にあり，「(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた」，「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」，「(4)成績評価の方法の説明は，適切であった」という問いに対して評価の平均値が4.6であり，「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」に対する評価も平均値4.5であったので，この授業を学生主体のものにしたことが評価されたと考える。学生が授業によく出席し，教員の説明をよく聞いてくれて，自ら教師の実践力を高めてくれたことに対しては感謝したい。「(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う」という問いの平均値が4.5であったので受講者が概ね，この授業に満足しているものと思われる。

結果報告書

授業科目名　数学科教育学研究
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　秋田　美代　　回答者数　12　人

質　問　項　目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	6					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	1	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	3	1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	3	1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	4					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	3	2	1			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	5	3				4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4	2				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	2					4.8



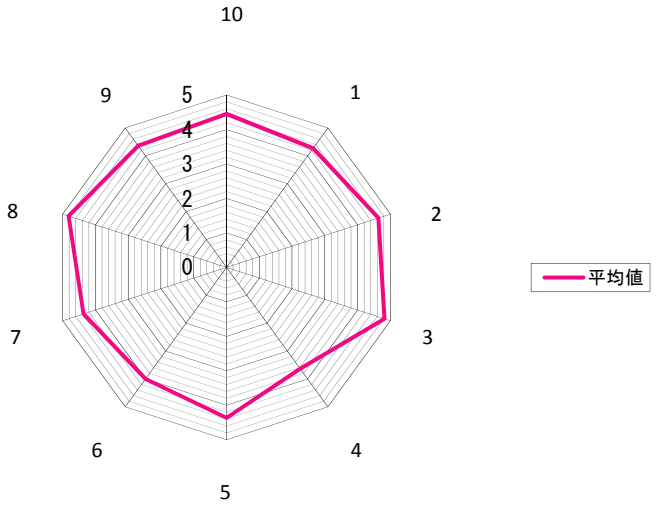
教員のコメント

この授業科目の主な目標は，数学教育の目標論，カリキュラム論，内容論，方法論，評価論等について考察し，生徒の基礎的学力，関心・意欲，創造性等を高める数学学習理論について理解すること，及び数学教育における実践的な課題に対する解決策についての認識を深めることであった。総合評価の平均値は4.8，評価の平均値が高かった質問項目は，「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」，「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」，「(6)受講生に分かりやすく説明した」であり，評価の平均値が低かった質問項目は，「(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった」，「(7)教科書や配布された資料は，適切であった」，「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」であった。ほとんどの質問項目で4以上を選択した履修者が8割を超えていたことから，授業の内容は概ね履修者に適した内容であったと考える。アンケートに記述された「なぜそうなるかを考えた」，「数学の授業の根本的な部分から考えた」，「教師としての心構えが身についた」，「現在の教師の能力で弱い部分を知れたり，それに対する対策などを学べた」という意見等を併せて考えると，この授業科目の目標は概ね達成できたと考えられた。学生の自主的な学習活動を促すために，授業に学生同士の討論・探求的学習等を取り入れており，素材となる資料は配布するが，教科書や授業全体をまとめるような資料は用意していなかった。「(7)教科書や配布された資料は，適切であった」という質問項目で2という評価の学生がいることから，授業全体が概観できる資料が必要な受講者に対する手立てが必要であるように思われた。次年度は配付資料，板書等を工夫することを検討したいと考えている。

結果報告書

授業科目名　数学科教材開発研究
評価実施日　平成26年7月24日
担当教員名　佐伯　昭彦　　回答者数　11　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	4	2				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	4					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	2					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	4	4	1			3.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	2	1	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	3	1	2			4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	5	1				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	7					4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	2	2				4.5



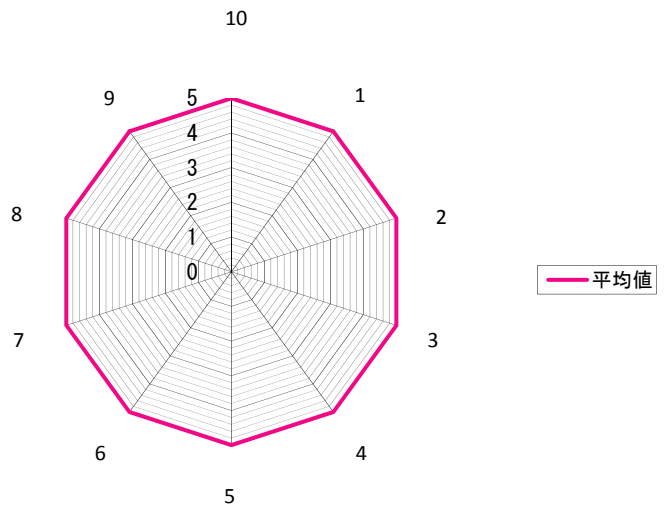
教員のコメント

1項目を除いて「4」以上，総合評価では「4.5」という高評価を得ることができた．本授業では，本授業では，数学教育におけるICT活用について実際の教材を体験することと，数学授業を設計するために有用な理論を学生自身が調べ発表する活動を通して，教材開発に関わる資質・能力を高めることを目的として行った．その結果，項目「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」が「4.6」，項目「教師の実践力の育成につながる内容であった」が「4.8」の高評価を得ることができた．

結果報告書

授業科目名　物理学特論Ⅰ
評価実施日　平成26年7月31日
担当教員名　本田　亮　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



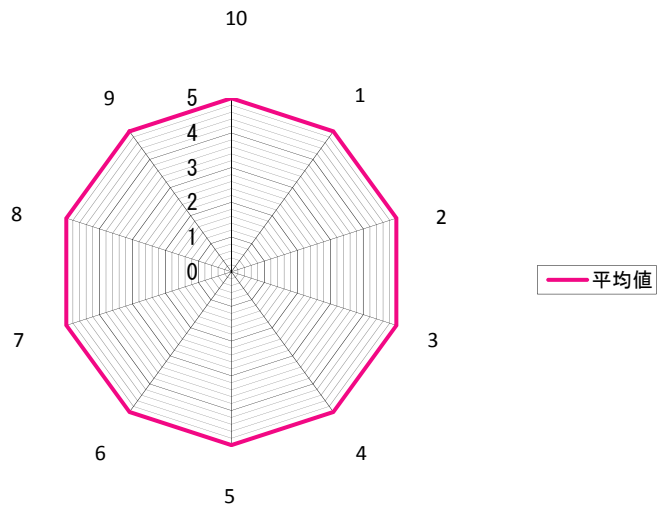
教員のコメント

受講生が2人と少数であったので，彼らの学習履歴にあうように授業を構成することができた。

結果報告書

授業科目名　物理学特論Ⅳ
評価実施日　平成26年7月30日
担当教員名　本田　亮　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



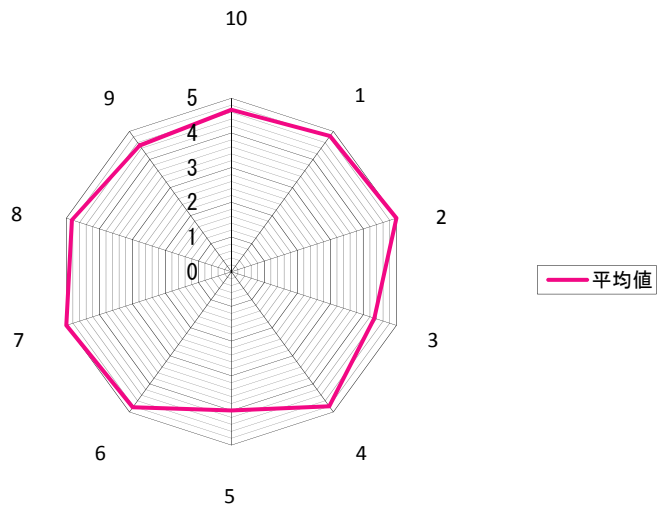
教員のコメント

受講生が2人と少数であったので，彼らの学習履歴にあうような授業構成が可能であった。

結果報告書

授業科目名　有機化学特論
評価実施日　平成26年8月5日
担当教員名　胸組　虎胤　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2	1				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1				1	4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1	1	1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	2					4.7



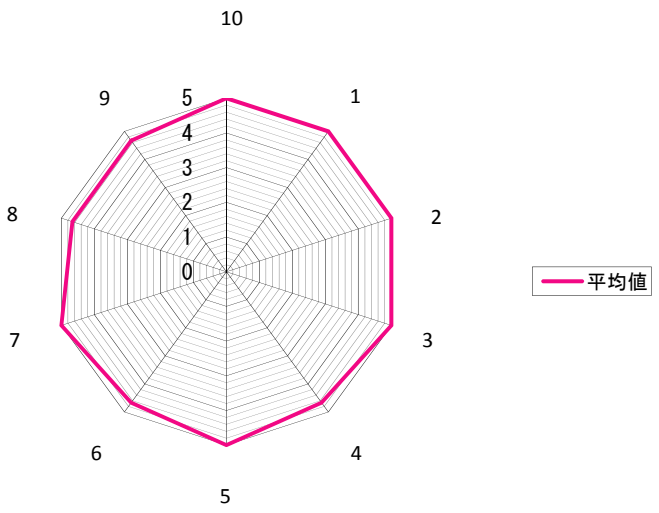
教員のコメント

授業の進め方について、不適切（点数2）と回答する学生がいたが、これは学生の水準が一定でないことが原因であると考えられる。今後は個々の学生に合わせた授業の進め方、課題の出し方を検討したい。

結果報告書

授業科目名　生物科学特論Ⅱ
評価実施日　平成26年7月17日
担当教員名　工藤　慎一　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



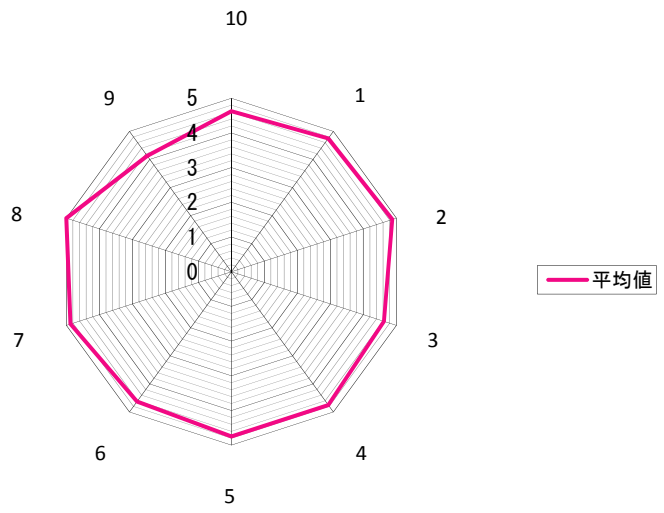
教員のコメント

授業内容や方法に，特段，改善すべき点は無い。

結果報告書

授業科目名　宇宙科学特論
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　西村　宏　　回答者数　8　人

質　問　項　目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7		1				4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	2					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	3					4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3	2				4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	3					4.6



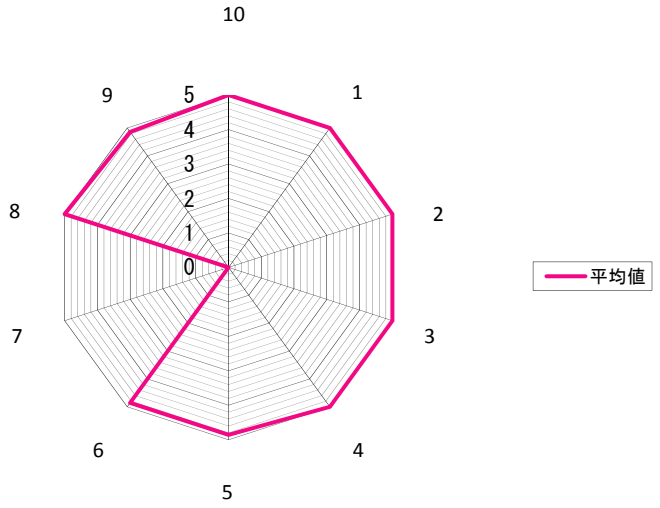
教員のコメント

今年度の受講者数は8人で，多過ぎもせず少な過ぎもしない，大学院の授業にとっては最適と言ってもよい人数であった。レーダーチャートに表れているが，質問事項(9)では，自らの授業に対する姿勢が，極めてポジティブで，実際に授業者が時間中感じた受講の雰囲気そのものを示しているものと思われる。
授業者として，最も厄介なのは，本科目のように1年を過ぎたデータは，歴史的展開の解説以外の部分では既に古くなっているため，新しいデータに基づく説明が必要であることで，この点はパワーポイントの前準備段階でも予測できない内容を，授業時間に説明する必要が出てくることである。
質問事項(9)以外の項目においては，レーダーチャートにも見られるとおり，すべて90%以上の学生による評価が得られており，上記のような新たな内容にも，満足できるほど十分に対応できたものと自負している。今年度の受講生全般では，非常に授業がやりやすく，話をスムーズに進めることができた年度であった。ここでいうスムーズと言うのは，余談をせずに黙って聴講しているという意味ではなく，こちらがしゃべった内容に関して，さらに深く突っ込んだものの見方ができているという点においてである。ほとんどすべての受講者が，いまどのような内容について講義されているかが，講義以前に予習されていたことが特筆すべきことではなかったろうか。受講者層としては，普段とほとんど変わりがないのに，授業に非常な活気が生まれ，授業者として非常に進行しやすい授業時間であったことは言うまでもない。このたぐいの現職教員に習う義務教育児童・生徒たちの宇宙科学のみならず一般的に科学への方向付けは，かなり前向きなものが感じられた。

結果報告書

授業科目名　地球科学特論Ⅱ
評価実施日　平成26年7月31日
担当教員名　村田　守,香西　武,足立　奈津子　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6					1	5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。							
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1					4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



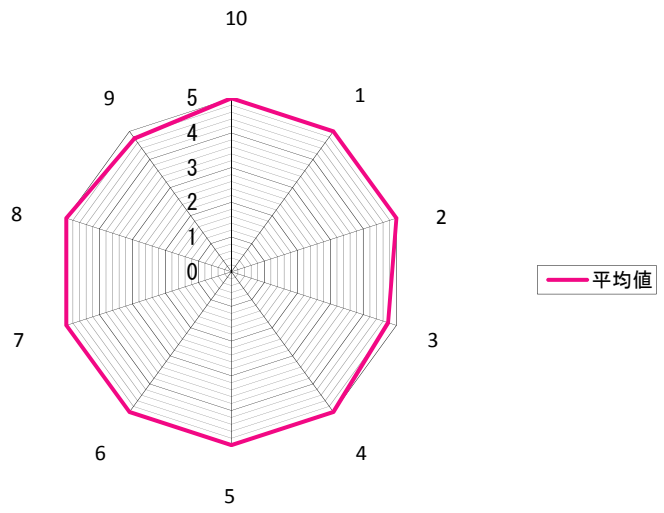
教員のコメント

院生は現職教員が多く，講義に積極的に取り組んだ。多くの院生は昨年度の地球科学特論Ⅰを受講しており，そのために講義の理解が進んだものと思われる。

結果報告書

授業科目名　地質学･古生物学特論
評価実施日　平成26年7月16日
担当教員名　香西　武,村田　守,小澤　大成,足立　奈津子　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



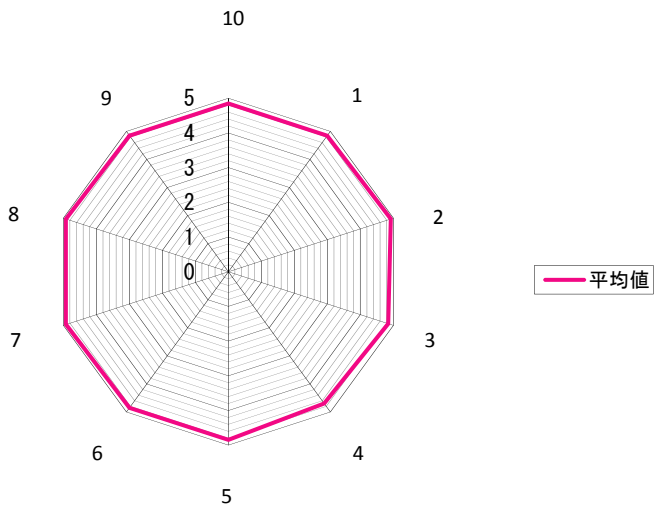
教員のコメント

少ない受講生であったため，受講生一人一人の授業に対する希望を取り入れる形で，授業を進めた。その結果，本授業に対する評価が高くなったものと思う。こんごとも，受講生のニーズを調査し，満足のいく授業を目指したい。

結果報告書

授業科目名　声楽発声法
評価実施日　平成26年7月29日
担当教員名　頃安　利秀　　回答者数　13　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	2					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	12		1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	12	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	2					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	2					4.8



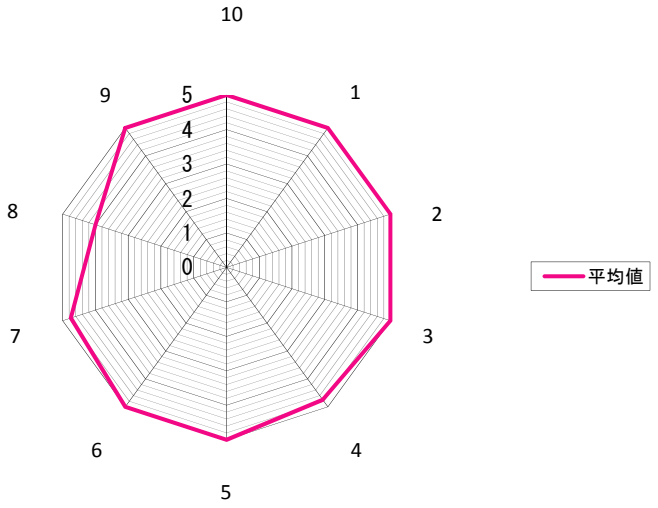
教員のコメント

この授業は歌唱表現という実技を主体とした演習で，受講生個々の歌唱能力に応じた授業を行っている。そのため成績評価については受講生の授業への出席と取り組み状況に重きを置いている。そのため成績評価の方法について少し説明不足なところがあったかもしれない。また個々の実技能力に差があり，人によっては授業の進む速さについていくのが困難な場合もあったようである。しかしながら全体として4.8という高い総合評価があったことは，授業の進め方やあり方についてほぼ満足してもらったことと考えている。

結果報告書

授業科目名　ピアノ演奏基礎演習
評価実施日　平成26年7月23日
担当教員名　森　正,田中　巳穂　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2		2				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



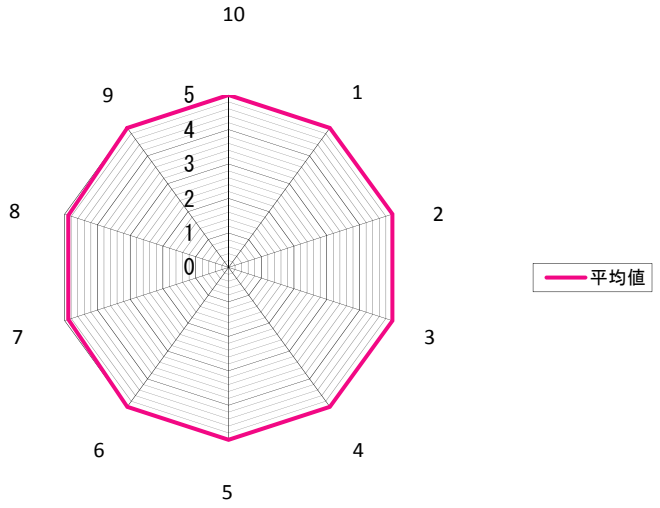
教員のコメント

学生一人ひとりが課題意識を明確にしており，そのために授業に対する取り組む意識も高いものを感じた。各学生のピアノの学習に対する経験値の違いから，その内容は個人差を配慮したものとなり，当然学生に対する評価も試験での演奏だけでなく，各自の取り組みなども対象とした。このような授業の進め方が，学生にも支持された授業評価の結果であると考える。

結果報告書

授業科目名　学校教材ピアノ伴奏法
評価実施日　平成26年7月29日
担当教員名　森　正　　回答者数　9　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9						5.0



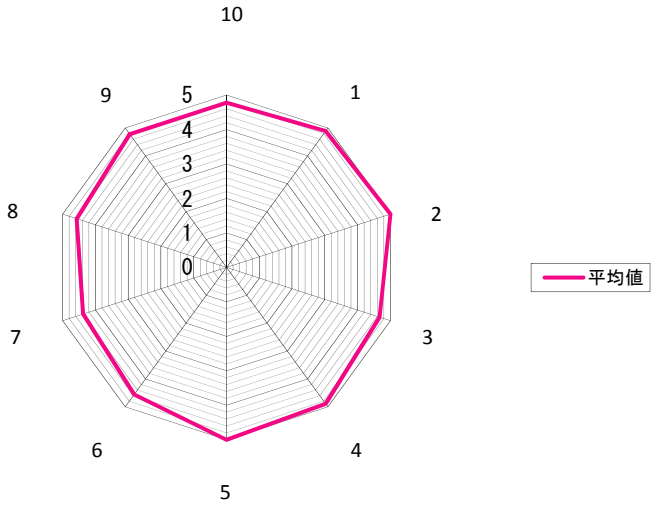
教員のコメント

音楽コース以外からの受講生や，音楽コースの中でもピアノを課題研究にしているものいればそうでないものと，これまでの学習状況，音楽体験等が様々な学生が受講した授業であった。このクラスの状況に応じた授業の進め方として，個々の学生の能力に適した個人レッスンと，実際に，他の受講生が歌う歌の伴奏を行なうクラス授業とを交互に行なったが，学生からのコメントを読むと，この方法が高く評価されたようである。音楽大学などでこのような授業を行なう際には，学生の実態がおおよそ均一になるので，このような方法は不要であるかもしれないし，また他人の演奏を聴くいうことも授業の大きな目的になるが，本学のような教育系の場合は，今年度のように様々な受講生が集まることは今後も当然考えられることであり，その際には，このように個人レッスンとクラス授業の両方を行なう方法の導入は，積極的に検討されるべきである。

結果報告書

授業科目名　管弦打楽器演奏基礎
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　山根　秀憲　　回答者数　9　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8			1			4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	1		1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1	2			1	4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1	1			2	4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8		1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	2					4.8



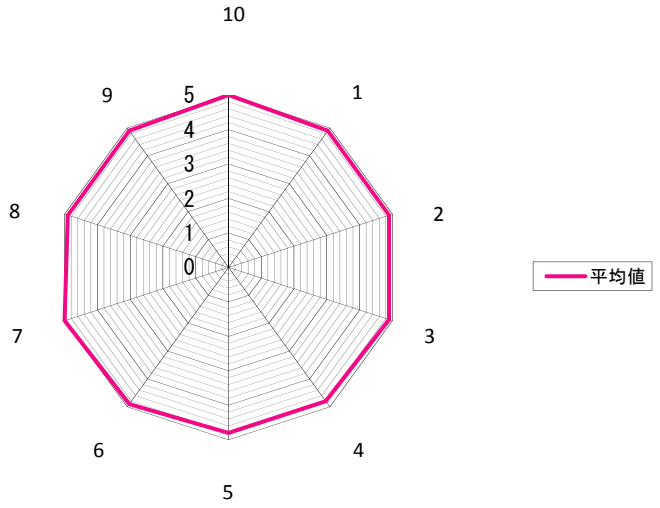
教員のコメント

9人の受講者の内、4人がトランペット、1人がホルンであった。この授業でトランペットを選択する学生の理由の一つに、小学校での金環アンサンブル指導に役立てたい、というものがある。今回、金管楽器に初めて取り組む受講者にとって、4ヶ月という期間は、全く不十分でるが、日常的な計画性のある継続的な練習と、この分野に関する基本的な知識の習得がいかに重要であるかを理解し、自身の状況を改善するための努力をしていた。さらに、ある程度の学習歴のある受講者の様子を授業や普段の練習から学びとることができた。授業の最後では、受講者によるアンサンブルを行った。楽器編成のアンバランスを音楽的に補う工夫が必要である。どのような工夫ができるかを考えて行動することを促した。この経験は、小・中学校でのアンサンブル指導に必ず生かされるはずである。今後、受講者がこの点への注意力をもてるよう努力したい。

結果報告書

授業科目名　指揮法基礎演習
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　山田　啓明　　回答者数　10　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9		1				4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	2					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	1					4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10						5.0



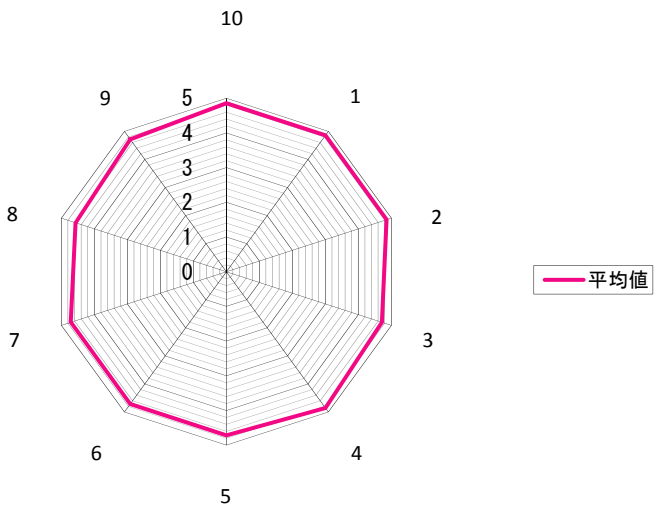
教員のコメント

授業内容の性格上，実践的にならざるをえない。指揮法はピアノ伴奏と同じく教科内容というよりも指導する教師が身につけるべき技能の面を持つ。アンケートの記述式回答からも，「実践的な内容で良かった」との記入が目立った。指揮法の教材にいくつか小学校の歌唱共通教材を用いたことも好評の一因と考えている。

結果報告書

授業科目名　楽曲分析研究
評価実施日　平成26年7月29日
担当教員名　松岡　貴史　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6		1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6		1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6		1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6		1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	1					4.9



教員のコメント

授業では，楽曲分析の方法を提示し，学校教材を含め，受講生が希望するさまざまな様式の楽曲について実際に分析と楽曲解釈を行い，演奏表現にそれをどう生かすか，演奏を交えながら検討を行った。受講者は終始積極的に取り組み，このような授業内容が求められていることがひしと感じられた。実際，毎回の授業において学ぶ意欲と内容の深まりが強く感じられ，その結果，総合評価4.9となり，満足度の高い授業であったといえよう。

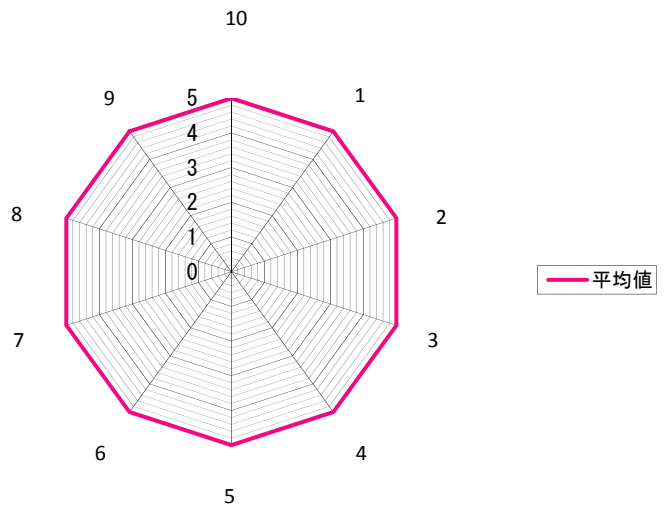
自由記述には，「曲を分析することで、曲に込められた作曲家の思いが見えてくることが分かった。理論的に楽曲に向き合えた。クラシックのみならず、学校音楽の教材、ポップスなど、いろいろな曲に触れることができた。受講生一人一人の課題について取り組んでくれた。分かりやすく楽しい授業であった。」「板書をノートに取るのに大変なときがあった。」などの声があった。

主体的に取り組んだ理由としては、「いろいろな楽曲に触れて意欲が湧いたから。常に新しい発見や意外性があり興味深かったから。自分でもどうしてこの和音、リズムなのだろうと考えながら分析に取り組めたから。楽しかったから。」などの回答があった。
さらに、「他の曲も分析してみたい。自分の演奏研究にも活かしていきたい。先生の曲が聴けて良かった。」などの記述があった。

結果報告書

授業科目名　音楽教育史研究
評価実施日　平成26年7月24日
担当教員名　長島　真人　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



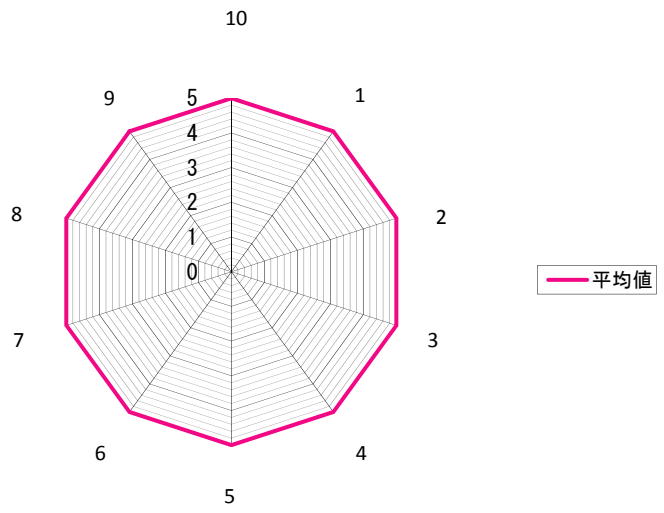
教員のコメント

今日の我が国の学校音楽教育のルーツを歴史的に探る授業を工夫してきた。特に、ここ数年は、講義一辺倒になるのではなく、過去の出来事が語りかけてくる示唆を共有するために、対話的な活動を工夫してきた。この授業に対して、熱心に取り組んでくれる院生が集まり、手応えのある分かち合いが出来たように思っている。高い評価を得ることが出来たのも、そのためであると思う。「よかったと思われる点」に関しては、「今まで知ることのできなかった音楽教育について知ることができた」、「音楽教育の発生から現在に至るまでの歴史とその背景にある哲学について学ぶことができた」、「音楽教育の重要性を具体的に史実から学ぶことができてよかった」という回答があった。「主体的・積極的に取り組んだ理由」に関しては、「いろいろな面から歴史をわかりやすく話してくださり、今後の学校での授業に役立つ興味のある内容だったから」、「授業に参加し、現在や自分との関わりの中で歴史を学び取ろうとした」、「しっかり講義を聴くことができた。現場に帰って、実践に結びつけて生きたいと思う」、「今後、学校の音楽における自分自身の取り組みに価値づけ、自分なりの音楽観を形成したい」という回答があった。「その他の感想」に関しては、「楽しく歴史を学ぶことができました」、「これからの実践に生かしていきたいと思います」、「学校教育における音楽教育の重要性を他の先生方にも説明して、納得してもらえるような理論を学ぶ機会に恵まれ、とてもよかったと思います」という回答があった。

結果報告書

授業科目名　音楽科教育研究
評価実施日　平成26年7月24日
担当教員名　長島　真人　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



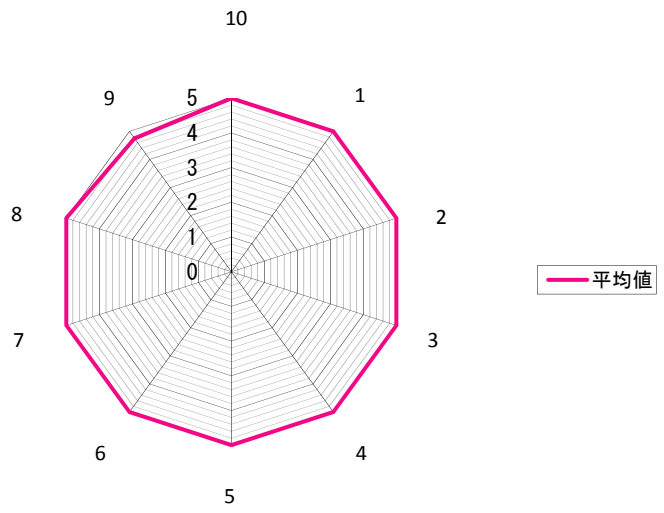
教員のコメント

音楽科教育の基礎的な原理となる教科論、学習論、授業論を扱った授業であるが、講義一辺倒の授業を廃止し、グループ討議や対話の場を活用し、主体的な探究活動が生じるように工夫してきた。特に、院生に向けての発問を工夫し、彼らの思考力や想像力が引き出されるように配慮してきた。そして、今年度は、問題意識の高い院生が集まり、課題に対して熱心に取り組み、望ましい分かち合いができる授業が実現された。その成果が、評価に現れたように思っている。「よかったと思われる点」に関しては、「音楽科の授業をする上で知っておくべき大事な内容を基本的なところから丁寧に教えていただいた」、「音楽科の授業の構造について、難しい課題を先生がわかりやすく投げかけてくださったので、真剣に音楽について考えることができた」、「とてもわかりやすく説明してくれた」、「実践でどのように生かせば良いかまで説明があったので、授業するときに参考にしたいと思った」、「音楽科の授業理論が深く学べた」、「授業の中で予習と復習があり、思い出しながら学べた」、「語り合うことで記憶されたいったと思う」、「講義を聴くだけでなく、対話することによって、自分なりに咀嚼し、解釈することができた」という回答があった。「主体的・積極的に取り組んだ理由」に関しては、「先生の話をよく聴いてメモを取った」、「自分が音楽とどう向き合うべきかについて、真剣に考える場であった」、「実際の授業について考え、友達や先生と話しあいながら、進めていくことができた」、「先生が投げかける問いについて仲間と積極的に意見を交わし、自分の心の中でしっかり整理することができた」、「先生の出す課題に集中して語り合うことができた」、「先生の意欲をかき立てる言葉や発問が良かった」という回答があった。「その他の感想」に関しては、「この理論をふまえて、実際の授業に生かしたい」、「この授業で教えていただいたことを自分のものとして理解し、今後に生かしていきたい」、「実践の場においても、この理論をぜひ生かしていきたい」という回答があった。

結果報告書

授業科目名　音楽科授業演習
評価実施日　平成26年7月24日
担当教員名　小山　英恵　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



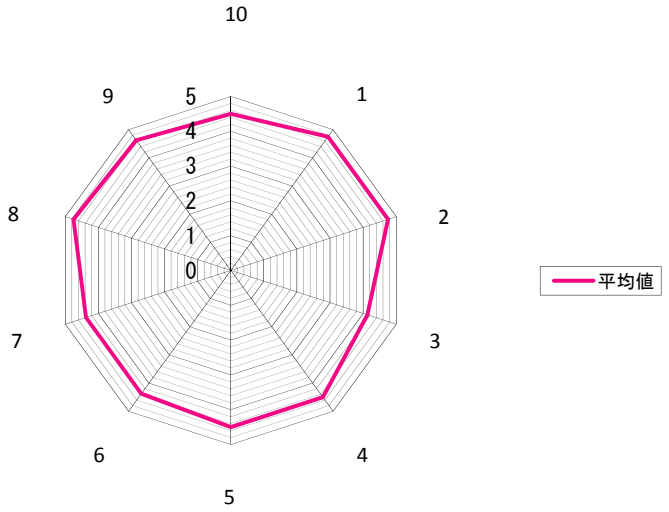
教員のコメント

学生たちの真摯かつ積極的な授業態度により、授業において真剣な学びの空気をたもつことができた。

結果報告書

授業科目名　絵画制作研究
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　鈴木　久人　　回答者数　8　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	5	1				4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	2	1				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	2	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	3	1				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	4					4.5



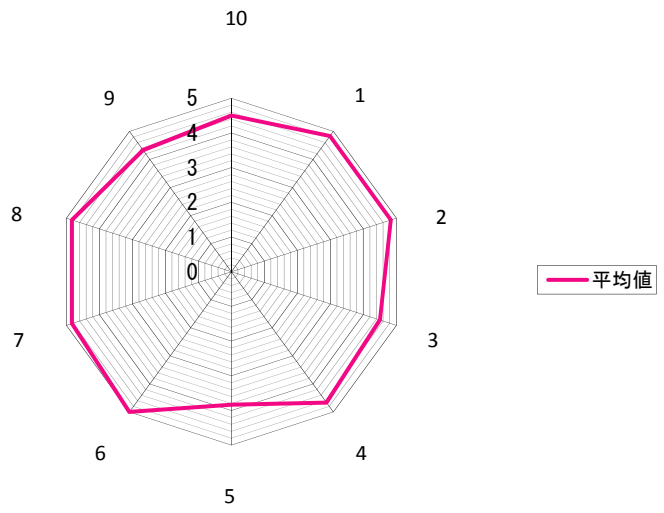
教員のコメント

概ね，質問事項(1)から(10)では本授業の内容が好意的に受け取られていると考える。また多くの質問で前年度のよりポイントを挙げることができている。今後とも授業の内容，進め方，評価についての説明等に丁寧に取り組んでいきたい。
自由筆記の質問でも好意的記述が目立ち，前半の現代美術作品を取り上げている内容が高評価を得た。本授業の内容・経験が教育現場でどのように生かせるのかも履修生は感じ取ってくれた表記が多く見られた点は今年度の成果と言える。しかし開講形態，使用教室への不満の表記があり，今後オリエンテーション時に学生と話し合い，どのように進めるかを決めていきたい。

結果報告書

授業科目名　石彫制作演習
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　野崎　窮　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		5	1				3.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2	1				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	3					4.5



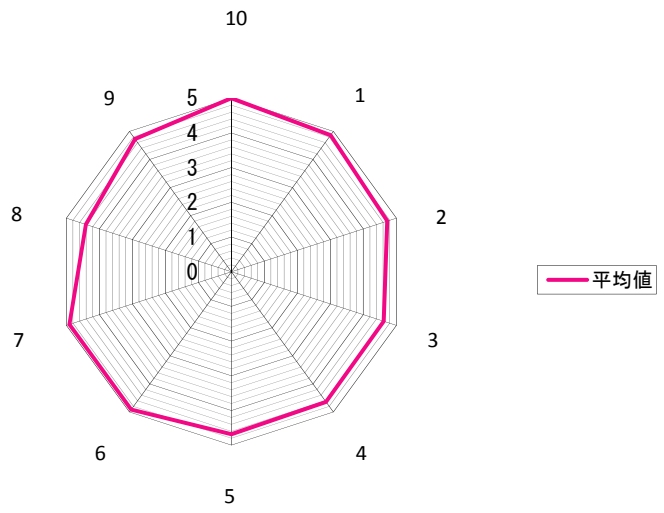
教員のコメント

質問項目(5)が3．8であり，他の項目に比較して悪いことは授業者として当初から覚悟の上であった。授業時間だけで完成できる作品制作でないからである。この事に関しては学生の取り組む姿勢により様々な受け止め方がある。多少の問題があったにしても，大学院の授業であることからある程度の専門性をもった授業を行いたいと考えている。

結果報告書

授業科目名　陶芸制作演習
評価実施日　平成26年8月1日
担当教員名　栗原　慶　　回答者数　22　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	19	3					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	17	4	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	15	4	2			1	4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	16	4	2				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	16	5	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	20	2					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	20	2					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	7	3				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	4	1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	22						5.0



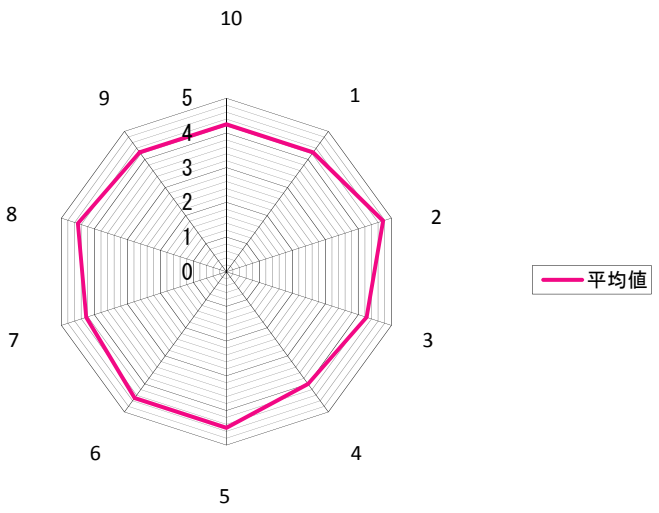
教員のコメント

総合評価は5．0であったので、授業の進め方や内容に大きな問題はないものと考えるが、板書や視聴覚機器の使用については平均値4．4となった。これは実技指導が主で、実際にデモンストレーションを行う事で説明を行っているためであろう。教室の設備面で改善や、作業の流れを見極めて視聴覚機材を的確に使用していくよう心掛けたい。教師の実践力につながる内容においても、陶芸制作を工芸の位置付けから考えたり、美術教育での効果なども議論しながら進めて行くよう検討していく。

結果報告書

授業科目名　芸術学研究
評価実施日　平成26年7月29日
担当教員名　小川　勝　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1	1				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1	1				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2	1				4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	2					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	3					4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	3					4.3

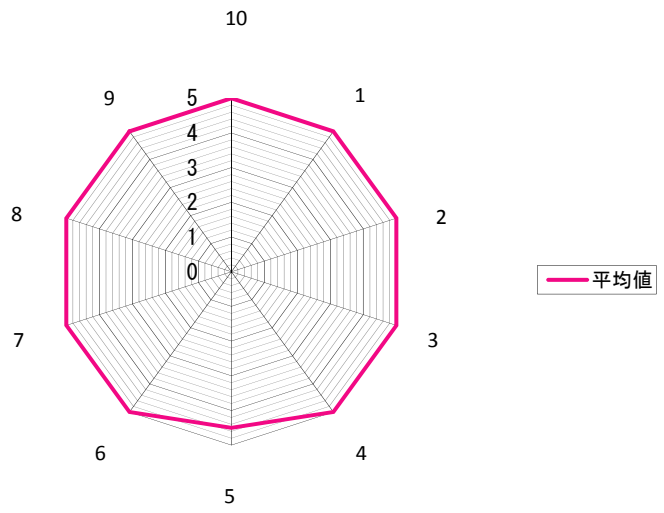


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　美術科授業研究
評価実施日　平成26年7月31日
担当教員名　山木　朝彦　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0

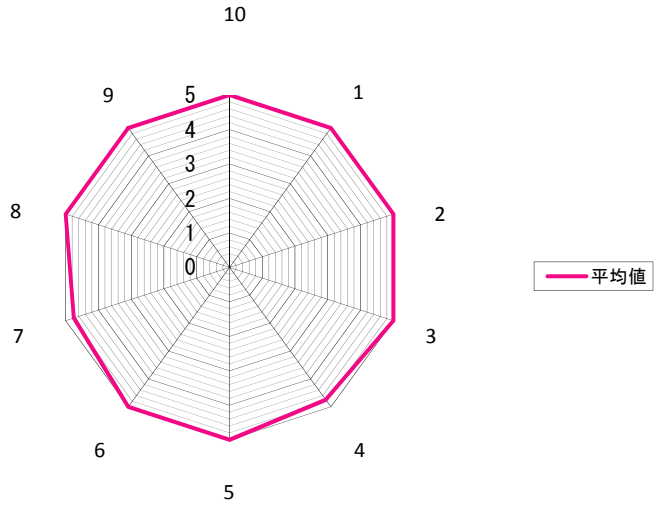


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　美術科教材開発研究
評価実施日　平成26年7月24日
担当教員名　山田　芳明　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



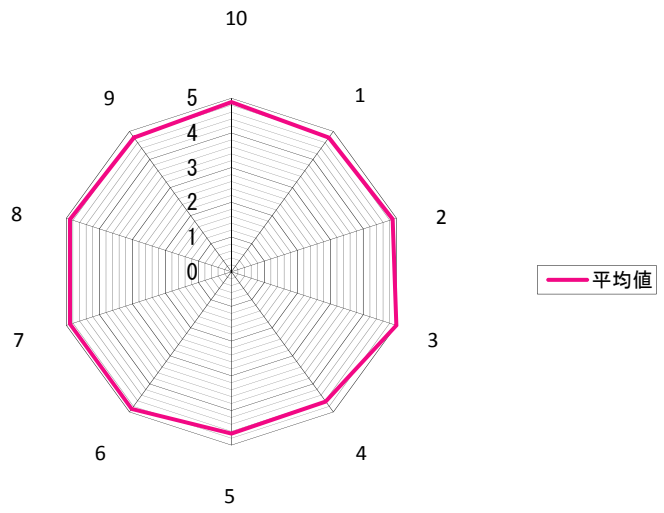
教員のコメント

本年度も昨年度同様，講義前半に教材開発に関する事例研究のための授業実践VTRを視聴し，講義の後半では学生自身が教材開発することを通して教材開発について実践的に学ぶという構成で授業を行った。受講者数が4名と少人数のため統計的な有効性について検討しないが，受講生の多くが5の評点をつけていることから，学生にとって有意義な授業であったと判断する。

結果報告書

授業科目名　美術科教育研究法演習
評価実施日　平成26年7月29日
担当教員名　山木　朝彦　　回答者数　9　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1	1			1	4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	1	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8		1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	1					4.9

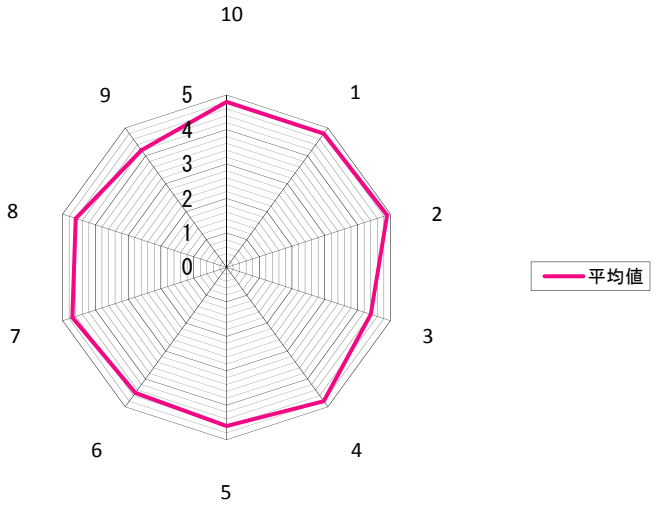


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　スポーツ社会学研究
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　木原　資裕　　回答者数　10　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	2	2				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	2					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	2	1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	1	2				4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	3					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	2	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	6	1				4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	2					4.8



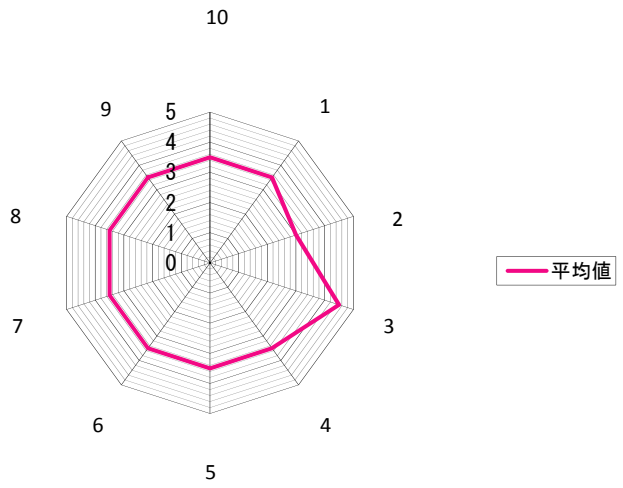
教員のコメント

「10. この授業を総合的に評価すると，よかったと思う」が平均4.8であり，まずまずの評価を得ていると判断できる。
自由記述では以下のようなおおむね講義内容に肯定的なものがほとんどであった。
〇メディアと武道・スポーツの関わりや今まで見ることのできなかった映像から，新たな発見があった。
〇自分の興味あるスポーツが勉強できて楽しかった。
〇様々な映像を見ることができたので，イメージを持ちやすく，比較がしやすかった。
〇スポーツについて新たな視点で学ぶことができた。
これらの記述から，ビデオ映像によるそのスポーツに係わるイメージを持ちやすくしたことが、受講者のモチベーションをあげることにつながっていることが推察できる。また、「新たな発見」や「新たな視点で学ぶ」等の自由記述のことばから、授業者が意図した授業内容がある程度、受講者に伝わっていることがわかる。
今後の課題としては、「3. 教師の実践力の育成につながる内容であった」平均評価4.4をさらにあげることができるように教師の育成に係わる内容と視点を設けていきたいと考えている。

結果報告書

授業科目名　体育・スポーツ心理学研究
評価実施日　平成26年9月23日
担当教員名　賀川　昌明　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。		1	1				3.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。			2				3.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		1	1				3.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		1	1				3.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		1	1				3.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。		1	1				3.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		1	1				3.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1	1				3.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。		1	1				3.5



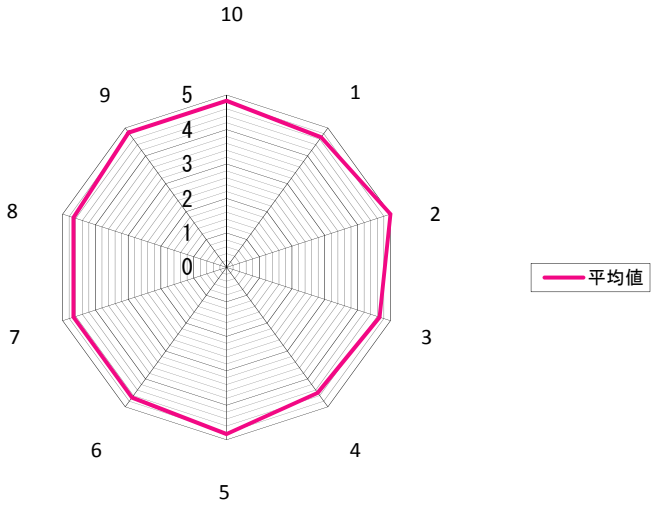
教員のコメント

当初の受講登録者は3名であったが、実際には2名のみの受講であった。授業担当者の都合でかなり特殊な日程を組まざるを得なかったことを申し訳なく思う。そのことも原因となったのか、あまり高い授業評価が得られなかった。受講生の自由記述を見ても、受講動機と授業内容とのミスマッチが推測できる。集中講義日程を組むに当たっては、受講生の都合も配慮する必要があることを痛感した。

結果報告書

授業科目名　運動学研究
評価実施日　平成26年7月11日
担当教員名　乾　信之　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5		1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5		1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	3					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	2					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	2					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



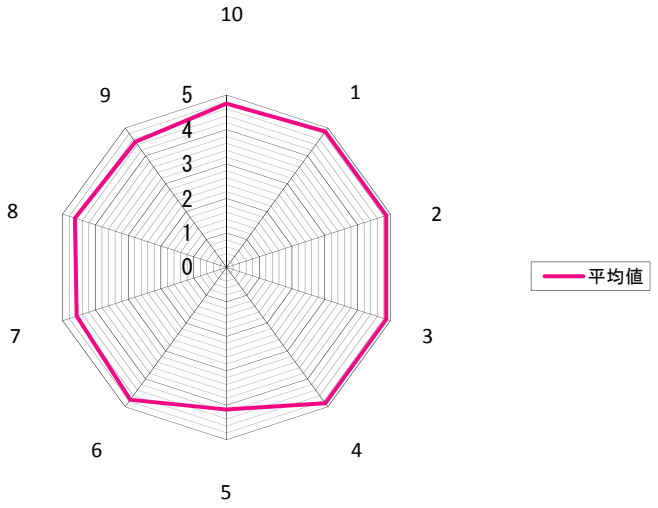
教員のコメント

この授業は前半は講義を行い，後半は各受講生に別々の論文を割り当て，受講生はその内容を発表し，質疑応答を行った。したがって，後半の受講生は主体的に課題に取り組まざるを得なかった。しかしながら，それぞれの論文に引用されている文献を調べてくるような積極的な取り組みはみられなった。

結果報告書

授業科目名　スポーツ・バイオメカニクス研究
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　松井　敦典　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	1					4.9
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1					4.9
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	1					4.9
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	1					4.9
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	4	2	1	1			4.1
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	6	2					4.8
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1	1			1	4.6
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2	1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	2					4.8



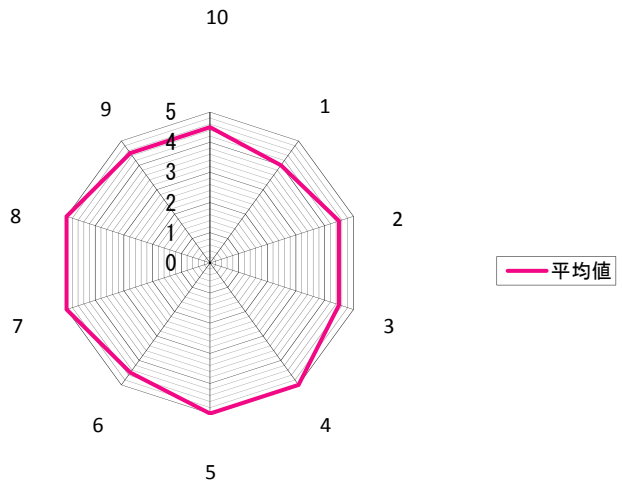
教員のコメント

本年度の授業評価の結果は、評価点の観点では例年と比較して好評であった。
それは受講生全員が長期履修学生であり、同内容の基礎的部分を一昨年度に学部授業として受講していることに関係がある。
授業者としても、昨年学んだ事項との重複を避け新たな話題を提供したり、重要な内容については再度取り扱って理解を促した。
内容が体育の技能指導に直接関係のある題材であり、また、スポーツ科学のトピックとしても親しみやすいことにも助けられている。
また、受講生が自ら調べた内容をプレゼンテーションさせ、その出来映えを全員で評価する試みも継続しており、主体的な学習を促している。
ただし、受講生によっては理解不足を解決できなかったり、逆にさらなる知識の吸収を望んでいる者もみられたようであるので、今後は受講生の度合いを確かめながら授業を改善工夫していく必要がある。

結果報告書

授業科目名　学校保健学研究
評価実施日　平成26年7月15日
担当教員名　吉本　佐雅子　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1		1				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1					4.5



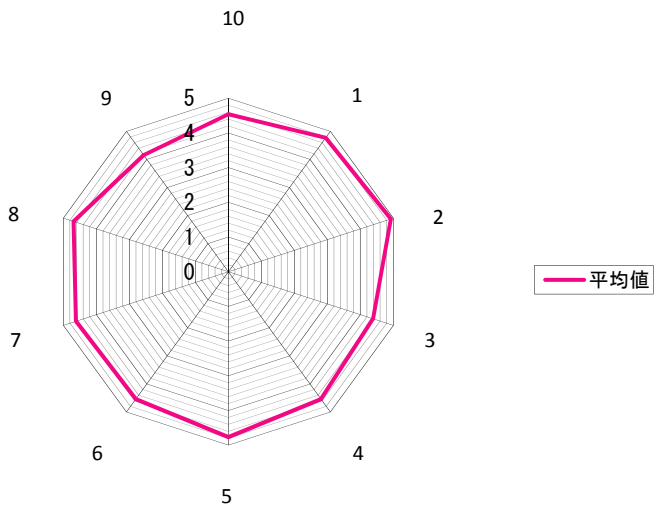
教員のコメント

受講者2名とも，すでに養護教諭の免許を持っていたため，本授業では，所属コースでの課題研究に役立つ内容を講義した。そのため，高い評価が得られたものと考える。

結果報告書

授業科目名　健康科学研究
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　廣瀬　政雄　　回答者数　13　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	3					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	8					4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	6					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	10	3					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	6					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	5					4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	4					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	7	2				4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	6					4.5



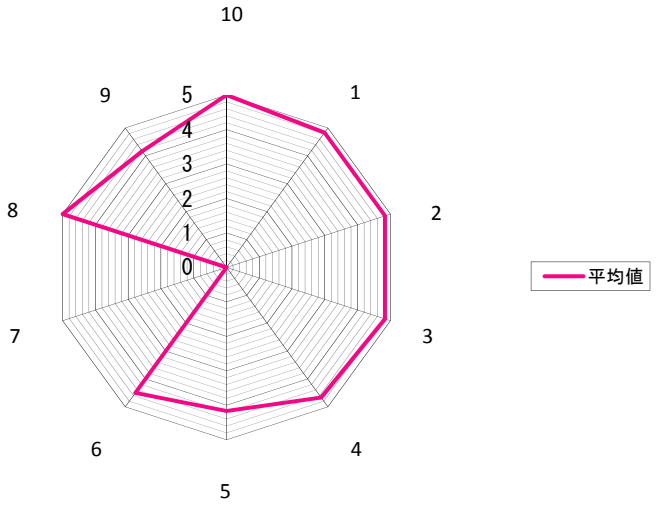
教員のコメント

現代日本人が健康に生きるためにどうすべきかについて、歴史的な面および地理的な面から大きく理解し、さらに、生きものが生きる仕組みについて細胞分子生物学的な面からの理解を加え、それが破たんした時の病気の発生する仕組みについて授業時間の中で細胞レベルで実感できるように心がけている。学校教員として必要な保健あるいは医学的な内容にも触れるようにしている。授業に積極的に取り組む項目の評価が少し低いが、後々まで生かせるような理解をしてくれればよい。

結果報告書

授業科目名　運動生理学研究
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　田中　弘之　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値 (項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1	2				4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。							
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	1				4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



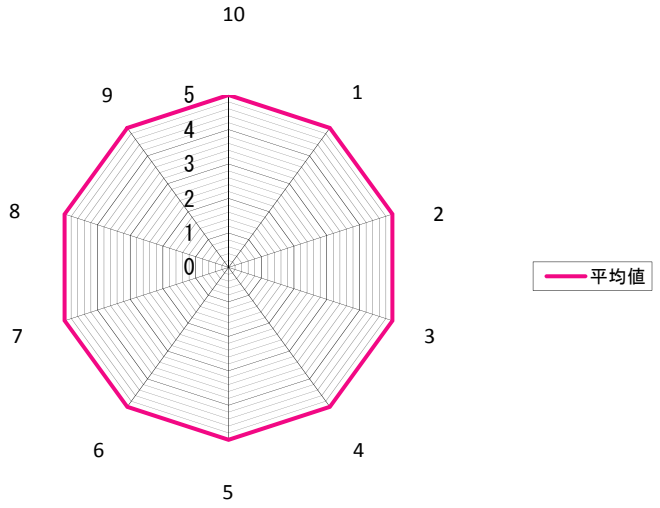
教員のコメント

評価の平均値は4.7であり，総合評価においても5.0と判断されていることから，当初の講義目的は概ね達成されたと考えられる。
『授業に主体的・積極的に取り組んだ。』については，例年，評価が分かれているが，「3」評価者の自由既述欄には，『月曜日の1限であるため，寝坊をしてしまった。』とのコメントが記されており，授業者側の検討課題ではないと思われる。
また，その他の自由記述欄の概観では，『専門的知識だけではなく，活かすことのできる形であったこと。』『参加型の授業だったので，疑問点も聞きやすかった。』『身体と教育の関係について，知識を深めることができた。』等，概ね好評であった。
改善するべき点としては，『月曜日の1限』との指摘があったほか，『進むペースが早かった。』『パワーポイントの切り替えを待ってもらえるとありがたかった。』等の記載があった。講義の進度については，例年，指摘を受け続けている事項であるが，『授業の中で，たくさんのスライドが提示されたが，見飽きず，とても良いテンポかつ大切なところは長く提示してしてくださった。』との記述もあり，他専攻の大学院生に対する講義進度にも配慮しつつ，効率的な授業展開に一層の創意工夫を重ねたい。

結果報告書

授業科目名　体育教授学研究
評価実施日　平成26年7月31日
担当教員名　綿引　勝美　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3					1	5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



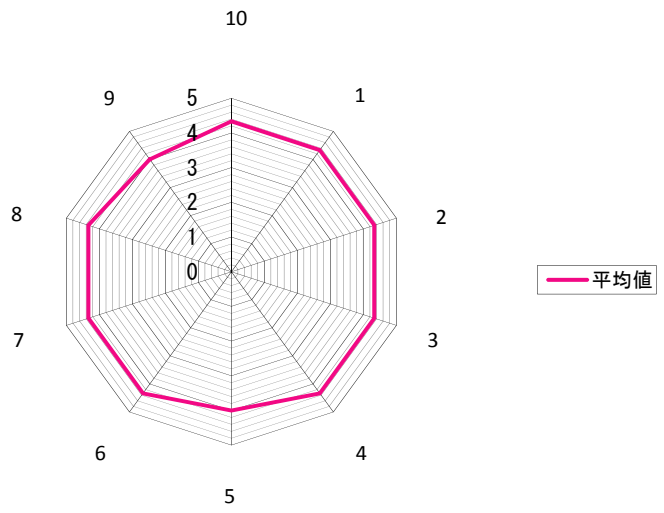
教員のコメント

授業では、受講生からの報告レポートを中心に、これまでの教員や指導者として蓄積してきた実践例を共有し、その試みの価値付けを中心に意見交換をおこなった。また、少人数であったため、受講生間での濃密な意見交換が可能であり、それに対応した資料の提示や講義内容の焦点化が可能であったため、高評価をえることができたといえよう。

結果報告書

授業科目名　情報処理研究
評価実施日　平成26年7月29日
担当教員名　菊地　章　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	2					4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2		1				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2					4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2					4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1	1				4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	2					4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	2					4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	2					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1	1				4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	2					4.3



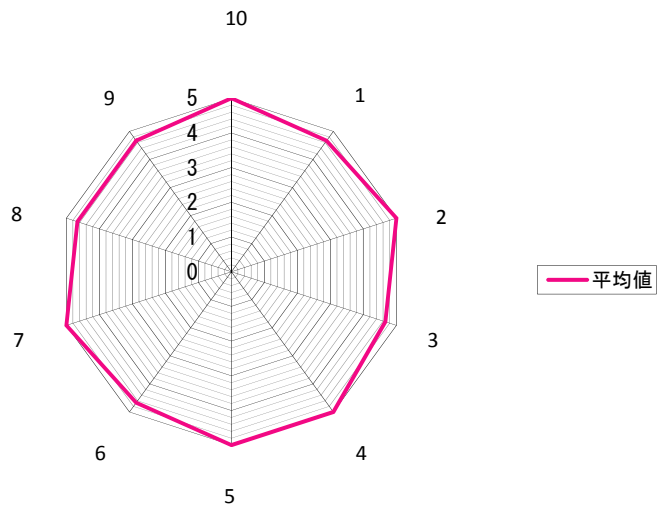
教員のコメント

受講者が小人数であったため受講者の状況を把握しながら授業を進めたつもりであったが，一人の学生は評価3を付けているのが残念である。受講者の興味関心に開きがあったものと思える。

結果報告書

授業科目名　コンピュータ科学研究
評価実施日　平成26年7月24日
担当教員名　宮本　賢治　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



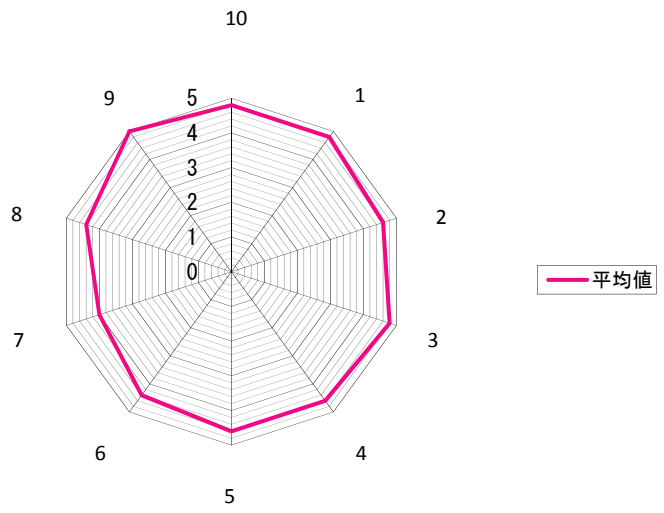
教員のコメント

人数が3人で統計的には不十分であるが、すべての項目で4.7以上という高評価が得られて満足できる結果となった。今後も授業内容や教材の一層の工夫・改善を図りたいと思う。

結果報告書

授業科目名　機械工学研究
評価実施日　平成26年7月8日
担当教員名　宮下　晃一　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4		1				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4		1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	2					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	3					4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	3	1				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	3					4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	1					4.8



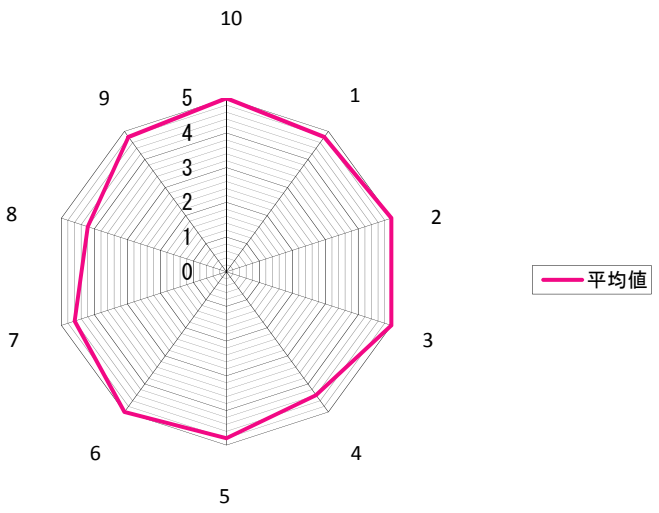
教員のコメント

概ね良好な評価を得ることができた。3D-CADや3D-printerなど最新技術を取り入れた授業であり，何人かの学生には少し難解な箇所もあったと思われるが，今後の技術に触れられたことを前向きに評価してもらえた結果であると考えている。

結果報告書

授業科目名　材料及び加工学研究
評価実施日　平成26年7月24日
担当教員名　米延　仁志　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	2					4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2	1				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



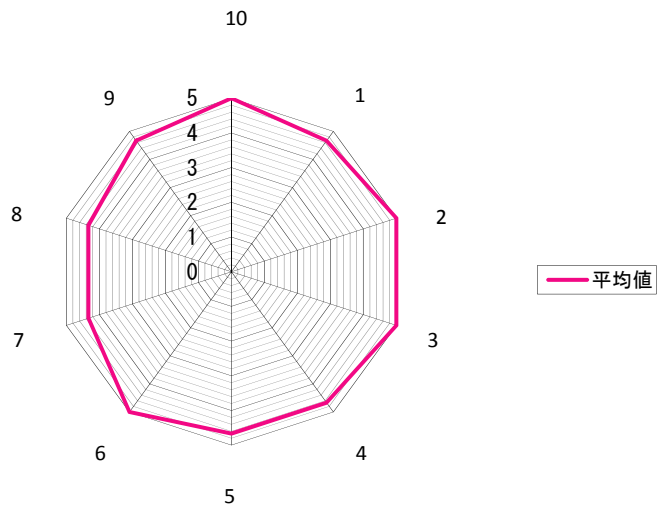
教員のコメント

受講者全員が総合評点を5点としており，高い評価が得られたと考えられる。

結果報告書

授業科目名　材料及び加工学演習
評価実施日　平成26年7月24日
担当教員名　米延　仁志　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	2					4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	2					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



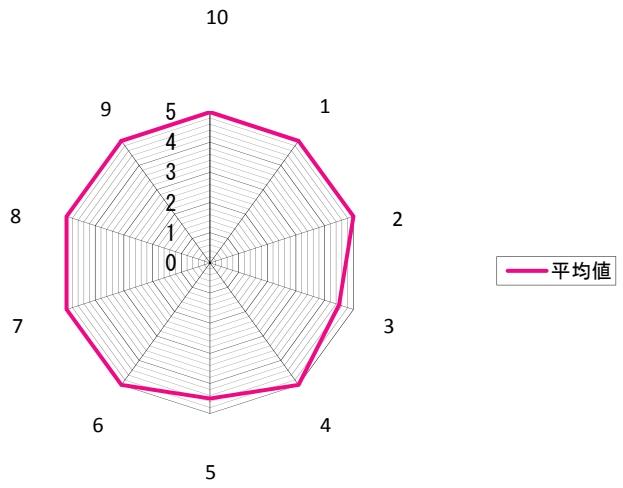
教員のコメント

受講者全員が総合評点を5点としており，高い評価が得られたと考えられる。

結果報告書

授業科目名　情報科学研究
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　伊藤　陽介　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



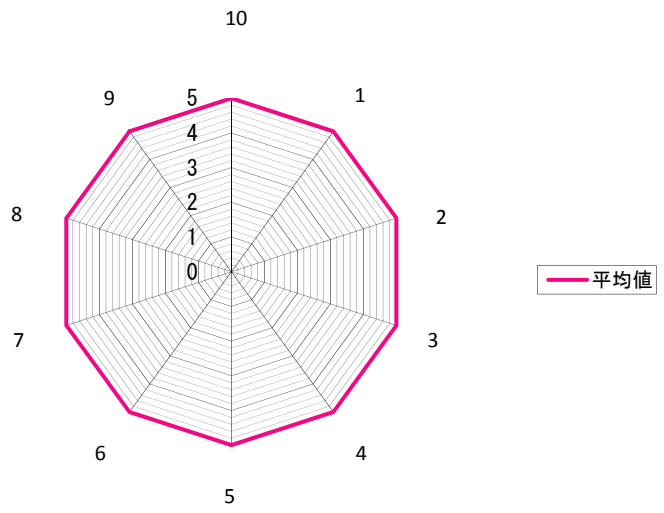
教員のコメント

授業内容に関する各評価，受講生からのコメント，総合評価などから，おおむね本授業は満足されているのではないかと推測される。しかし，学校教育と授業内容のつながりについてはより説明を加えるなどの改善は必要である。

結果報告書

授業科目名　木質材料加工法演習
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　米延　仁志,尾崎　士郎　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



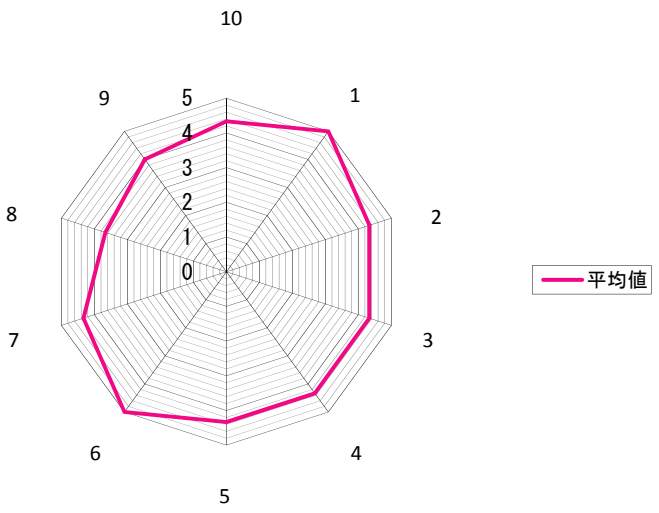
教員のコメント

受講者全員が総合評点を5点としており，高い評価が得られたと考えられる。

結果報告書

授業科目名　技術科教育研究
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　尾崎　士郎,宮下　晃一　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	2					4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2					4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2					4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	2					4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	2					4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		2	1				3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		3					4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	2					4.3

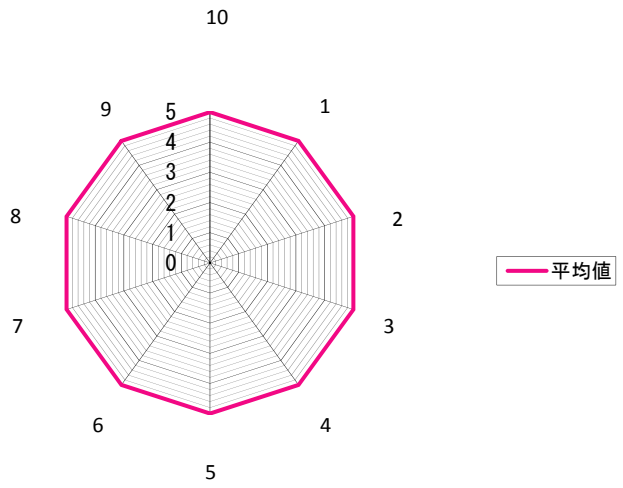


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　情報科教育研究Ⅱ
評価実施日　平成26年9月26日
担当教員名　森山　潤　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



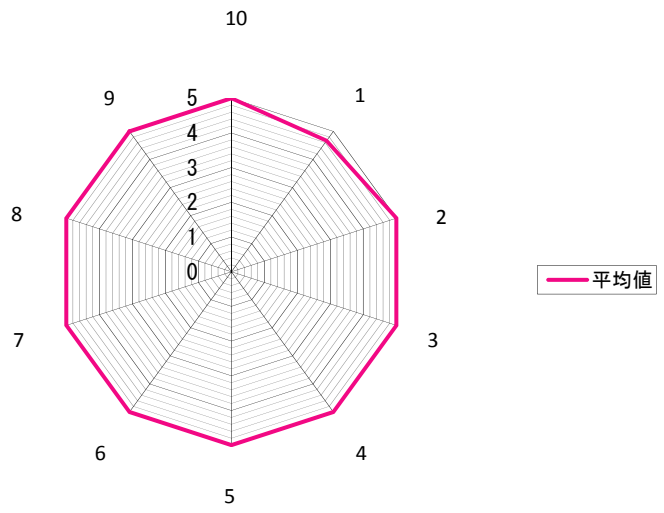
教員のコメント

少人数であったため、受講生の理解に応じた柔軟な授業進行が行いやすかった。また、問題意識を強く持った優れた院生さんが受講してくれたことで、ディスカッションを深めることができた。今後も、院生さんのニーズを捉えながら、授業の目標が達成できるように、授業改善を進めていきたい。

結果報告書

授業科目名　教育と情報活用
評価実施日　平成26年9月30日
担当教員名　益子　典文　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



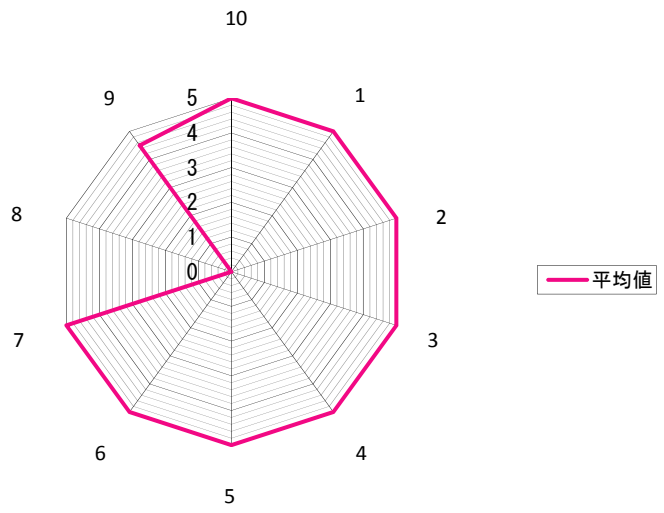
教員のコメント

少人数(3名)の講義であったので，評価結果は参考値である。
受講生の意見をとりあげながら十分な議論に基づく講義を展開できた。

結果報告書

授業科目名　家族・ジェンダー研究
評価実施日　平成26年7月31日
担当教員名　黒川　衣代　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。							
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



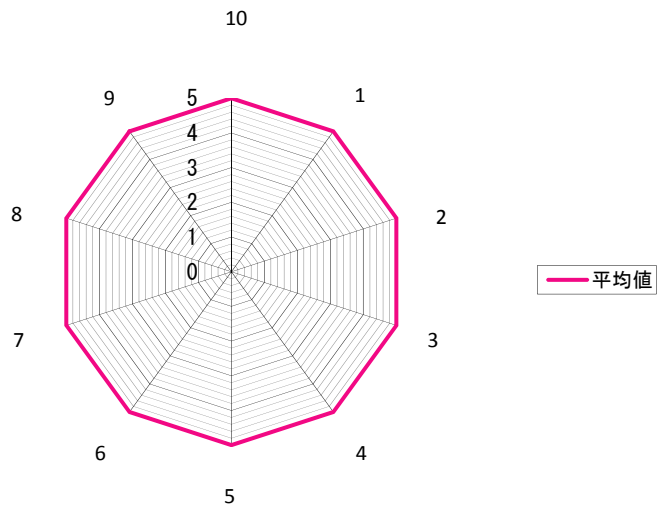
教員のコメント

受講生が2名と少数で、ともに生活・健康系コース(家庭)の学生ではなかったので、学生の希望する学習内容を考慮し、また既習レベルに合わせた説明や資料を心がけた。2名の受講生は、大変意欲的な学習態度で、課題にも熱心に取り組んでいた。そのことが担当教員の刺激となり、好循環を生んだように思う。それらが反映された授業評価であると考える。

結果報告書

授業科目名　食生活学研究
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　松永　哲郎,西川　和孝　　回答者数　1　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



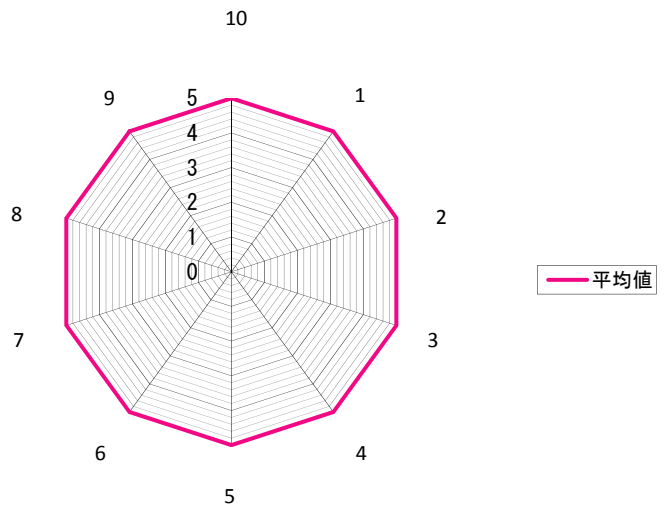
教員のコメント

本講義は、大学院生対象の家庭科食物分野の内容である。講義だけでなく、実験・実習を取り入れることによって、理解を深められるよう工夫した。授業評価は、概ね問題なかったと思われる。今後も講義内容がよいものとなるよう改善をしていきたい。

結果報告書

授業科目名　住生活学研究
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　金　貞均　　回答者数　1　人

質　問　項　目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



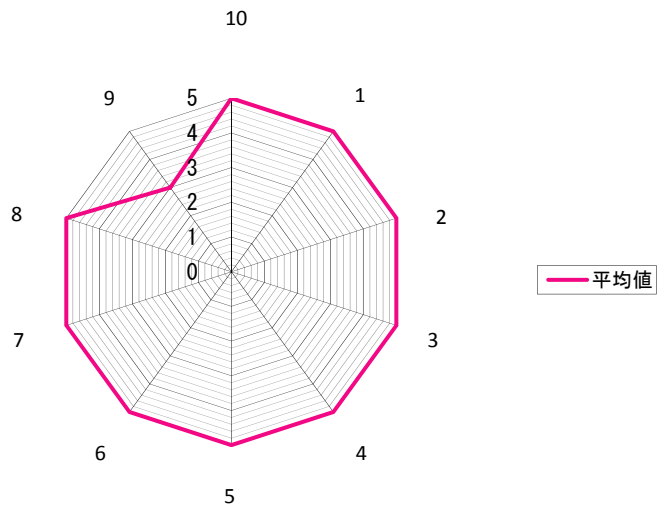
教員のコメント

本年度は非専攻者1名のみの受講で、受講生の希望に配慮しながら授業を進めた。授業評価の結果は上記のとおりで、ここでは自由記述欄の意見を紹介する。[2]この授業でよかったと思われる点について、「住生活学の基本的要素やそのことが健康と文化へ及ぼす様々の重要な働き・効果等を学習することができて本当に役に立ち、また興味深く学習できた」と記述し、[3]この授業で改善すべき点についての記述はなかった。[4]質問(9)「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」について、あなたが回答を選択した理由については、「以前から住教育について大変興味があり、今回の授業でその希望が満たされ、充実した学習内容が習得できた。授業内容を踏まえた課題製作やレポートも喜びを持って作製できた。」という感想が書かれていた。受講生は専門外ではあるが非常に熱心に授業に参加し、各テーマに対して意見を交わしながら授業を進めることができた。受講生の希望に応え、結果的に受講生が授業に満足しているので、これを励みに今後一層良い授業を工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名　家庭科教育学研究
評価実施日　平成26年7月24日
担当教員名　速水　多佳子　　回答者数　1　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。			1				3.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



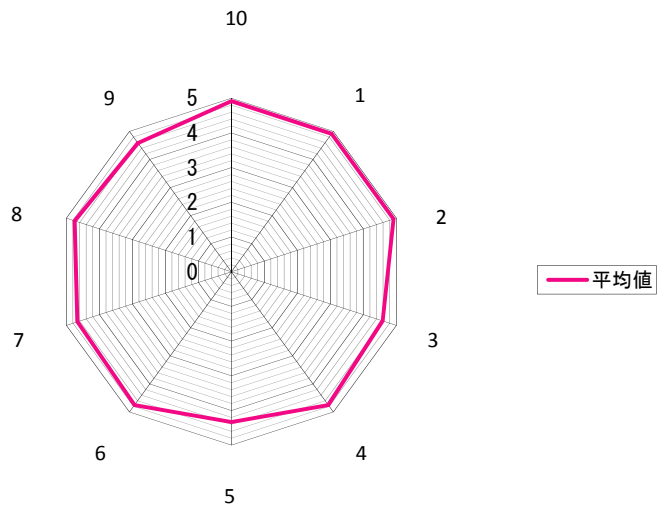
教員のコメント

家庭コースに在籍している学生が少ないこともあり、本授業の受講生は1名だけであった。その学生の大学院修了後の進路希望が小学校教員であったため、本人の希望もあり、テキストを用いて小学校家庭科の内容を基礎から見直していくことを中心に授業を進めた。基礎的な内容に十分に時間を取って、丁寧にポイントを抑えていくことができ、教員としての指導方法などについても具体的に扱うことができた。しかし、受講生が1名と少なく、受講生の毎回のレポート内容についても、本人が授業評価アンケートに記したように、「むらがあった」ため、内容を深めることにも限界があった。来年度は、複数の受講者を期待したい。

結果報告書

授業科目名　国際教育人間論
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　石村　雅雄,近森　憲助,小澤　大成,石坂　広樹　回答者数　12　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	3	1				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	3					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	8					4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	3					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	4					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10	1	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	5					4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	1					4.9



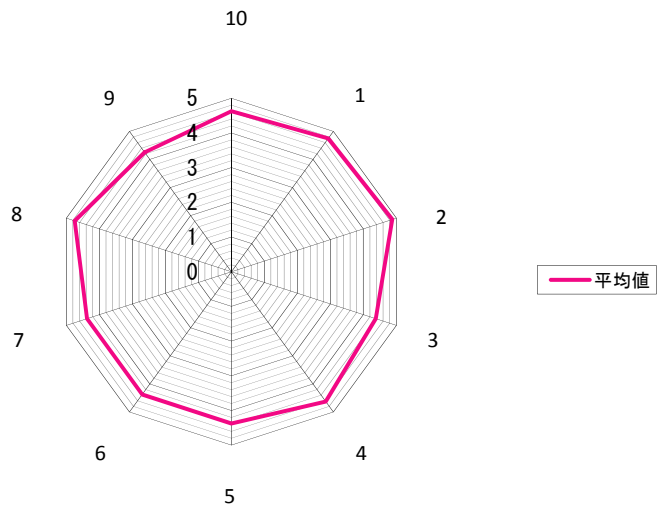
教員のコメント

授業の進む速さ以外の項目について、4.5以上の高い評価が得られている。その理由としては、担当者4名が国際教育支援について、様々なアプローチを通して、受講生に「支援」について考えるきっかけを提供したこと、担当者間の授業内容のつながりを考慮し、また、学生に一連の講義内容について振り返る機会を「総合討論」という形で提供できたことなどが、学生の評価に関するコメントを通して知ることができる。

結果報告書

授業科目名　教育研究・調査
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　石坂　広樹,小澤　大成　　回答者数　8　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7		1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1	2				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1	1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	2		1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	3	1				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7		1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5		3				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	1	1				4.6



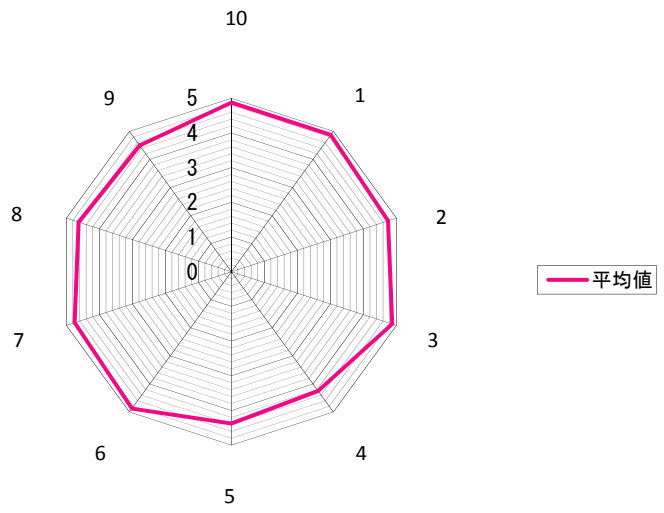
教員のコメント

一部学生のEXCELの習熟度が低かったため丁寧に指導したり、補習を行った。補習の時間帯をどの学生も来れるようにと配慮した。
また、量的調査だけでなく質的調査についても取り扱うようにしたが、今後はもう少し質的調査の実習を入れるようにしたい。

結果報告書

授業科目名　外国語運用能力強化演習Ⅰ
評価実施日　平成26年7月25日
担当教員名　石村　雅雄,石坂　広樹　　回答者数　8　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2	2				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	5					4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	1					4.9



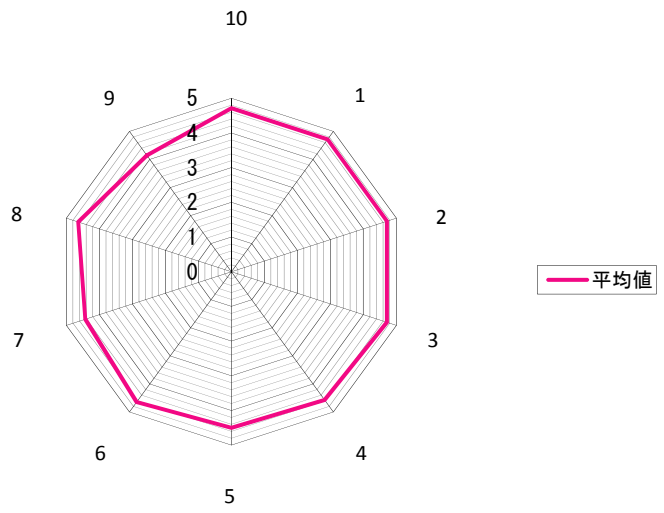
教員のコメント

実践的な内容を提供する演習であったが、受講学生もそれを適切に受けとめ、評価もしてくれたと自負している。来年度に向けては、受講生の評価を如何にするかをより丁寧に説明していきたい。

結果報告書

授業科目名　国際理解教育特論Ⅰ
評価実施日　平成26年7月28日
担当教員名　近森　憲助,小澤　大成　　回答者数　14　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	6					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	3	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	3	1				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	6	1				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10	3	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3	3	1			4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	2	1				4.7



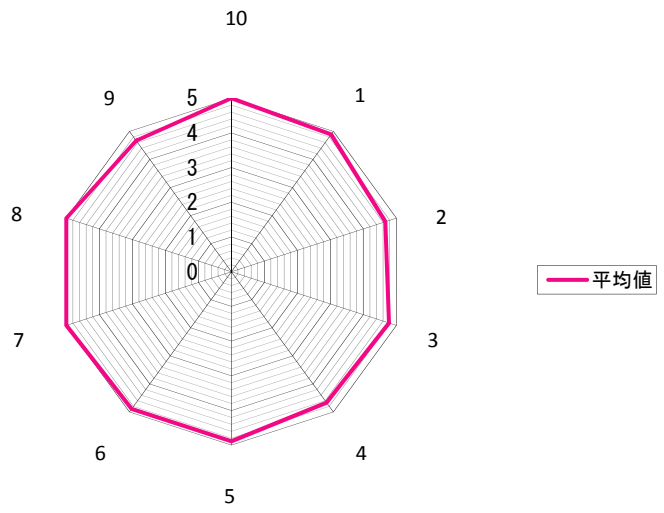
教員のコメント

比較的評価は高いが、コメントをみると「事例紹介」や「授業づくり」など実践に直接かかわる内容が乏しかったことに改善の必要性があることがわかる。今後は、実践事例の分析、授業づくりへの取り組みなど、もっと国際理解教育の実践につながる内容を多く取り入れ、受講生のニーズにこたえていく必要があることを痛感した。

結果報告書

授業科目名　国際教育総合セミナーⅠ
評価実施日　平成26年7月29日
担当教員名　石村　雅雄,近森　憲助,小澤　大成,石坂　広樹　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	1	1				4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8			1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9						5.0



教員のコメント

全ての質問項目について高い評価を得ていることが見て取れる。その最大の理由は受講生自らが自らの問題関心を踏まえて、発表をまとめ、それを他の受講生や授業担当教員の前で基本的に英語で発表する、という受講生の問題関心を源泉とする授業であるからであろう。授業におけるディスカッションのなお一層の活性化が今後の課題である。